神奈川県立近代美術館

年2015報

ANNUAL REPORT

神奈川県立近代美術館

年2015報

ANNUAL REPORT

目次

［凡例］
・本年報に記載する人名は、敬称略とする。
・各学芸員の役職は、「職員一覧」（p.62）を参照のこと。

あいさつ ……3

展覧会活動
2015年度展覧会　会期・観覧者数一覧 ……4
葉山館 ……5
鎌倉館、鎌倉別館 ……13
鎌倉館開館64周年記念週間 ……21

教育普及活動
教育普及活動 ……24
単独イベント ……24
展覧会関連イベント ……25
学校・地域向けプログラム ……30
視察受入状況 ……32
美術図書室 ……32
美術館紹介・広報　掲載実績 ……33
刊行物 ……35

作品収集管理活動
購入・寄贈状況 ……36
寄託状況 ……36
新収蔵作品一覧 ……36
館外貸出作品一覧 ……43
修復報告 ……45
修復作品一覧 ……48

調査研究活動
調査・研究報告 ……49
イリヤ・レーピン《ザポロージャのコサック》のふたつの複製画の
文化学的考察と《夕べの宴》関連作品の再発見について
―「レーピン展」（2012―2013年）後の国内調査研究報告　［籾山昌夫］ ……49
新収蔵作品：玉村方久斗の板絵連作について　［橋 秀文］ ……53
調査研究の発表・執筆等 ……56
外部資金の活用 ……56
「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備 ……57
講師派遣・外部委員等就任 ……58

運営・管理報告
概況（沿革・所掌事務・施設の状況） ……59
PFI事業の概要 ……59
収入・支出の状況 ……59
関係法規 ……60
組織 ……61
職員一覧 ……62

表紙：パウル・クレーのデッサン（1923 年4 月）『宗像久敬旧蔵サイン帳』当館蔵

あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2015 年度年報』を刊行いたします。

1951 年 11 月 17 日に古都鎌倉の中心部にある鶴岡八幡宮境内に産声をあげた当館にとって、2015 年度は大きな区切りの年となりました。土地所有者である鶴岡八幡宮と神奈川県のあいだの土地契約が満了となり、神奈川県立近代美術館は鎌倉館での活動を終えることとなったのです。長年にわたる同館での活動へのご理解、ご支援に対して関係各位に改めて心より御礼申し上げる次第です。

鎌倉館の旧館（1951 年竣工）のみ解体・除却をせず、2016 年 11 月に県指定重要文化財に指定し、1950 年代を代表する建築として将来に残すこととなりました。鎌倉館は、2003 年の葉山館開館により三館体制となった当館の美術館活動のたいせつな拠点のひとつでありましたが、今後は葉山館と鎌倉別館の二館体制を基本として地域との関係をより緊密に深めながら、世界的な視野を失うことなく活動してゆく所存です。

神奈川県は多くの地方公共団体のなかでもいち早く、文化こそが復興に貢献すると信じ、文化施設の整備に取り組みます。国に先駆けて、近代美術館を 1951 年に、音楽堂と図書館を 1954 年に開館させています。しかも、それぞれの設計を担当したのはル・コルビュジエの薫陶を戦前にパリで得た坂倉準三と前川國男でした。それらは「近代」と呼ばれる精神がもっとも輝いていた時代の産物であり、1950 年代の世界的なモダニズム建築の動きのなかでも最良の成果に数えられる傑作建築であったのです。

鎌倉館では、「鎌倉からはじまった。1951 － 2016」と題して 65 年間におよぶ同館での活動を三期にわけ鎌倉別館も会場に使用しご紹介いたしました。あわせてギャラリー・トーク、建築ツアー、講演会、パフォーマンスなど多様なプログラムを用意して、当館の「近代美術館」としての歩みを回顧し、未来に向けてそこからヒントをあらためて探る機会といたしました。葉山館では、「日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く」「ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち」「若林奮 飛葉と振動」「ヘレン・シャルフベック」の 4 つの企画展を開催し、アジア近代絵画、フランスの近代版画、現代彫刻、北欧の近代美術など、近現代の多様な美術表現をご紹介いたしました。

その他、研究、教育普及など、美術館活動全般の詳細を本年報で一覧していただけます。ご一読いただき忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚です。

2017 年 3 月

神奈川県立近代美術館長
水沢 勉

展覧会活動

2015 年度展覧会　会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数（人） 有料	無料	うち中学生以下	合計	他館との開催協力など
葉山館	ふたたびの出会い 日韓近代美術家のまなざし ―『朝鮮』で描く	4/4 ｜ 5/8	31日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	2,706	1,700	80	4,406	巡回： 新潟県立万代島美術館 岐阜県美術館 北海道立近代美術館 都城市立美術館 福岡アジア美術館
	ムルロ工房と20世紀の巨匠たち パリが愛したリトグラフ ―ピカソ、マティス、シャガール、ミロ、ブラック	5/24 ｜ 7/20	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	4,826	2,296	375	7,122	巡回： DIC 川村記念美術館 島根県立美術館 北九州市立美術館 分館
	若林奮　飛葉と振動	8/15 ｜ 12/23	114日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	7,855	3,741	454	11,596	巡回： 名古屋市美術館 足利市立美術館 府中市美術館 うらわ美術館
	フィンランドを生きた女性画家の軌跡 ヘレン・シャルフベック ―魂のまなざし	1/10 ｜ 3/27	69日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	8,916	2,508	321	11,424	巡回： 東京藝術大学大学美術館 宮城県美術館 奥田元宋・小由女美術館
小計			264日			24,303	10,245	1,230	34,548	
鎌倉館	鎌倉からはじまった。1951―2016 ＰＡＲＴ１：1985―2016 近代美術館のこれから	4/11 ｜ 6/21	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	6,443	2,725	1,094	9,168	
	鎌倉からはじまった。1951―2016 ＰＡＲＴ２：1966―1984 発信する近代美術館	7/4 ｜ 10/4	82 日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	14,741	4,249	2,401	18,990	
	鎌倉からはじまった。1951―2016 ＰＡＲＴ３：1951―1965 「鎌倉近代美術館」誕生	10/17 ｜ 1/31	88日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	59,258	11,342	2,935	70,600	
小計			233日			80,442	18,316	6,430	98,758	
鎌倉別館	鎌倉からはじまった。1951―2016 日本画の部　併陳：新収蔵作品	4/11 ｜ 6/21	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	3,555	1,043	118	4,598	
	鎌倉からはじまった。1951―2016 版画の部	7/4 ｜ 10/4	82日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	5,798	1,408	501	7,206	
	鎌倉からはじまった。1951―2016 工芸と現代美術	10/17 ｜ 1/31	88日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	19,665	3,237	333	22,902	
小計			233日			29,018	5,688	952	34,706	
合　計	10 展覧会					133,763	34,249	8,612	168,012	

葉山館

713

ふたたびの出会い　日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く

Reappreciated: Korean and Japanese Modern Artists in the Korean Peninsula, 1890s to 1960s

「朝鮮」という「場」と美術家それぞれがどのようにかかわったのかを視点の基盤に置き、20 世紀前半の日韓の美術家たちの姿を浮かび上がらせた展覧会。「朝鮮」在住日本人画家、審査員や旅行者として「朝鮮」を来訪した日本人画家、日本留学経験韓国人画家、「朝鮮」半島内で日本人画家と交流した韓国人画家など各々の立場をみることで、従来の日韓近代美術交流史が行ってきた政治や展覧会制度・教育制度の枠組みによる視点からでは見えてこなかった彼らの実態を初めて提起した。藤島武二、土田麦僊、山口蓬春、浅川伯教・巧、山口長男、鳥居 昇、高 羲東（コ・フィドン）、李 仁星（イ・インソン）、李 仲燮（イ・ジュンソプ）、李 快大（イ・クェデ）、金 秉騏（キム・ビョンギ）ら、日韓 120 余人の 200 点を越える作品で見渡し、社会的矛盾を抱えながらも美術家としての自分の実現を目指した彼らのまなざしの交わりを探った。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援：外務省、駐日韓国大使館 韓国文化院、駐横浜大韓民国総領事館
協力：光州広域市立美術館
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網、大韓航空、LG エレクトロニクス
助成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団、美術館連絡協議会
会期：2015 年 4 月 4 日（土）－ 5 月 8 日（金）
休館日：月曜日（5 月 4 日は開館）
開催日数：31 日
出品総点数：作品 227 点 資料 4 点（巡回展総作品数 273 点 資料 6 点）
＊4 月 20 日（月）に一部展示替
総観覧者数：4,406 人
担当学芸員：李 美那、籾山昌夫
展覧会監修：金 炫淑（成均館大學校）
学術協力：韓国国立現代美術館、金 惠信（沖縄県立芸術大学）、横須賀美術館、本展研究会
本展研究会：青山訓子（岐阜県美術館）、原田正俊（都城市立美術館）、井内佳津江（北海道立近代美術館）、高 晟埈（新潟県立万代島美術館）、李 美那（神奈川県立近代美術館）、ラワンチャイクン寿子（福岡アジア美術館）、冨田康子（横須賀美術館）、本展研究会顧問：水沢 勉（神奈川県立近代美術館）、水田順子（北海道立近代美術館）
巡回情報：新潟県立万代島美術館、岐阜県美術館、北海道立近代美術館、都城市立美術館、福岡アジア美術館

関連企画
1）担当学芸員によるギャラリー・トーク　4 月 18 日（土）、4 月 28 日（火）、4 月 29 日（水・祝）、5 月 3 日（日・祝）、5 月 4 日（月・祝）、5 月 6 日（水・振休）
2）先生のための特別鑑賞の時間　5 月 2 日（土）
3）館長によるトーク　5 月 2 日（土）　話し手：水沢 勉、聞き手：李 美那
4）子どもの日スペシャル・ギャラリーツアー　5 月 5 日（火・祝）
5）日韓文化交流プログラム
第一部　4 月 4 日（土）　会場：当館講堂　特別講演会「愛と叛逆―1930 年代東京　アヴァンギャルド洋画研究所と文化学院」 講師：金 秉騏（画家 / 本展出品作家）　聞き手：水沢 勉、金 惠信（沖縄県立芸術大学）、李 美那
第二部　4 月 5 日（日）　会場：国際交流基金ビル　ホール「さくら」 国際シンポジウム「複層―日韓近代美術家たちのまなざしが開く新たな地平」 全体進行・総合司会：冨田康子（本展研究会会員・横須賀美術館）、あいさつ：井内佳津江（本展研究会会長・北海道立近代美術館）、展覧会内容紹介：高 晟埈（本展研究会会員・新潟県立万代島美術館）、本シンポジウムの目的と問題設定：李 美那（本展研究会会員）、発表者 1：冨井正憲（漢陽大学）・コメント 川村 湊（法政大学）、発表者 2：金 仁惠（韓国国立現代美術館）・コメント 水沢 勉（本展研究会顧問）、発表者 3：金 炫淑（本展韓国側監修者・成均館大學校）・コメント 小勝禮子（栃木県立美術館）、発表者 4：李 美那・コメント 後小路雅弘（九州大学大学院）、ディスカッション：モデレーター 水沢 勉、おわりのあいさつ：井内佳津江
第三部　4 月 5 日（日）　会場：国際交流基金ビル　イベントスペース「けやき」 国際シンポジウム交流会
主催：「日韓近代美術家のまなざし」展研究会・国際交流基金
後援：文化資源学会
助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団
協力：神奈川県立近代美術館・新潟県立万代島美術館・岐阜県美術館・北海道立近代美術館・都城市立美術館・福岡アジア美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会
協賛：眞露株式会社

ポスター

カタログ

資料編増補改訂版

カタログ

サイズ：25.1 × 19.0 cm、第 1 版 4 月 1 日発行 385 ページ、第 1 版別冊『資料編 増補改訂版』7 月 9 日発行 25.1 × 19.0 cm、104 ページ、第 2 版（資料編 増補改訂）7 月 9 日発行 387 ページ、販売価格：2,400 円（税込）

多色 371 図、単色 25 図　日韓バイリンガル

編集：坂井基樹＋諸岡なつき＋浅野靖菜［坂井編集企画事務所］

翻訳：ポリー・バートン、崔 在爀、日比野民蓉、金 惠信、金 智英、金 正善、高 晟埈、盧ユニア、徐 潤雅

装幀：宗利淳一＋齋藤久美子

地図：河合理佳

写真撮影：岩根悠樹、梶原敏英、李 東勲、大滝恭昌、佐藤 勉、竹前 朗、辻美津夫

DTP：株式会社アド・エイム

印刷：株式会社アイワード

発行元：福岡アジア美術館、岐阜県美術館、北海道立近代美術館、神奈川県立近代美術館、都城市立美術館、新潟県立万代島美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

発行日：第 1 版　2015 年 4 月 1 日、第 2 版　2015 年 7 月 9 日

目次

概要
ごあいさつ
謝辞
凡例
「朝鮮」をめぐるすれ違いの視線（金 炫淑）
行き来するひと、もの、考え、そして造形―20 世紀前半・北東アジアの流動性のなかで（井内佳津恵）
Ⅰ　「朝鮮」との出会い
　開港から 20 世紀初めにおける日本人画家の朝鮮半島渡航と活動（姜 玟奇）
　近代における「朝鮮」という物語のはじまり（山梨絵美子）
　古代への憧憬と朝鮮風俗画の復興（金 炫淑）
　「朝鮮」への憧憬と工芸（冨田康子）
　高麗青磁の「復興」（冨田康子）
　浅川伯教の「京城」ネットワーク（冨田康子）
　柳宗悦―朝鮮の美を発見する（柳 枝延）
Ⅱ　近代「朝鮮」の風景
　近代「朝鮮」の風景　「モダンコロニアル都市―『京城』」（冨井正憲）
　都市京城のイメージ（金 仁惠）
　古都と名所―植民地朝鮮への美術旅行（高 晟埈）
　金剛山観光の大衆化と金剛山図の流行（金 炫淑）
Ⅲ　近代人の日常
　モダン都市京城における女性イメージ―「遊女」と「良妻」（金 惠信）
　近代余暇文化と昌慶苑の花見（金 炫淑）
　李王家美術館（李 美那）
　在朝鮮日本人漫画家（高 晟埈）
　モダニスト・李箱の「京城」（川村 湊）
Ⅳ　グループ活動と師弟関係
　「朝鮮南画院」と日本人書画家たち（黄 ビンナ）
　美術教育と書画協会（崔 烈）
　朝鮮美術展覧会（ラワンチャイクン寿子）
　東京美術学校・帝国美術学校・文化学院（李 美那）
　女子美術学校と刺繍（冨田康子）
　在野グループ活動と学校における活動―日本人の動向を中心に（井内佳津恵）
Ⅴ　エピローグ
　終戦と光復（崔 烈）
　越北画家（高 晟埈）
　日韓近代美術 －二重性を越えて（李 美那）
作品解説
作家解説
グループ解説
本展関連年表
Intersecting Views of the Korean Peninsula (KIM Hyunsook)
People, objects, ways of thinking, and art in flux – Riding the northeast Asian current during the first half of the 20th century (IUCHI Katsue)
Korean and Japanese Modern Art: Progressing Beyond Duality (LEE Mina)
主要参考文献
奥付
正誤表（第 2 版のみ）

関連記事

▼展評・解説など

- 井内佳津恵「展覧会紹介 日韓近代美術家のまなざし『朝鮮』で描く」『美連協ニュース』、2015 年 2 月号、p.27
- 「20 世紀前半、韓日美術の多元的交流「近代化」を描いた韓国の画家 朝鮮文化に注目した日本の美術家」『東洋経済日報』、2015 年 3 月 27 日、8 面
- 村田 真「artscape レビュー ふたたびの出会い 日韓近代美術家のまなざし『朝鮮』で描く」『ウェブマガジン アートスケープ』、2015 年 5 月 15 日号（4 月 4 日アップ）
- 「美術で見る 日韓の近代」『読売新聞』、2015 年 4 月 5 日、30 面
- 李 美那「「国」越えた「生」のあかし」『神奈川新聞』、2015 年 4 月 6 日、12 面
- 「眼を見張る鮮やかさ 迫真の 20 世紀前半の絵画 巡回展 構想 5 年でスタート」『統一日報』、2015 年 4 月 8 日、6 面
- 岸 桂子「複雑で豊かな時代」『毎日新聞』、2015 年 4 月 8 日夕刊、6 面
- 「「韓流」「日流」が成熟化―文学、映画、美術、演劇、音楽など交流拡大―」『東洋経済日報』、2015 年 4 月 10 日
- 窪田直子「半島での互いの活躍発掘」『日本経済新聞』、2015 年 4 月 15 日、40 面
- 渡部恵子「日本統治下 多様な作品群」『読売新聞』、2015 年 4 月 16 日、21 面
- 李 美那「日韓近代美術家のまなざし　上　理想の東洋女性を表現」『読売新聞』、2015 年 4 月 16 日、30 面
- 李 美那「日韓近代美術家のまなざし　下　離れた家族との再会願う」『読売新聞』、2015 年 4 月 17 日、32 面
- 「国交正常化 50 周年 文化交流で相互理解を」『東洋経済日報』、2015 年 4 月 17 日、7 面
- 宮田徹也「東アジアの美術研究を紹介」『新かながわ』、2015 年 4 月 19 日、2 面
- アライ＝ヒロユキ「文化の話題　美術で読み解く近代日韓 知られざる表現を発掘」『しんぶん赤旗』、2015 年 4 月 24 日、9 面
- 「『ふたたびの出会い』韓日近代美術家のまなざし」『統一日報』、2015 年 4 月 29 日、4 面
- 藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 今までの視点より深く ふたたびの出会い」『神奈川新聞』、2015 年 5 月 1 日、11 面
- 金 順姫「大波小波 美術史界での日韓交流」『東京新聞』、2015 年 5 月 1 日夕刊、7 面
- 本江邦夫、入江一子「今日は、ホンネで　洋画家入江一子　シルクロードの色彩と「朝鮮」の原風景」『月刊美術』、2015 年 6 月号、pp.72-77
- 武居利史「現実を生きた作家たちの姿」『前衛』、2015 年 6 月号、pp.164-165
- 丸山ひかり「植民地下の画家に光」『朝日新聞』、2015 年 6 月 17 日夕刊、4 面
- 住友文彦「アートの地平から 表現通して触れる歴史」『毎日新聞』、2015 年 6 月 27 日、12 面
- 沢山 遼「「朝鮮」表象をめぐる事実と痕跡」『美術手帖』、2015 年 7 月号、pp.164-165
- 特集①「日本人画家 “ 朝鮮 ” を描く」『art in culture』、韓国、2015 年 7 月号、pp.67-95
- 特集②インタビュー　李 美那「韓日近代美術史研究の新地平」『art in culture』、韓国、2015 年 7 月号、pp.96-101
- 特集③井内佳津恵「行き来するひと、もの、考え、そして造形（展覧会図録から転載）」『art in culture』、韓国、2015 年 7 月号、pp.102-111
- 李 美那「2015 年美連協大賞　日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く」『美連協ニュース』、2016 年 5 月号、p.4

▼テレビ番組

NHK Eテレ日曜美術館「アートシーン」2015 年 4月26日午前9時45分－（再放送：同日午後 8 時 45 分－）

▼展覧会紹介：4 紙（4 回）／5 誌（5 回）

▼情報掲載：5 紙（19 回）／12 誌（19 回）

会場風景

葉山館

714

ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち　パリが愛したリトグラフ―ピカソ、マティス、シャガール、ミロ

Atelier Mourlot et la lithographie du XXème siècle

18 世紀にドイツで発明されたリトグラフ（石版画）は、写真以前のイメージ伝達手段として 19 世紀のフランスで報道・出版・広告印刷に重用されたが、20 世紀のパリで芸術的表現として大きく花開いた。1921 年、フェルナン・ムルロは兄とともに父から受け継いだ印刷所をムルロ兄弟社と改名し、版画工房として活動をはじめた。1930 年に工房が手がけたドラクロワ回顧展（ルーヴル美術館）のポスターを機に、その高い芸術性が認められ、マティスやデュビュッフェ、さらに戦後はピカソやシャガールがムルロの工房でいくつもの傑作を制作した。画家（アーティスト）と職人（アルティザン）の協同作業が版画芸術に隆盛をもたらした 20 世紀パリのリトグラフ。ムルロ工房が手がけた版画・芸術雑誌・ポスターなどのオリジナル作品と、リトグラフ制作に用いられる道具、プレス機、さらに製作工程をしめす映像資料を上映し、今なお可能性と魅力にあふれるリトグラフの豊かな世界を紹介した。

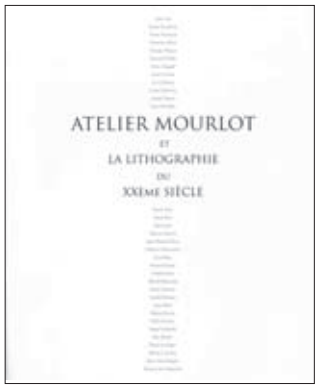
主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
特別協力：うらわ美術館
後援：在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
会期：2015 年 5 月 24 日（日）－ 7 月 20 日（月・祝）
休館日：月曜日（7 月 20 日は開館）
開催日数：50 日
出品総点数：295 点（巡回展総作品数　625 点）
総観覧者数：7,122 人
担当学芸員：長門佐季、三本松倫代、川人未来
企画・構成：長門佐季
巡回情報：DIC 川村記念美術館、島根県立美術館、北九州市立美術館分館

関連企画
1）　担当学芸員によるギャラリー・トーク　5 月 30 日（土）、7 月 4 日（土）
2）　先生のための特別鑑賞の時間　7 月 4 日（土）
3）　ワークショップ「キッチンリトグラフをつくろう！」　7 月 18 日（土）（※詳細は p.26）

カタログ
サイズ：24.2 × 20.1cm、236 ページ、販売価格：2,800 円（税込）
多色 405 図、単色 20 図
編集：横山由紀子（DIC 川村記念美術館）、長門佐季、柳原一徳（島根県立美術館）、那須孝幸（北九州市立美術館）、河村朱音（北九州市立美術館）
執筆：セリーヌ・シシャ＝キャステクス（フランス国立図書館）、益田祐作（美術史家、元アトリエ MMG 主宰）、柳原一徳、横山由紀子、橋 秀文、長門佐季、三本松倫代、那須孝幸、河村朱音、奥田亜希子（北九州市立美術館）
翻訳：小川紀久子、横山由紀子
デザイン：馬面俊之
制作：コギト
発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

目次
ゼーネフェルダーからムルロへ―リトグラフ、その発明から確立に至るまで（セリーヌ・シシャ＝キャステクス）
ムルロ印刷所―メティエとアミティエの結晶（益田祐作）
ムルロ工房関連　パリ市街図
カタログ
Ⅰ　19 世紀のリトグラフ
Ⅱ　ムルロ工房の仕事：巨匠たちのリトグラフ
Ⅲ　ムルロ工房の仕事：芸術雑誌・書籍・カタログ
Ⅳ　ムルロ工房の仕事：ポスター
資料編
関連年表
作品解説・出品リスト
主要作家解説
主要参考文献
La lithographie, de son invention à sa consécration. De Senefelder à Mourlot（Céline Chicha-Castex）
Chapter Commentaries

ポスター



カタログ

会場風景

関連記事

▼展評・解説など

・下野 綾「リトグラフの豊かな表現「ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち」近美葉山」『神奈川新聞』、2015 年 6 月 29 日、16 面

・長門佐季「ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち（上）リトグラフの傑作数多く」『読売新聞』、2015 年 7 月 3 日、28 面

・橋 秀文「ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち（中）シャガール尽きぬ創作意欲」『読売新聞』、2015 年 7 月 4 日、26 面

・三本松倫代「ムルロ工房と 20 世紀の巨匠たち（下）技術力マティスも信頼」『読売新聞』、2015 年 7 月 5 日、26 面

▼展覧会紹介：3 紙（6 回）

▼情報掲載：6 紙（43 回）／ 11 誌（20 回）

葉山館

715

若林 奮　飛葉と振動

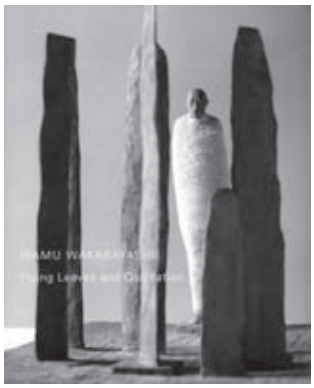
ISAMU WAKABAYASHI Flying Leaves and Oscillation

1960 年代、鉄を用いた独特な彫刻によって注目された若林奮（1936-2003）は、77 年頃以降、「振動尺」という独自な概念をもとに、彫刻の可能性を問い続けた。当館にとっては 1973 年、97 年に続き 3 回目、また作家没後初となる本展では、これまで十分に紹介されてこなかった若林の「庭」に光をあてた。80 年代から晩年に手がけた《軽井沢・高輪美術館の庭》、《神慈秀明会神苑の庭》、《緑の森の一角獣座》、《4 個の鉄に囲まれた優雅な樹々》の 4 つの庭を中心に、関連する彫刻約 100 点のほか、水彩・素描約 140 点、さらに関係書籍・資料を通して、若林の創作の根幹にある自然観を再考した。また、当館の特集として、1965 年から大阪万博にかけて若林が制作した野外彫刻を紹介し、美術館の屋外に《地表面の耐久性について》（1975 年）を設置した。

主催：神奈川県立近代美術館、WAKABAYASHI STUDIO、読売新聞社、美術館連絡協議会
協力：株式会社 カシマ、ケンジタキギャラリー、多摩美術大学若林奮研究会、横田茂ギャラリー、日本通運
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団
出品協力：独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
会期：2015 年 8 月 15 日（土）－ 12 月 23 日（水・祝）
休館日：月曜日（9 月 21 日、10 月 12 日、11 月 23 日は開館）、10 月 13 日（火）
一部展示替
開催日数：114 日
出品総点数：285 点（特集展示：作品 27 点　資料 16 点）
総観覧者数：11,596 人
担当学芸員：朝木由香、酒井一有、髙嶋雄一郎
企画・構成：水沢 勉、朝木由香
巡回情報：名古屋市美術館、足利市立美術館、府中市美術館、うらわ美術館

関連企画
1）記念講演会「ある日の若林奮」 8 月 15 日（土）　講師：酒井忠康（世田谷美術館）
2）記念対談「ラスコーと武蔵野の庭」 11 月 7 日（土）　講師：吉増剛造（詩人）×酒井忠康　※当初予定の吉増×関口涼子（著述家・翻訳家）から変更。
3）アーティスト・トーク「若林奮と私」 9 月 27 日（日）　講師：加納光於（美術家）
4）若林奮作品見学ツアー　10 月 18 日（日）　案内人：原田 光（岩手県立美術館）、水沢 勉
5）館長によるトーク　① 8 月 22 日（土）　② 10 月 10 日（土）　③ 11 月 23 日（月・祝）　講師：水沢 勉　②ゲスト：淀井彩子（画家）
6）クロス・トーク　① 9 月 19 日（土）　② 10 月 12 日（月・祝）　③ 12 月 23 日（水・祝）　講師：①水沢 勉×鍵岡正謹（岡山県立美術館）　②水沢 勉×小泉俊己（多摩美術大学）　③水沢 勉×山口啓介（美術家）
7）担当学芸員によるギャラリー・トーク　12 月 5 日（土）、12 月 19 日（土）
8）先生のための特別鑑賞の時間　8 月 22 日（土）

ポスター


カタログ

会場風景

カタログ
サイズ：28 × 22.7cm、223 ページ、販売価格：2,300 円（税込）
多色 322 図、単色 41 図
編集：名古屋市美術館、足利市立美術館、神奈川県立近代美術館、府中市美術館、うらわ美術館
翻訳：ポリー・バートン
デザイン：下田理恵
制作：印象社
発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

目次
森のはずれで―所有・雰囲気・振動（若林 奮）
飛葉と振動のただなか（水沢 勉）
図版
Ⅰ　庭への予兆（1957-1982）　A view to the Garden（1957-1982）
Ⅰ-1　初期彫刻Ⅰ
Ⅰ-2　初期彫刻Ⅱ
Ⅰ-3　風景
Ⅰ-4　エジプト、フランス、スペイン滞在（1973-1974）
Ⅰ-5　振動尺
Ⅱ　庭へ（1982-2000）　To the Garden（1982-2000）
Ⅱ-1　大気中の緑色に属するもの　Ⅰ・Ⅱ
作品 No.2―北九州市立美術館の庭
Ⅱ-2　軽井沢・高輪美術館の庭
Ⅱ-3　神慈秀明会神苑の庭
Ⅱ-4　DAISY
Ⅱ-5　緑の森の一角獣座
石枕―高知県立美術館の庭
Ⅲ　庭から（2000-2003）　From the Garden（2000-2003）
Ⅲ-1　境界の犬
Ⅲ-2　4 個の鉄に囲まれた優雅な樹々
Ⅲ-3　飛葉
若林奮のドローイング
若林奮と本の作品
本の作品目録（森田 一 編）
多くの川を渡り 再び森の中へ―若林奮の庭（角田美奈子）
かのものの言葉の振るえ（江尻 潔）
「『緑の森の一角獣座』は残る。」について（朝木由香）
《DAISY》と《地下のデイジー》の場所―ドローイングから見えてくるもの（神山亮子）
《リーヴル・オブジェ》から始まる―本の仕事について、断片的に（森田 一）
雰囲気をめぐるノート・私感（山田志麻子）
参考資料　Appendix
略年譜（山田志麻子編）
主なパブリックコレクション
主要文献目録（藤代知子編）
出品作品一覧　List of Exhibits

Outskirts of a Forest―Possession/Atmosphere/Oscillation［Isamu Wakabayashi］
Flying Leaves and Oscillation（Abridged）［Tsutomu Mizusawa］

関連記事
▼展覧会紹介：13 紙（16 回）／11 誌（13 回）
▼情報掲載：5 紙（66 回）／16 誌（44 回）
▼展評・解説など
・原 圭介「自然に回帰した「鉄の彫刻家」「若林奮 飛葉と振動」」『EX SANKEI EXPRESS』、2015 年 8 月 24 日、15 面
・古谷利裕「美術評「若林 奮 飛葉と振動」展「表面の厚み」捉え直す試み」『東京新聞』、2015 年 9 月 4 日夕刊、7 面
・今井歴矢「薄葉の満ちる空間「若林 奮 飛葉と振動」展」『いけ花龍生』、2015 年 10 月 1 日（第 666 号）、p.13
・長縄 宣「ふらっとアート日和 自然と共振する彫刻とは「若林 奮 飛葉と振動」展」『まんまる』、2015 年 10 月 8 日、vol.138、p.39
・倉林 靖「Art for Humanity ⑨若林 奮の「庭」への思索《緑の森の一角獣座》と環境保護のトラスト運動」『BIOCITY』、2015 年 10 月 10 日（No.64）、pp.119-126
・丸山ひかり「若林 奮 回顧展 人間と自然融和を思索」『朝日新聞』、2015 年 10 月 14 日夕刊、4 面
・三田晴夫「圧巻の「庭」作品群「若林 奮 飛葉と振動」展」『毎日新聞』、2015 年 10 月 15 日夕刊、4 面
・下野 綾「県立近美葉山 若林 奮の空間表現 回顧展「飛葉と振動」」『神奈川新聞』、2015 年 11 月 16 日、12 面
・アライ=ヒロユキ「美術 若林 奮「飛葉と振動」展 目に見えないものの意味」『しんぶん赤旗』、2015 年 12 月 4 日、9 面
・朝木由香「「若林 奮 飛葉と振動」展（上）生命と機械 奇妙な融合」『読売新聞』、2015 年 12 月 11 日、23 面
・朝木由香「「若林 奮 飛葉と振動」展（中）自らを包む空間との関係」『読売新聞』、2015 年 12 月 12 日、25 面
・水沢 勉「「若林 奮 飛葉と振動」展（下）最後の彫刻 自然が主役へ」『読売新聞』、2015 年 12 月 13 日、32 面
・大西若人「回顧 2015 美術「境界」の存在問い直す 専門家から非専門家へ 既成の枠組みを越える」『朝日新聞』、2015 年 12 月 16 日夕刊、4 面
・田中庸介「小特集 展覧会を読む 三次元と二次元の出会い、そのパラドックス 若林 奮 飛葉と振動展」『現代詩手帖』、2016 年 2 月号、pp.101-103
・吉増剛造、酒井忠康、関口涼子「エジプトと武蔵野の庭「若林 奮 飛葉と振動」展のために」『現代詩手帖』、2016 年 7 月号、pp.60-68
・馬場駿吉、前田富士男「評論家にきく美術館のアンケート　昨年行って面白かった展覧会・開催館とその理由 1 位「若林 奮　飛葉と振動」神奈川県立近代美術館・名古屋市美術館」『アートコレクターズ』、2016 年 10 月号、p.47
▼ウェブ　展評・美術館紹介など
・西澤美子「若林 奮 飛葉と振動＠神奈川県立近代美術館 葉山」『オフィスアイ・イケガミ』、2015 年 12 月 22 日
▼テレビ番組
・NHK E テレ日曜美術館「鉄、自然から受け取る造形彫刻家・若林 奮」2015 年 11 月 8 日 午前 9 時－9 時 45 分放送（再放送：11 月 15 日 午後 8 時－8 時 45 分）
出演：酒井忠康、淀井彩子、堀江敏幸、前田英樹、早矢仕素子

葉山館

716

フィンランドを生きた女性画家の軌跡　ヘレン・シャルフベック―魂のまなざし

Helene Schjerfbeck: Reflections

幼い頃に足に障害を受けながらも、少女時代に才能を見出されたヘレン・シャルフベック（1862-1946）。18 歳でパリで最先端の芸術に触れた後、フィンランドの首都ヘルシンキの素描学校で教鞭を執るものの、1902 年以降病気療養のためヒュヴィンガーに転居。フィンランド独立前後の激動期も、地方で穏やかに過ごしながら内面の充実によって独自のモダンな様式を確立した。フィンランドを代表する画家となったシャルフベックの創作の全貌を紹介する、国内初の巡回展。

主催：神奈川県立近代美術館、NHK 横浜放送局、NHK プロモーション、日本経済新聞社
後援：フィンランド大使館、フィンランドセンター
特別協力：フィンランド国立アテネウム美術館
協賛：損保ジャパン日本興亜、大日本印刷
協力：フィンエアー、フィンエアーカーゴ
会期：2016 年 1 月 10 日（日）－ 3 月 27 日（日）
休館日：月曜日（1 月 11 日、3 月 21 日は開館）
開催日数：69 日
出品総点数：83 点（巡回展総作品数　84 点）
総観覧者数：11,424 人
担当学芸員：籾山昌夫、土居由美
企画・構成：佐藤直樹（東京藝術大学）、アンナ＝マリア・フォン・ボンスドルフ（フィンランド国立アテネウム美術館）
巡回情報：東京藝術大学大学美術館、宮城県美術館、奥田元宋・小由女美術館

関連企画
1）　ゲストトーク　2 月 6 日（土）　講師：佐藤直樹、聞き手：水沢 勉
2）　オープニング・トーク　1 月 10 日（日）　講師：水沢 勉
3）　館長によるトーク　1 月 23 日（土）　講師：水沢 勉　※「志村ふくみ、シャルフベックを語る」から変更。
4）　担当学芸員によるギャラリー・トーク　2 月 20 日（土）、3 月 12 日（土）
5）　先生のための特別鑑賞の時間　1 月 23 日（土）
6）　音声ガイド［語り：小林聡美（女優）］

カタログ
サイズ：29.5 × 22.5cm、215 ページ、販売価格：2,300 円（税込）
多色 134 図、単色 64 図
監修：佐藤直樹
編集：斎藤菜生子（東京藝術大学）、薩摩雅登（東京藝術大学）、服部 航、サム・A. マレック、NHK プロモーション
翻訳：黒川廣子（東京藝術大学）、斎藤菜生子、薩摩雅登、三木はるか、マーサ・マクリントク
デザイン・制作：求龍堂
発行：求龍堂
ISBN: 978-4-7630-1517-4 C0071

目次
主催者あいさつ
開催によせて：見ることと抽象することの巨匠（リスト・ルオホネン／スサンナ・ペッテルソン）
「枕の時代」シャルフベックの《快復期》に見られる病床画の系譜とイギリス美術の影響（佐藤直樹）
ヘレン・シャルフベック――永遠性と物質性（アンナ＝マリア・フォン・ボンスドルフ）
図版
1　初期：ヘルシンキ――パリ
2　フランス美術の影響と消化
3　肖像画と自画像
4　自作の再解釈とエル・グレコの発見
5　死に向かって：自画像と静物画
ヘレン・シャルフベック――アテネウム美術館コレクションの珠玉（スサンナ・ペッテルソン）
ヘレン・シャルフベックの生涯（シーナ・ハリッカ）
掲載作品リスト
参考文献表

ポスター

カタログ

ギャラリー・トーク

関連記事

▼展覧会評

・下野 綾「己の芸術と向き合った軌跡　フィンランドの女性画家シャルフベックの生涯」『神奈川新聞』、2016 年 2 月 29 日、14 面

・Bettina Gockel, "Konstruktion und Wirklichkeit einer globalisierten Künstlerin: Helene Schjerfbeck zwischen Tradition und Moderne," *Kunstchronik*, 69. Jahrgang, Heft 11, November 2016, S.551-559

▼展覧会紹介：1 紙（1 回）／6 誌（6 回）

▼情報掲載：7 紙（80 回）／19 誌（29 回）

鎌倉館（第一会場）、鎌倉別館（第二会場）

717−1

鎌倉からはじまった。1951-2016　PART 1：1985-2016　近代美術館のこれから

All Begun in Kamakura 1951-2016　PART 1. 1985-2016: The Present and Future

717−2

日本画の部（併陳：平成 26 年度新収蔵作品）

All Begun in Kamakura 1951-2016: Nihonga/ New acquisitions of 2014

第一会場／鎌倉別館が開館し、鎌倉館と鎌倉別館の二館体制になった 1985 年から 2015 年までに鎌倉館で開催された展覧会を、青山義雄《湖のほとり》、斎藤義重《鬼》、李 禹煥《照応》など、所蔵作品 62 点と資料、写真で紹介。この時期に開催された展覧会ポスターの映像や、文学・映画のなかで取り上げられた美術館の映像展示を彫刻室で行なった。また全会期を通して、2003 年から使われた吉村弘によるサウンド・ロゴの試聴コーナーを設け、第 1 展示室ではガラスが傾斜したオリジナルの造りつけ展示ケースを見せる形で展示空間を構成した。

・映像展示 1　鎌倉館［旧館］（上映時間 約 9 分 映像制作：Todoroki lab.）
　1）建築紹介
　2）展覧会紹介 PART 1: 1985-2016
・映像展示 2　鎌倉館［新館］（上映時間 約 9 分 映像制作：Todoroki lab.）
　1）建築紹介
　2）展覧会紹介 PART 1: 1985-2016
・映像展示 3　展覧会ポスター・スライドショー（1985-2015）

第二会場／戦前に芽生えた新感覚の日本画とその成熟から、当館の日本画コレクションの中核をなす片岡球子、荘司福、中村正義ら戦後の日本画界で頭角をあらわした世代の画家たちの革新的表現、さらに 1984 年に寄贈されてコレクションのもう一つの柱となった山口蓬春の下図や素描類計 23 点を紹介した。2014（平成 26）年度の新収蔵作品を併陳。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2015 年 4 月 11 日（土）－ 6 月 21 日（日）
休館日：月曜日（5 月 4 日は開館）
開催日数：63 日
出品総点数：作品 74 点
　717-2　日本画の部　23 点、新収蔵品展　32 点・資料 1 点
総観覧者数：9,168 人
　717-2　4,598 人
担当学芸員：長門佐季、西澤晴美、松尾子水樹、荒木 和、三本松倫代
　717-2　橋 秀文

関連企画
1）館長によるトーク　4 月 26 日（日）　講師：水沢 勉
2）担当学芸員によるギャラリー・トーク
　第一会場：5 月 3 日（日）、6 月 7 日（日）
　第二会場：4 月 25 日（土）、6 月 6 日（土）
3）建築トーク　6 月 5 日（金）　講師：長門佐季
4）先生のための特別鑑賞の時間　6 月 6 日（土）　第一・第二会場

ポスター

特典カード　表

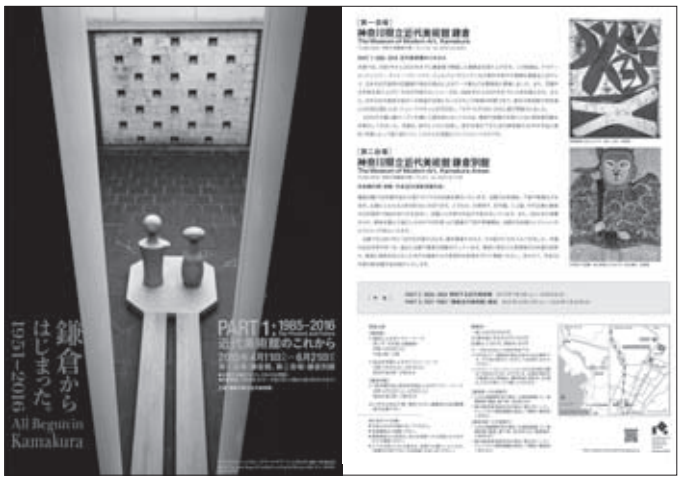
特典カード　裏
有料観覧券での PART1、2 鑑賞者に PART3 を無料招待した。

会場風景（第一会場）

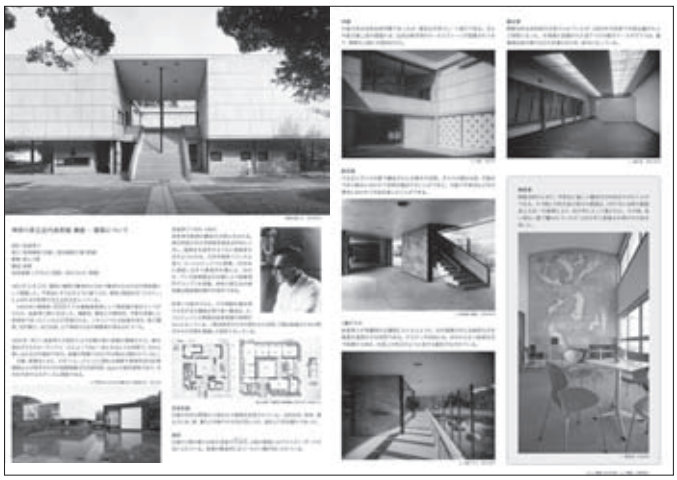
会場風景（第二会場）

リーフレット（717-1、2 共通）
サイズ：29.7 × 21.0cm、観音折 8 ページ、会場無料配布
多色 19 図、単色 7 図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：桑畑吉伸
制作：朝日オフセット印刷株式会社

内容
神奈川県立近代美術館 鎌倉―建築について
鎌倉館 展覧会一覧 PART1：1985-2016
出品リスト（鎌倉館、鎌倉別館）
展覧会概要（第一会場、第二会場）



リーフレット（表裏）


（中　3-4 面）

リーフレット（中面）

鎌倉館（第一会場）、鎌倉別館（第二会場）

718−1
鎌倉からはじまった。1951-2016　PART 2：1966-1984　発信する近代美術館
All Begun in Kamakura 1951-2016　PART 2. 1966-1984: The Museum as a Disseminator
718−2
鎌倉からはじまった。1951-2016：版画の部
All Begun in Kamakura 1951-2016: Prints

第一会場／開館 15 周年を迎え、旧館の東側に坂倉準三による新館が増築された 1966 年から、鎌倉別館が開館する 1984 年までの約 20 年を紹介。この時期の美術館はクレーやムンクをはじめとする本格的な海外美術展、近代日本美術史を再発見・検証する企画展、新進作家の個展といった展覧会に加え、県展や青年美術展、児童生徒作品展の会場として幅広い層に向けた普及の場ともなった。内外に発信する美術館として果たしてきた役割を、高橋由一《江の島図》、岸田劉生《童女図（麗子立像）》、海老原喜之助《友よさらば》などの所蔵作品 66 点、資料、映像等によって検証した。

・映像展示 1　鎌倉館（上映時間 約 9 分 映像制作：Todoroki_lab.）
1）建築紹介
2）展覧会紹介 PART2: 1966-1984

・映像展示 2　「今日の作家たち XI　鷲見和紀郎 光の回廊」展（2007 年）（上映時間 約 5 分 30 秒）
鎌倉館 彫刻室・中庭での作家による制作風景の記録映像（7 月 19 日まで上映）

・映像展示 3　鎌倉館と映画・文学（上映時間 約 7 分 30 秒 映像制作：Todoroki_lab.）
鎌倉館がロケ地となった映画や、舞台となった文学作品、作家たちとの交流について紹介（7 月 21 日より 10 月 4 日まで上映）

・映像展示 4　「神奈川ニュース」（上映時間　約 5 分 45 秒　映像提供：神奈川県県民局くらし県民部広報県民課　編集：神奈川県立近代美術館　制作協力：Todoroki_lab.）
神奈川県の委託により神奈川ニュース映画協会が制作し、県下の映画館等で上映された「神奈川ニュース」より、近代美術館関連の番組を抜粋して紹介

・映像展示 5　展覧会ポスター・スライドショー（1966-1984）

第二会場／鎌倉別館では、「ルオー『ミセレーレ』版画展」（1951 年）、「フリードランデル・浜口陽三・南桂子版画展」（1961 年）、「中国木版画展」（1975 年）など、開館当初より行ってきた版画展の出品作品から精選した 101 点を紹介するとともに、棟方志功の大作《花矢の柵》を約 10 年ぶりに公開した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2015 年 7 月 4 日（土）－ 10 月 4 日（日）
休館日：月曜日（7 月 20 日、9 月 21 日は開館）
開催日数：82 日
出品総点数：66 点
　718-2　101 点
総観覧者数：18,990 人
　718-2　7,206 人
担当学芸員：長門佐季、西澤晴美、松尾子水樹、荒木 和、三本松倫代
　718-2　西澤晴美

関連企画
1）館長によるトーク　7 月 25 日（土）、8 月 29 日（土）　講師：水沢 勉
2）担当学芸員によるギャラリー・トーク　7 月 19 日（日）、9 月 19 日（土）
3）子ども建築ツアー　7 月 23 日（木）、8 月 21 日（金）講師：松尾子水樹
4）建築トーク　9 月 3 日（木）　講師：長門佐季
5）先生のための特別鑑賞の時間　7 月 11 日（土）

ポスター

リーフレット（718-1、2 共通）
サイズ：29.7 × 21.0cm、観音折 8 ページ、会場無料配布
多色 15 図、単色 12 図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：桑畑吉伸
制作：朝日オフセット印刷株式会社

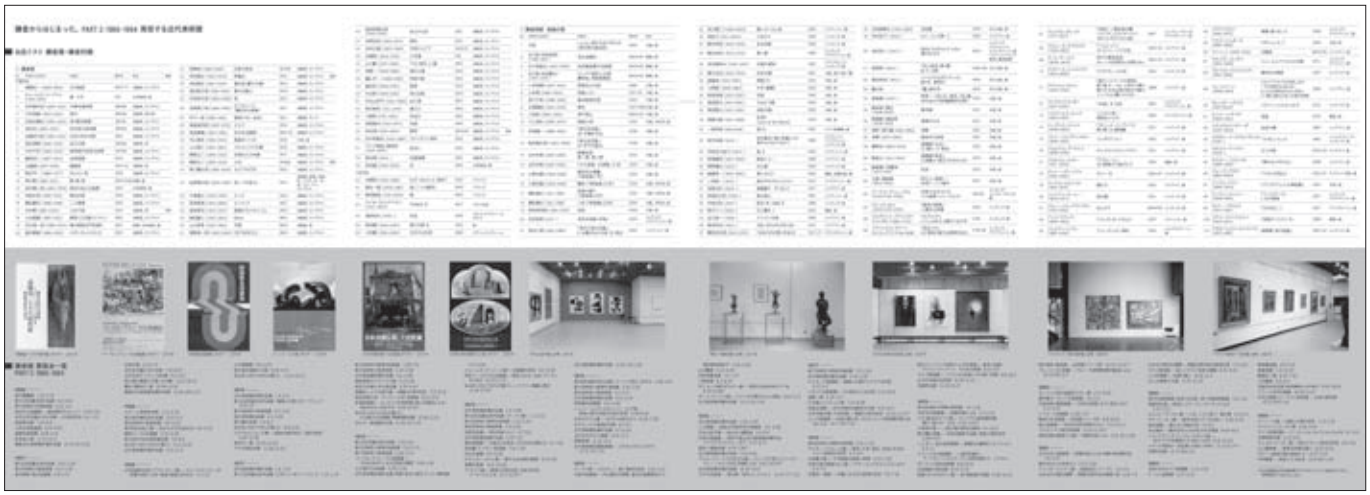
内容
神奈川県立近代美術館 鎌倉―建築について
鎌倉館 展覧会一覧 PART2: 1966-1984
出品リスト（鎌倉館、鎌倉別館）
展覧会概要（第一会場、第二会場）

会場風景（第一会場）

会場風景（第二会場）

リーフレット（表裏）

（中　3-4 面）


リーフレット（中　5-8 面）

鎌倉館（第一会場）、鎌倉別館（第二会場）

719−1

鎌倉からはじまった。1951-2016　PART 3：1951-1965 「鎌倉近代美術館」誕生

All Begun in Kamakura 1951-2016　PART 3. 1951-1965: The Birth of The Museum of Modern Art, Kamakura

719−2

鎌倉からはじまった。1951-2016：工芸と現代美術

All Begun in Kamakura 1951-2016: Crafts and Contemporary Art

第一会場／開館から 15 年間の美術館草創期に取り上げた作家を、収蔵品第 1 号であるアンドレ・ミノー《コンポジション》、古賀春江《窓外の化粧》、松本竣介《立てる像》など所蔵作品 93 点で紹介。展覧会関連印刷物や刊行物等の資料により、小規模ながら調査と研究を重視した当時の展覧会のあり方を検証した。開館以前からの資料や記録映像に加え、改修を重ねてきた建築の変遷を図面や写真、映像で紹介。旧館、新館の設計を担当した建築家のインタビュー映像も上映した。第 2 展示室では、開館当時の館長室にあった机など家具を展示。また、非公開であった中 3 階を公開し、鎌倉館の四季を撮影した映像と、坂倉準三が制作した製図台や家具、図面等の複製物を紹介することで、建物自体も展示の対象とした。

・映像展示 1　鎌倉館 展覧会紹介 1951-2016（上映時間 約 17 分　映像制作：Todoroki_lab.）

・映像展示 2　鎌倉館 建築紹介（上映時間 6 分 48 秒　映像制作：Todoroki_lab.）

・映像展示 3　坂倉準三建築事務所元所員インタビュー
1）坂倉準三建築事務所の元所員で［旧館］の設計に携わった北村脩一へのインタビュー（2015 年 9 月 10 日）　聞き手：松隈 洋（上映時間 約 10 分　撮影／編集：株式会社らくだスタジオ 森内康博）
2）元所員で、1966 年に増築された［新館］の設計に携わった室伏次郎へのインタビュー（2015 年 9 月 10 日）　聞き手：松隈 洋（上映時間 約 10 分　撮影／編集：株式会社らくだスタジオ 森内康博）

・映像展示 4　「ある建築の情景 鎌倉近代美術館 設計：坂倉準三」（2015 年）（上映時間 13 分　制作／撮影／編集：藤原次郎）

・映像展示 5　「神奈川ニュース『鎌倉美術館 竣工』」1951 年 12 月 4 日公開（上映時間 約 27 秒　映像提供：神奈川県県民局くらし県民部広報県民課　編集：神奈川県立近代美術館　制作協力：Todoroki_lab.）

・映像展示 6　展覧会ポスター・スライドショー（1951-2015）

第二会場／開館当初より外部の研究者・蒐集家の協力で開催された多様な工芸展は、草創期の美術館活動の幅を広げた。1984 年に開館した鎌倉別館では、現代の工芸作家による個展も行われ、90 年代以降は坂倉建築への注目と共に鎌倉館での建築展・デザイン展も増加した。「イサム・ノグチ展」（1952 年）をはじめ当館で開催された企画展に由来する工芸作品から、オブジェから立体造形へと既存のジャンルを越境する現代美術までを、北大路魯山人、八木一夫、浜田庄司らによる所蔵作品 60 点と資料類で振り返った。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2015 年 10 月 17 日（土）－ 2016 年 1 月 31 日（日）
休館日：月曜日（11 月 23 日、1 月 11 日は開館）、12 月 29 日（火）－ 1 月 3 日（日）
開催日数：88 日
出品総点数：719-1　作品 93 点（ほか資料・映像類）
　719-2　作品 60 点・資料類 22 点
総観覧者数：70,600 人
　719-2　22,902 人
担当学芸員：長門佐季、西澤晴美、松尾子水樹、荒木 和、三本松倫代
　719-2　三本松倫代

関連企画
1）スライドショー「映像日記『白い月』」10 月 24 日（土）、「for Nine Postcards」10 月 25 日（日）　制作：トヨダヒトシ（写真家）
2）建築トーク　11 月 1 日（日）　講師：青木 淳（建築家）
3）コンサート「LEMP」11 月 8 日（日）　出演：小杉武久、和泉希洋志（音楽家）
4）映像インタレーション上映「二夜展」11 月 28 日（土）、11 月 29 日（日）　作品・構成：石田尚志（画家／映像作家）
5）連続講演会「近代美術館とわたし」（県立機関活用講座 全 5 回）（※詳細は pp.27-28）
6）館長によるトーク　12 月 12 日（土）、2016 年 1 月 24 日（日）　講師：水沢 勉
7）担当学芸員によるギャラリー・トーク　12 月 5 日（土）
8）先生のための特別鑑賞の時間　10 月 18 日（日）　第一・第二会場

リーフレット（719-1、2 共通）
サイズ：29.7 × 21.0 cm、観音折 8 ページ、会場無料配布
多色 14 図、単色 14 図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：桑畑吉伸
制作：朝日オフセット印刷株式会社

内容
神奈川県立近代美術館 鎌倉―建築について
鎌倉館 展覧会一覧 PART3: 1951-1965
出品リスト（鎌倉館、鎌倉別館）
展覧会概要（第一会場、第二会場）

ポスター

会場風景（第一会場）

会場風景（第二会場）

リーフレット（表裏）

（中　3-4 面）

リーフレット（中面）

関連書籍
『鎌倉からはじまった。「神奈川県立近代美術館 鎌倉」の 65 年』

サイズ：21.0 × 14.8cm、288 ページ、販売価格：3,024 円（税込）
多色 731 図、単色 144 図
編集：長門佐季、西澤晴美、松尾子水樹、荒木 和、三本松倫代、酒井一有
編集協力：戸谷知里、岩田高明
執筆：河口龍夫、李 禹煥、舟越 桂、保田春彦、アントニー・ゴームリー、ダニ・カラヴァン、柄澤 齊、内藤 礼、渡辺豊重、松隈 洋、水沢 勉、長門佐季、橋 秀文、西澤晴美、松尾子水樹、荒木 和、三本松倫代
和訳：水沢 勉、髙嶋雄一郎
英訳：ポリー・バートン、大西伸一郎、福田能梨絵、デイヴィッド・ディヒーリ
AD：渡邊陽介
制作：Echelle-1（下田泰也、小倉あゆ子）、鈴木真理子
印刷：開成堂印刷株式会社（初版）、シナノ印刷株式会社（第二刷）
発行者：下田泰也
発行：Echelle-1
発売：株式会社 建築資料研究社
発行日：2016 年 1 月 31 日（初版）、2016 年 5 月 15 日（第二刷）
助成：公益財団法人 野村財団
ISBN：978-4-86358-390-0

目次
神奈川県立近代美術館 鎌倉 2015 年（撮影：新 良太）
あいさつ（水沢 勉）
Preface（Tsutomu Mizusawa）
鎌倉からはじまった―「近代」を踏み固める。（水沢 勉）
神奈川県立近代美術館―モダニズム精神の生きた結晶（松隈 洋）
鎌倉の現代美術館［再録］（坂倉準三）
第 1 章　1951-1965　「鎌倉近代美術館」誕生
コラム 1 色彩計画
コラム 2 前庭・中庭
コラム 3 家具・館長室・中 3 階
第 2 章　1966-1984　発信する近代美術館
コラム 4 新館・附属屋
コラム 5 屋根・天井
第 3 章　1985-2016　近代美術館のこれから
思い出の鎌倉近美（河口龍夫）
戸惑いの展示（李 禹煥）
想い出すままに（舟越 桂）
世代工房あれこれ（保田春彦）
素晴らしい思い出（アントニー・ゴームリー）
出会い（ダニ・カラヴァン）
蓮と漣（柄澤 齊）
［無題］（内藤 礼）
忘れがたい箱（渡辺豊重）
コラム 6 展示室
コラム 7 壁画
コラム 8 サウンド・ロゴ他
It Began in Kamakura: Consolidating the Meaning of Modern（Tsutomu Mizusawa）
The Museum of Modern Art, Kamakura: The fruit of abiding testament to the Modernist spirit（Hiroshi Matsukuma）
The Museum of Modern Art in Kamakura［Reprint］（Junzo Sakakura）
Memories of The Museum of Modern Art, Kamakura（Tatsuo Kawaguchi）
An Exhibition of Doubt（Ufan Lee）
Thinking Back（Katsura Funakoshi）
Reflections from *Sedai* Atelier（Haruhiko Yasuda）
My Memories of The Museum of Modern Art, Kamakura（Antony Gormley）
My First Meeting（Dani Karavan）
Lotuses and Ripples（Hitoshi Karasawa）
［Untitled］（Rei Naito）
An Unforgettable Container（Toyoshige Watanabe）
鎌倉館建築概要
展覧会一覧
年表
主要文献
歴代学芸職員一覧
謝辞／写真クレジット／ Photo Credits

『鎌倉からはじまった。「神奈川県立近代美術館 鎌倉」の 65 年』表紙

関連記事

▼展評・美術館紹介など

- 水沢 勉「鎌倉近美の遺産 上 灰からダイヤ生む情熱 素晴らしい建築と相まって」『神奈川新聞』、2015 年 4 月 10 日、5 面
- 斉藤大起「鎌倉近美の遺産 中 民主社会の軽やかさ モダニズム建築の「思想」」『神奈川新聞』、2015 年 4 月 14 日、15 面
- 下野 綾、酒井忠康「鎌倉近美の遺産 下 重ねた経験を次世代へ 酒井忠康元館長に聞く」『神奈川新聞』、2015 年 4 月 17 日、5 面
- 下野 綾「“ 近美らしさ ” 問い次代へ 県立近代美術館鎌倉」『神奈川新聞』、2015 年 6 月 5 日、15 面
- 森本智之「コレクション展で振り返る「鎌近」人材を発掘、実験の場 来年 3 月閉館」『東京新聞』、2015 年 6 月 9 日夕刊、5 面
- 藤田一人「美術「鎌倉からはじまった。1951–2016」展 PART1：1985–2016 近代美術館のこれから パイオニア “ 鎌近 ” の成果と課題」『公明新聞』、2015 年 6 月 10 日、6 面
- 永田晶子「Topics 神奈川県立近代美術館鎌倉 来春閉館 公立初先駆的役割果たす 所蔵作品展開催 建物の保存は協議中」『毎日新聞』、2015 年 6 月 18 日夕刊、4 面
- 村田 真「ウエーブ美術「企画展主義」の先駆け 神奈川県立近代美術館 鎌倉館が閉館へ」『北海道新聞』、2015 年 6 月 22 日、7 面
- 兼松紘一郎「建築保存物語 -26- 神奈川県立近代美術館（本館 1951 年・新館 1966 年 鎌倉市）「近美 100 年の会」の活動と共に」『建築とまちづくり』、2015 年 7 月 1 日（No.442）、p.2
- 林家たい平「今月の美術 閉館前の美術館に学ぶ美術と空間、地域性『鎌倉からはじまった。1951–2016』」『家庭画報』、2015 年 7 月 1 日（第 58 巻第 8 号）、p.268
- 高階秀爾、水沢 勉、中村政人、ミムラ「東京新聞フォーラム「戦後 70 年と美術館」」『東京新聞』、2015 年 7 月 14 日、14、19 面
- 井上晋治、建畠 哲、酒井忠康「鎌倉館 展示や運営の手本 多摩美大学長・建畠哲さんと行く「自主企画」広め、カタログ原型も 社会的役割考えた土方定一館長」『読売新聞』、2015 年 7 月 30 日、11 面
- 写真：ホンマタカシ「さよなら、神奈川県立近代美術館 鎌倉」『CASA BRUTUS 特別編集 ニッポンが語る「モダニズム建築」』、2015 年 9 月 5 日、pp.75-82
- 下野 綾「県立近代美術館鎌倉 強い発信力で時代リード」『神奈川新聞』、2015 年 9 月 8 日、5 面
- 仲宇佐ゆり「第 19 回 高橋由一《江ノ島図》1876-77 年「鎌倉からはじまった。PART2：1966-1984 発信する近代美術館」『SAPIO 美術館』、2015 月 9 月 4 日（第 27 巻第 11 号、通巻 567 号）、p.114
- 高本雅通「県立近代美術館鎌倉本館 八幡宮に移譲、保存へ」『神奈川新聞』、2015 年 9 月 11 日、26 面
- 石川健次「アートな時間 美術 鎌倉からはじまった。1951 ― 2016 継承され、革新されてゆく “ 鎌近 ” 閉館を前にあふれる熱い思い」『週刊エコノミスト』、2015 年 9 月 29 日（第 93 巻第 38 号）、p.97
- 石川健次「さようなら “ カマキン ” 継承され、革新されてゆく真価～閉館する “ 鎌近 ” 最後の展覧会を見ながら」『月刊美術』、2015 年 11 月 20 日（No.483）、p.40
- 「さよなら、カマキン！ 65 年の活動の幕を閉じる日本初の公立 ‘ 近代 ’ 美術館」『芸術新潮』、2015 年 11 月 25 日（第 66 巻第 11 号）、p.110
- 木下直之「時評 社会を変える美術館 文化行政の運営問う」『静岡新聞』、2015 年 12 月 3 日、29 面
- 柏崎幸三「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉 壁画《女の一生》60 年の時超えた輝き “ 鎌近 ” の気概伝える」『産経新聞』、2015 年 12 月 13 日（神奈川版）
- 文：宮田一雄 写真：渡辺照明「ZOOM 湘南の風 古都の波 戦後を照らし揺らめく光」『EX SANKEI EXPRESS』、2015 年 12 月 19 日、pp.13-15
- 下野 綾「近美鎌倉 最後の展覧会 カマキンの草創期伝える」『神奈川新聞』、2015 年 12 月 28 日、12 面
- 下野 綾、斉藤大起「回顧 ’15 美術 “ カマキン ” 建物は存続 使い続けてこそ「創造的」建築保存めぐり議論」『神奈川新聞』、2015 年 12 月 29 日、4 面
- Robert Reed「Swan song for pioneer art museum」『The Japan News』、2015 年 12 月 31 日、12 面
- 酒井忠康「土方定一の影―児童生徒作品展のことなど」『有鄰』、2016 年 1 月 1 日、p.2
- 水沢 勉「「かまきん」の終幕」『ZENBI』、2016 年 1 月 1 日（№ 9）、p.2
- 下野 綾「県立近代美術館鎌倉 今月 31 日で見納め 学芸員が語るこぼれ話」『神奈川新聞』、2016 年 1 月 10 日、6 面
- 「近代美術館鎌倉で「お別れの会」」『毎日新聞』、2016 年 1 月 17 日、30 面
- 文：矢島智子 写真：淡路久喜、隈崎稔樹、平野皓士朗 紙面構成・市毛史歩子「さらばカマキン 神奈川県立近代美術館 鎌倉 建築美かれんで戦後文化の精華 年度末閉館　最後の展示あと 11 日」『東京新聞』、2016 年 1 月 20 日、28 面
- 安斎耕一「神奈川県立近代美術館鎌倉 閉館へ 独自の発想戦後文化に貢献 所蔵品ゼロから出発 地元文化人が支える」『朝日新聞』、2016 年 1 月 20 日夕刊、4 面
- 黒沢綾子「さよならカマキン 戦後文化を牽引した美術館」『産経新聞』、2016 年 1 月 21 日、15 面
- 文・写真：磯 達雄 イラスト：宮沢 洋「建築巡礼 特別編 戦後 モダニズムを支える石 神奈川県立近代美術館（1951 年）」『日経アーキテクチュア』、2016 年 1 月 28 日（No.1064）、pp.94-97
- 「さようなら近代美術館鎌倉館 お別れの会で閉館惜しむ」『読売新聞』、2016 年 1 月 28 日、21 面
- 「「カマキン、ありがとう」近代美術館鎌倉館「最後の展覧会」あす終了」『読売新聞』、2016 年 1 月 30 日、34 面
- 因幡健悦「鎌倉館 65 年の歴史に幕 きょう最終日 惜しむファン続々」『毎日新聞』、2016 年 1 月 31 日、27 面
- 暮沢剛巳「カマキン閉館に寄せて」『美術手帖』、2016 年 2 月 1 日（No.1033）、p.180
- 「さよなら “ カマキン ” お別れ会に 500 人以上が参加、名残惜しむ」『新美術新聞』、2016 年 2 月 1 日（No.1398）、p.3
- 川上典李子「ART 建築も味わいたい、最後の展覧会。『鎌倉からはじまった。1951–2016 PART3：1951–1965「鎌倉近代美術館」誕生』」『pen』、2016 年 2 月 1 日（No.398）、p.163
- 鶴田真由、酒井忠康、水沢 勉、長門佐季「去りゆく商品の昨日まで明日から 第 21 回 鎌倉近代美術館（神奈川県立近代美術館鎌倉）近代美術館の魁が 65 年の時を刻み閉館」『日経トレンディ』、2016 年 2 月 4 日（No.396）、pp.112-114
- 大矢美登里「ひととき「鎌近」にさよならを」『朝日新聞』、2016 年 2 月 12 日、24 面
- 建畠 哲「あすへの話題 いざ鎌倉」『日本経済新聞』、2016 年 2 月 17 日夕刊、1 面
- 鈴木昌紹、斉藤大起「近代美術館鎌倉館 本館棟県指定文化財へ 保存めぐり県教委検討」『神奈川新聞』、2016 年 2 月 18 日、22 面
- 「「鎌近」本館棟文化財で保存 県教育長、指定の方針示す」『朝日新聞』、2016 年 2 月 18 日、29 面
- 「Art Topics「ごくろうさま」、そして「さようなら」“ カマキン ” クロージング・レセプション」『月刊美術』、2016 年 2 月 20 日（No.486）、p.7
- 下野 綾「県立近代美術館鎌倉 さようならカマキン 最後の日の表情」『神奈川新聞』、2016 年 2 月 21 日、6 面
- 港 千尋「考景 2016 鎌倉 映画「麦秋」と美術館が交錯」『読売新聞』、2016 年 2 月 22 日、15 面
- 大西若人「美の器 展示空間の戦後 土地の記憶に耳を澄ます」『朝日新聞』、2016 年 3 月 9 日夕刊、4 面
- 福浦則和「レジェンドかながわ 県立近代美術館鎌倉館（鎌倉市）先進性公立館の手本に 本館棟県重文指定へ」『読売新聞』、2016 年 3 月 13 日、36 面

ほか計 80 件

情報掲載：67 紙（72 回）／ 78 誌（89 回）

▼ウェブ　展評・美術館紹介など

伊村靖子「美術館活動の原点を問い直す―鎌倉からはじまった。1951-2016 展 PART：1-3」レビュー」artscape、2015 年 11 月 15 日

「カマキン最後のライトアップ、明日まで実施中―神奈川県立近代美術館 鎌倉」Internet Museum、2015 年 11 月 22 日

「神奈川県立近代美術館 鎌倉　2016 年 3 月末、64 年の歴史を閉じる」SUMAU、2016 年 1 月 7 日

橋爪勇介「65 年間ご苦労さま “ カマキン ” お別れ会で 500 人が名残惜しむ」Art Annual online、2016 年 1 月 16 日

「閉館秒読みの鎌近で知る坂倉準三の先進性」日経アーキテクチュア、2016 年 1 月 16 日

文：Yuka Uchida 写真：Toshiyuki Yano「JAPANESE MODERN ARCHITECTURE 55/020 神奈川県立近代美術館 鎌倉」Casa BRUTUS.com

「鎌近（カマキン）の愛称で親しまれてきた日本初の近代美術館があと 2 週間で閉館してしまいます。」goo いまトピ

ほか、情報掲載多数。

▼テレビ番組

NHK E テレ日曜美術館「さよなら、わたしの美術館～ “ カマキン ” の 65 年～」2015 年 12 月 13 日午前 9 時－9 時 45 分放送（再放送：12 月 20 日午後 8 時－8 時 45 分）

出演：鶴田真由、酒井忠康、水沢 勉、長門佐季

NHK E テレ視点・論点「鎌倉の近代美術館」2016 年 3 月 17 日放送

出演：水沢 勉

鎌倉館開館 64 周年記念週間

1）オリジナル缶バッジプレゼント（先着 1,951 名）
2）古い写真募集「鎌倉館とわたし」
　掲示期間：11 月 17 日（火）－ 12 月 25 日（金）
　総展示数：21 点
3）鎌倉館（旧館＋新館）ライトアップ（協力:ライトアンドリヒト株式会社）
　日時：11 月 17 日（火）－ 23 日（月・祝）各日午後 5 時－ 6 時
　場所：鎌倉館［旧館］大階段、中庭、南側 2 階テラス［新館］内部
　参加者数：延べ 608 名
4）学芸員今昔物語
　日時：11 月 18 日（水）①午後 1 時 30 分－ 2 時 30 分 ②午後 3 時－ 4 時
　場所：鎌倉館 第 1 展示室
　講師：①太田泰人（女子美術大学教授）×李 美那 ②原田 光（岩手県立美術館長）×西澤晴美
　参加者：① 27 名 ② 36 名
　日時：11 月 19 日（木）①午後 1 時 30 分－ 2 時 30 分 ②午後 3 時－ 4 時
　場所：①鎌倉館 ワーキングルーム ②鎌倉館 第 1 展示室
　講師：①前田富士男（慶應義塾大学名誉教授）×三本松倫代 ②青木 茂（明治美術学会会長）×長門佐季
　参加者数：① 26 名 ② 56 名
　日時：11 月 21 日（土）①午後 1 時 30 分－ 2 時 30 分 ②午後 3 時－ 4 時
　場所：鎌倉館 第 1 展示室
　講師:①堀 元彰（東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）×三本松倫代 ②山梨俊夫（国立国際美術館長、当館前館長）×髙嶋雄一郎
　参加者数：① 24 名 ② 32 名
　日時：11 月 23 日（月・祝）①午前 11 時－ 12 時 ②午後 2 時－ 3 時
　場所：鎌倉館 第 1 展示室
　講師:①是枝 開（武蔵野美術大学教授）×籾山昌夫 ②酒井忠康（世田谷美術館長、当館元館長）×長門佐季
　参加者数：① 31 名 ② 58 名
5）メッセージカード募集
　掲示期間：12 月 26 日（土）－ 2016 年 1 月 31 日（日）
6）クロージング・レセプション　2016 年 1 月 16 日（土）
　プログラム
　午後 4 時 30 分－　映像上映（制作：株式会社らくだスタジオ）
　午後 5 時　開会　館長あいさつ　来賓あいさつ　来賓紹介　乾杯
　午後 5 時 30 分－ 45 分　映像「鎌近（カマキン）　記憶の箱」上映（制作：株式会社らくだスタジオ）
　午後 6 時 15 分－ 30 分　鈴木昭男（サウンド・アーティスト）によるパフォーマンス
　午後 6 時 30 分　閉会
　閉会後－　ライトアップ（協力：ライトアンドリヒト株式会社）

オリジナル缶バッジ

古い写真募集「鎌倉館とわたし」

ライトアップ

学芸員今昔物語　前田富士男

メッセージカード募集

学芸員今昔物語　酒井忠康

クロージング・レセプションの様子

クロージング・レセプション　中庭の様子

鎌倉館閉館まで

松尾子水樹

「鎌倉からはじまった。1951-2016」という3つの展覧会を通して鎌倉館の歴史を振り返る一方で、2016年1月31日の展覧会終了、また3月31日の鎌倉館閉館を見据え、さまざまなイベントを行った。

まず、10月24日を「展覧会終了まであと100日」とし、券売横に告知ボードを掲出してカウントダウンをはじめた。11月8日には1955年に来館したル・コルビュジエと坂倉準三が中庭に立つ写真を模して来館者が《こけし》とともに記念撮影できるように、2人の立ち位置を示す足跡形のシールを中庭に貼った。

続いて、鎌倉館開館記念日11月17日から23日までの一週間を「開館64周年記念週間」として、特別企画を開催した。1951年の開館に向けて原 弘がデザインした鎌倉館のイラスト（PART3で展示）を元に、桑畑吉伸がデザインしたオリジナル缶バッジを作成し、2階受付にて先着1,951名に配付した。写真募集「鎌倉館とわたし」では、鎌倉館で撮影された古い写真とコメントを一般から募集し、美術館側からも一言を添えて、1階彫刻室脇の壁面パネルに展示した（応募数：12人21点、好評につき12月まで展示期間を延長）。開館の年から1980年代まで、建物や野外彫刻の当時の様子もうかがえる興味深い記録写真とコメントをいただいた。

記念週間のあいだ、午後5時の閉館時から午後6時までライトアンドリヒト株式会社の協力で、鎌倉館のライトアップを行った。西側正面大階段と南側2階テラスに設置したLED照明と、テラス、彫刻室の暖色系蛍光灯と新館内部のスポット照明で建物を内部から発光させた。リハーサル時に撮影した写真（撮影：新 良太）に桑畑吉伸がロゴをあしらい、ライトアップのポスター数部を作成し、近隣施設に掲示した。

学芸員今昔物語では、OB同士が話す内容について打ち合わせ等していないのにも関わらず、おのずと話がつながるリレートークとなった。

一般公開終了（2016年1月31日）を一ヶ月後に控え、来館者との交流を図るべく12月26日からは来館者から鎌倉館への「メッセージ」を書いていただくコーナーを1階彫刻室脇に設けた。メッセージが記入されたカードは順次、壁面パネル掲示し紹介した。寄せられたカードは一般公開最終日までに1,790枚にのぼった。

1月16日、「神奈川県立近代美術館 鎌倉　クロージング・レセプション」が開かれた。当日は午後5時からの開会に先立ち、午後4時30分から新館西側外壁と彫刻室にて映像を上映。水沢勉館長の挨拶、画家の渡辺豊重による挨拶の後、当館元館長（現・世田谷美術館長）の酒井忠康による乾杯に続いて、午後5時30分から中庭北壁面に「鎌近（カマキン）　記憶の箱」が上映された。レセプションには招待客を中心に約540人が参加。午後6時15分から旧館大階段を舞台に、サウンド・アーティストの鈴木昭男によるパフォーマンスで閉会し、旧館、新館のライトアップを行った。同日、記録本『鎌倉からはじまった。「神奈川県立近代美術館 鎌倉」の65年』が発売となった。

1月30日と31日には、開館時間を延長し、午後5時40分頃より中庭にて「鎌近（カマキン）　記憶の箱」を再上映。閉館後、鎌倉館のライトアップを行った。

一般公開終了後、展覧会の撤去作業に続いて、鎌倉館閉館に向けた準備がはじまった。3月31日の鎌倉館閉館までの流れは以下の通りである。2月1日にPART3展の看板から、一般公開終了の告知に付け替えた（図1）。展示室の壁補修などを行った後、葉山への野外彫刻や喫茶室の田中岑による壁画《女の一生》移設のための清掃、調査を実施した（図2）。

旧館2階書庫の図書・資料や別棟倉庫内に置かれた資料類を整理・処分するとともに、2月27日に鎌倉別館展示室へ学芸員室を移動した。また3月3日に別棟前と旧館中庭にある彫刻2点を、葉山館に移設した。

3月23日に管理課が鎌倉別館に移動し、25日に県道側と参道側の門の銘板をはずし、その作業を記録撮影した（図3）。31日まで有人警備を継続、4月1日に全員鎌倉別館に移動した。

1. PART3展の看板から、一般公開終了の告知看板に付け替える。

2. 田中岑壁画移設のための調査。

3. 県道側の銘板をはずす。

教育普及活動

単独イベント

1）パフォーマンス公演「身奏／休息」

日時：7月31日（金）午後7時－7時40分

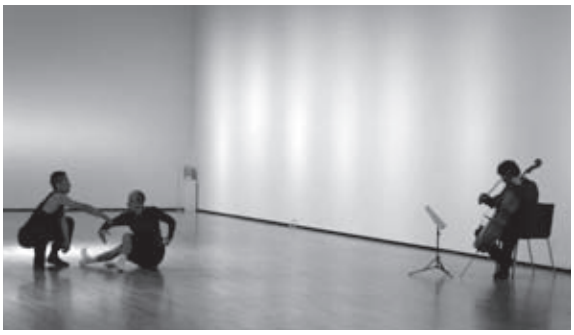
会場：葉山館 展示室

振付・出演：島地保武（ダンサー・振付家）

友情出演：アマンシオ・ゴンザレス（ザ・フォーサイス・カンパニー）

音楽：古川展生（チェリスト）

参加者数：120名



「身奏／休息」

2）音楽イベント「葉山アンビエント」

日時：8月1日（土）午後3時－4時

会場：葉山館 展示室

出演（エレクトロニクス）：蓮沼執太、イトケン、比嘉 了、千葉広樹、和田 永

出演（パフォーマンス）：岩渕貞太

照明：渡辺敬之

PA：葛西敏彦

企画構成：蓮沼執太（音楽家）

参加者数：200名

「葉山アンビエント」

3）パフォーマンス公演「身奏／記憶」

「身奏／記憶」

日時：9月5日（土）午後3時－3時30分

会場：鎌倉館 中庭

出演：altneu アルトノイ（島地保武＋酒井はな）

音楽：蓮沼執太

参加者数：200名

4）パフォーマンス公演「身奏／始点」

日時：9月12日（土）午後3時－3時30分

会場：葉山館 中庭

出演：altneu アルトノイ（島地保武＋酒井はな）

音楽：蓮沼執太

参加者数：160名

「身奏／始点」　撮影：土居 誉

鎌倉館と葉山館をつなぐ音楽・パフォーマンス公演

土居由美

展示替休館中の葉山館のからっぽの展示室でイベントを開催する、当館でも初の試みが2015年夏の二日間にわたって行われた。パフォーマンス公演「身奏／休息」、音楽イベント「葉山アンビエント」である。この年の葉山館の展覧会スケジュールは「ムルロ工房と20世紀の巨匠たち」が7月20日に終了し、次の展覧会「若林奮　飛葉と振動」が始まる8月15日までの約1ヶ月間が展示替休館となっていた。二つの展覧会とも巡回展で、他館の開催日程との関係で通常より長い展示替休館となったのだが、休館中がちょうど夏休み期間中であり、特に葉山館は海のすぐそばに立地し、本来なら一年のうちで数多くの来館者が訪れる時期と重なっていた。そのため展覧会が開催されていなくとも何らかの形でお客様に美術館に来て楽しんでもらえるイベントを開催できないかというところから、休館中の展示室内で行う二つのイベントが企画された。

振付家・ダンサーの島地保武が振付・出演したのが、パフォーマンス公演「身奏／休息」である。Noism（新潟市）やザ・フォーサイス・カンパニー（ドイツ・フランクフルト）に所属してきた島地は、2014年7月には葉山館の展覧会「いろ・うごき・かたち　アートをめぐる夏の冒険」の関連企画で「うごきで探るワークショップ」の講師を務め、ソロパフォーマンス「He is turning into me」にも出演、2015年7月からは日本に本拠地を移し活動している。本公演では、ザ・フォーサイス・カンパニーで共に活動していたダンサーのアマンシオ・ゴンザレスとともにパフォーマンスを行った。音楽の古川展生は東京都交響楽団の主席チェロ奏者で、他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも積極的に行い、島地ともこれまでに何度か共演している。

展示室内で行われたパフォーマンスは、劇場での公演のような舞台と客席という設定はなく、開場と同時に観客は展示室内の思い思いの場所に座り、またダンサーとチェリストが展示室内を移動しながらパフォーマンスを行い、観客もその動きを追いながら見るというものであった。

音楽イベント「葉山アンビエント」を企画構成したのは音楽家・蓮沼執太である。蓮沼は国内外でのコンサート公演、映画や舞台芸術、音楽プ

ロデュースなど領域横断的表現を多数制作、また個展形式での展覧会やプロジェクトも活発に行っている。美術と音楽の領域を跨いで融合することのできるクリエーターとして今回の企画を委嘱し、この音楽イベントは実現した。

蓮沼、イトケン、比嘉 了、千葉広樹、和田 永の 5 人のプレイヤーは、各々展示室に分かれて電子音楽によるインプロヴィゼーションを行い、ダンサーの岩渕貞太がその場の音に呼応して展示室内を自由に動く。決まっていたことは午後 3 時の観客入場と同時に演奏がスタートし、1 時間後に照明が消え暗転するのに合わせ演奏終了となることのみだった。

5 人の即興演奏はそれぞれの場所で独立したものでありながら展示室の境界では音が混じり合い、観客は展示室内を自由に動きまわり、好きなプレイヤーの前で聞き入ったり、ダンサーの動きを追ったりする。やがて照明が消え暗転と同時に演奏が終わり、先程まで響いていた電子音が嘘のように静寂と暗闇が会場全体を包む。無音に耳を澄まし、暗闇に目を凝らすような感覚が約 10 秒続いた後、会場の照明が再び明るくなり、観客から拍手が巻き起こった。

そして 2016 年 3 月に閉館する鎌倉館の歴史と記憶を葉山館につないでいくことをテーマに、二つの場所で行われたパフォーマンス公演が「身奏／記憶」（9 月 5 日、鎌倉館）、「身奏／始点」（9 月 12 日、葉山館）である。ドイツ語で「旧」と「新」を意味する言葉をつなぎ合わせた造語「altneu（アルトノイ）」をダンスユニット名とする島地保武と酒井はなのダンス、そして蓮沼執太による音楽。

鎌倉館ではイサム・ノグチの《こけし》が立つ中庭を舞台に、葉山館では海を望む中庭を中心に建物の屋上にもダンサーが上るなど屋外の空間を縦横に使ったパフォーマンスとなった。またダンスに呼応して即興で奏でられる蓮沼の音楽には、風や海の自然音や通りの人工音など、その場所で聞こえてくる音が違和感なく溶け込んでいた。鎌倉と葉山で行われた二つの公演はそのタイトル通り、それぞれの時空に「記憶」を刻み、「始点」を打ち込むものとなった。

美術館でこのようなダンスや音楽イベントを行う意義がどこにあるのか。「葉山アンビエント」では子どもたちがプレイヤーの操る音楽機材を興味津々に覗き込み、その演奏をかぶりつきで見ていた。例えばそれは蓮沼の電子機材セットにピアニカが並んでいたり、和田のオープンリールのテープに子どもが絡まるようにして岩渕をまねて踊っていたことが象徴するように、演者と観客の境界を乗り越え、表現のジャンルの括りを軽々と越境する子どもたちの姿にある。

コンテンポラリーダンスや現代音楽などの公演は、その分野をよく知らない人には敷居が高く感じられることだろう。また劇場での公演は通常、未就学児入場不可の場合が多い。0 歳児から入れるコンサートなどもあるが、それはあくまで「子ども向け」の内容であることがほとんどで「大人」を対象にした公演ではない。しかし今回のように、美術館で行うイベントには年齢制限はなく、対象も限定しておらず、誰でも自由に入場することができる。つまり美術館は誰もがそこに来て未知の表現と出会うきっかけとなる、開かれた場として機能する。そのことをあらためて認識したのが今回の一連のイベントであった。

展覧会関連イベント

葉山館————

713 「日韓近代美術家のまなざし—『朝鮮』で描く」

1）日韓文化交流プログラム

・第一部 特別講演会「愛と叛逆—1930 年代東京　アヴァンギャルド洋画研究所と文化学院」

日時：4 月 4 日（土）午後 1 時－ 2 時 30 分

場所：葉山館 講堂

講師：金 秉騏（キム・ビョンギ）（画家／本展出品作家）

聞き手：水沢 勉、金 惠信（キム・ヘシン）（沖縄県立芸術大学准教授）、李 美那

参加者数：50 名

・第二部 国際シンポジウム「複層—日韓近代美術家たちのまなざしが開く新たな地平」

日時：4 月 5 日（日）午前 10 時－午後 5 時

場所：国際交流基金ビル ホール「さくら」（東京都新宿区四谷）

発表内容等：

全体進行・総合司会：冨田康子（本展研究会会員・横須賀美術館学芸員）

あいさつ：井内佳津江（本展研究会会長・北海道立近代美術館主任学芸員）

展覧会内容紹介：高 晟埈（本展研究会会員・新潟県立万代島美術館主任学芸員）

本シンポジウムの目的と問題設定：李 美那（本展研究会会員）

発表者 1：「李箱の京城と東京」冨井正憲（漢陽大学建築学部客員教授）・コメント 川村 湊（法政大学国際文化学部長・教授）

発表者 2：「自由の精神の場としての文化学院」金 仁惠（韓国国立現代美術館学芸研究士）・コメント 水沢 勉（本展研究会顧問）

発表者 3：「朝鮮で描く—風俗画」金 炫淑（本展韓国側監修者・成均館大學校兼任教授）・コメント 小勝禮子（栃木県立美術館学芸課長）

発表者 4：「越境／失境／望郷／亡郷　日韓美術家たちの多層性」李 美那・コメント 後小路雅弘（九州大学大学院教授）

ディスカッション：モデレーター 水沢 勉

おわりのあいさつ：井内佳津江

参加者数：110 人

・第三部 国際シンポジウム交流会

日時：4 月 5 日（日）午後 5 時－ 6 時

場所：国際交流基金ビル イベントスペース「けやき」

参加者数：60 人

主催：「日韓近代美術家のまなざし」展研究会・国際交流基金

後援：文化資源学会

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団

協力：神奈川県立近代美術館・新潟県立万代島美術館・岐阜県美術館・北海道立近代美術館・都城市立美術館・福岡アジア美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会

協賛：眞露株式会社

特別講演会　金 秉騏

2）館長によるトーク
日時：5月2日（土）午後2時－3時
場所：葉山館 展示室
講師：水沢 勉、聞き手：李 美那
参加者数：70名

714 「ムルロ工房と20世紀の巨匠たち　パリが愛したリトグラフ」
1）ワークショップ「キッチンリトグラフをつくろう！」
日時：7月18日（土）①午後1時－2時30分　②午後3時－4時30分
場所：葉山館 講堂
講師：土居由美、川人未来
定員：20名
参加者数：①21名 ②22名

キッチンリトグラフ

715 「若林 奮　飛葉と振動」
1）記念講演会「ある日の若林奮」
日時：8月15日（土）午後1時30分－3時
場所：葉山館 講堂
講師：酒井忠康（世田谷美術館長）
参加者数：80名

記念講演会　酒井忠康

2）記念対談「ラスコーと武蔵野の庭」

記念対談　吉増剛造

日時：11月7日（土）午後2時－3時30分
場所：葉山館 講堂
講師：吉増剛造（詩人）× 酒井忠康 ※当初、講師予定の関口涼子（著述家・翻訳家）から変更。
参加者数：80名

3）アーティスト・トーク「若林奮と私」
日時：9月27日（日）午後2時－3時
場所：葉山館 展示室
講師：加納光於（美術家）
参加者数：40名

アーティスト・トーク　加納光於

4）館長によるトーク
日時：①8月22日（土）②10月10日（土）③11月23日（月・祝）各日午後2時－3時
場所：葉山館 展示室
講師：水沢 勉 ②ゲスト：淀井彩子（画家）
参加者数：①30名 ②35名 ③33名

館長によるトーク　ゲスト 淀井彩子

5）クロス・トーク　ゲスト×館長
日時：①9月19日（土）②10月12日（月・祝）③12月23日（水・祝）各日午後2時－3時
場所：葉山館 展示室
ゲスト：①鍵岡正謹（岡山県立美術館顧問）
②小泉俊己（多摩美術大学教授）
③山口啓介（美術家）
参加者数：①10名 ②25名 ③96名

6）若林奮作品見学ツアー
本展を機に葉山館屋外に設置した若林奮の《地表面の耐久性について》（1975年）と、横須賀美術館に常設されている《Valleys》（1989年／2006年設置）を中心に、各館を解説付きで見学した。
日時・場所：10月18日（日）午前10時－11時30分 葉山館／午後2時－4時 横須賀美術館
案内人：原田 光（岩手県立美術館長）、水沢 勉
参加者数：13名

716 「ヘレン・シャルフベック―魂のまなざし」

1）オープニング・トーク

日時：2016 年 1 月 10 日（土）午後 2 時－ 3 時

場所：葉山館 展示室

講師：水沢 勉

参加者数：75 名

2）館長によるトーク ※「志村ふくみ、シャルフベックを語る」から変更。

日時：1 月 23 日（土）午後 2 時－ 3 時

場所：葉山館 展示室

講師：水沢 勉

参加者数：30 名

3）ゲストトーク

日時：2 月 6 日（土）午後 2 時－ 3 時

場所：葉山館 展示室

講師：佐藤直樹（本展監修者／東京藝術大学美術学部准教授）

聞き手：水沢 勉

参加者数：56 名

ゲストトーク　佐藤直樹

鎌倉館／鎌倉別館――――

717「鎌倉からはじまった。1951-2016 PART1: 1985-2016 近代美術館のこれから」

718「鎌倉からはじまった。1951-2016 PART2: 1966-1984 発信する近代美術館」

719「鎌倉からはじまった。1951-2016 PART3: 1951-1965『鎌倉近代美術館』誕生」

1）館長によるトーク

日時：① 4 月 26 日（日）② 7 月 25 日（土）③ 8 月 29 日（土）④ 12 月 12 日（土）⑤ 2016 年 1 月 24 日（日）各日午後 2 時－ 3 時

場所：鎌倉館

講師：水沢 勉

参加者数：① 67 名 ② 25 名 ③ 45 名 ④ 60 名 ⑤ 258 名

2）建築トーク

日時：

① 6 月 5 日（金）午後 2 時－ 3 時「学芸員による建築トーク」

② 7 月 23 日（木）、③ 8 月 21 日（金）各日午後 2 時－ 3 時「子ども建築ツアー」

④ 9 月 3 日（木）午後 2 時－ 3 時「学芸員による建築トーク」

⑤ 11 月 1 日（日）午後 2 時－ 3 時 30 分「青木淳による建築トーク」

場所：鎌倉館 前庭および中庭

講師：⑤青木 淳（建築家）

参加者数：① 13 名 ② 11 名 ③ 18 名 ④ 18 名 ⑤ 29 名

子ども建築ツアー

建築トーク　青木淳

3）連続講演会（平成 27 年度県立機関活用講座）

「鎌倉からはじまった。1951-2016　近代美術館とわたし」

場所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール（鎌倉市御成町）

第 1 回「私の鎌倉近代美術館」

日時：10 月 17 日（土）午後 2 時－ 4 時

講師：荻野アンナ（作家／慶應義塾大学教授）

参加者数：37 名

荻野アンナ

第 2 回「美術館という空間」

日時：10 月 31 日（土）午後 2 時－ 4 時

講師：李 禹煥（美術家）

参加者数：86 名

李 禹煥

第 3 回「“ 鎌近 ” の誕生―美術館の戦後 70 年」
日時：11 月 14 日（土）午後 2 時― 4 時
講師：高階秀爾（大原美術館長／西洋美術振興財団理事長／東京大学名誉教授）
参加者数：85 名

高階秀爾

第 4 回「坂倉準三と鎌倉館について」
日時：11 月 15 日（日）午後 2 時― 4 時
講師：藤森照信（建築史家／建築家／工学院大学特任教授／東京大学名誉教授）
参加者数：94 名

藤森照信

第 5 回「カマクラ詣でのころ」
日時：11 月 22 日（日）午後 2 時― 4 時
講師：池内 紀（ドイツ文学者／エッセイスト）
参加者数：58 名

池内 紀

4）トヨダヒトシ スライドショー（※詳細は pp.29-30）
日時：① 10 月 24 日（土）午後 5 時― 6 時
場所：鎌倉館 中庭
制作：トヨダヒトシ（写真家）
音響：川端龍太
参加者数：110 名
プログラム：映像日記「白い月」（2010-15 年、35mm・スライドフィルム、サイレント）
日時：② 10 月 25 日（日）午後 5 時― 6 時
場所：鎌倉館 中庭
制作：トヨダヒトシ
音響：川端龍太
音楽／写真：吉村 弘
参加者数：136 名
プログラム：「for Nine Postcards」（2015 年、35mm・スライドフィルム、サウンド、当館委嘱作品）

配布物（①②共通、A5 版 4p）： 館長あいさつ／プログラム／プロフィール

トヨダヒトシ スライドショー

同上

トヨダヒトシ スライドショー　アフタートーク
左から吉村弘夫人・洋子、水沢 勉、トヨダヒトシ

5）小杉武久・和泉希洋志コンサート「LEMP」
日時：11 月 8 日（日）午後 3 時― 4 時
場所：鎌倉館 彫刻室
出演：小杉武久、和泉希洋志（音楽家）
協力：川崎弘二、高嶋清俊、ニシジマアツシ、村井啓哲、井上音響企画、HEAR sound art library
参加者数：95 名
配布物（A5 版 4p）：「音のラディカル・ピクニック」水沢 勉／プログラム／プロフィール
プログラム：
1. 和泉希洋志／ Heteromonic（2015）* 初演
演奏：和泉希洋志、小杉武久
2. 小杉武久／（violin impro.）（2015）
演奏：小杉武久
3. 小杉武久／ Mano Dharma, electronic（1967 ―）
演奏：和泉希洋志、小杉武久

4. 和泉希洋志／ Muralteron（2015）
演奏：和泉希洋志
5. 小杉武久／ South e.v.#2（1962/2014）
演奏：和泉希洋志、小杉武久
6. 小杉武久／ Op. Music（2001）
演奏：和泉希洋志、小杉武久

左から小杉武久、和泉希洋志

6）石田尚志 映像インスタレーション「二夜展」／ Takashi Ishida Two Nights Solo
作品・構成：石田尚志（画家／映像作家）
技術：山本圭太
協力：横浜美術館、タカ・イシイギャラリー、平 曜、鈴木余位、山本 渉
日時：① 11 月 28 日（土）、② 29 日（日）各日午後 5 時－ 6 時
場所：鎌倉館 屋外
参加者数：① 81 名 ② 96 名
配布物（①②共通、A5 版 4p）：［解説］、プログラム／プロフィールプログラム：
1. 渦まく光（2015）
2. 浜の絵 2（2015）［新館外壁］
3. フーガの技法（2001）
4. 絵馬・絵巻（2003）
5. 水の絵（2015）
6. 色の波の絵巻（2010）［外階段］

石田尚志　映像インスタレーション

同上

7）クロージング・レセプション
日時：2016 年 1 月 16 日（土）午後 5 時－ 6 時 30 分
場所：鎌倉館
①映像上映「鎌近（カマキン）記憶の箱」
制作：株式会社らくだスタジオ
②パフォーマンス
出演：鈴木昭男（サウンド・アーティスト）
③ライトアップ
協力：ライトアンドリヒト株式会社

クロージング・レセプション　鈴木昭男　パフォーマンス

「鎌倉からはじまった。1951 － 2016」のパフォーマンス・イベント

三本松倫代

三期にわたる「鎌倉からはじまった。1951-2016」では、これまでもパフォーマンスやコンサートを行ってきた鎌倉館の記憶を呼び起こし、活動の記録に新たな軌跡を刻む試みとして、複数のアーティストに新作を委嘱し、一連のイベントを行った。

PART3 では、まず 10 月 24 日と 25 日に、写真家のトヨダヒトシによるスライドショーを中庭で行った。本企画は、鎌倉館開館当初、中庭北側壁面に映写幕が設置されており、映画上映会などが行われていたことから、約 60 年ぶりの再体験を試みたものである（その後、映写幕を収めた筒状の構造物は撤去された。時期は不明）。5.6 × 8.5 メートルの映写幕を 2 日間のみ屋根から中庭に下ろし、設置した（協力：柴田漢央、株式会社精美堂）。

トヨダは撮影した写真を自ら機器を操作してスライドショーの形式で発表する写真家だが、今回は写真家・美術館ともに初の試みとして、鎌倉館と葉山館の開館・閉館時の音楽（サウンドロゴ）を手がけた作曲家の吉村 弘（1940–2003）が遺した約 2,600 枚の写真スライドからトヨダが画像を選びだし、吉村の音楽とともにスライドショーに構成した新作「for Nine Postcards」を上演した（25 日）。残照が引くのを待ち、予定時間を 20 分ほど過ぎて上演開始。24 日の「白い月」と同様に 2 階テラスに設置した 2 台の映写機をトヨダ自身が操作して映写する（音響協力：川端龍太）。25 日にはトヨダが手持ちの映写機をもって中庭に下り、吉村が写る写真を東面の壁に投影して終演となった。両日とも終演後に中庭で、トヨダと水沢館長（25 日は吉村弘夫人も参加）によるアフタートークを行った。

11 月 8 日には、小杉武久と和泉希洋志によるコンサート「LEMP」が彫刻室で行われた。新館（第 3 展示室）で個展「WAVES 小杉武久サウンドインスタレーション（今日の作家Ⅶ）」を開催した折に、新館で行ったパフォーマンス（2002 年 6 月 16 日）から、13 年ぶり二度目の公演である。大谷石の壁を背に機材や装置が置かれた机と自転車が配置さ

れ、館長による紹介に続いて約 1 時間の演奏が行われた。雨天の肌寒い午後であったが、鎌倉の古称（鎌府（れんぷ））と雷電磁パルス（Lightning Electromagnetic Pulse）の略称を掛けたタイトル「LEMP」の通り、時に、階段側まで空間を大きく移動しながら行われた小杉のバイオリンによるインプロヴィゼーションをはじめとする鮮烈な音は、来場者に鎌倉館の新たな記憶を残した。

11 月 28 日、29 日には、画家・映像作家の石田尚志による映像インスタレーション「二夜展」を開催。本企画に向けて同年夏に鎌倉館の 1 階床面で制作した水のドローイングによる新作や初公開の映像と旧作をあわせて、中庭、彫刻室の石壁、新館外壁、池側テラスの床や池の水面、正面階段の天井にループ上映される 6 作品（モニター 1 点含む）を作家が構成した。半屋外という建物の特徴を活かして夕闇の空間を上映室に変換し、午後 5 時に通常の展示室が閉じられた後で、来場者は思い思いに空間をめぐり、絵画としての光と色彩がめまぐるしく展開する石田の映像を体験した。ガラスや開口部の多い建物はさまざまな場所に立つことで遊歩者に新たな鑑賞方法を開き、2 階テラスから中庭の北・東側壁面と床上に投影された回転する方形の映像や、旧館から新館のホーロータイル壁に投影された、水辺で作られた映像とその池への反映など、鎌倉館の建築的特長と作品の個性を一致させた会場構成は、二夜限りの個展というに相応しいものだった。

2016 年 1 月 16 日のクロージング・レセプションでは、鈴木昭男によるパフォーマンスが行われた。これまで葉山館で講演やワークショップ、野外作品設置などの活動を行ってきた鈴木に、鎌倉館では最初で最後となる公演を依頼したものである。65 年にわたり来館者を迎えて来た正面入口階段を舞台として、来館者が階段下の前庭から見守るなか、2 階のガラス扉から登場した鈴木は、階段の踏み面にカラフルな布袋に入った音具を柔らかく打ち下ろして音を奏で、また自らの創作音具「アナラポス」を宮北裕美とともに階段の段差を利用しながら空間一杯に伸縮させて、繊細な音を半屋外の空間と共鳴させた。このパフォーマンスの終演がレセプションの閉幕を告げ、ライトアップされた建物とともに来場者を見送るものとなった。

全公演を通じて、鎌倉館の建物とサウンドや映像が溶け合う体験を幸福な時間として評価する声、また美術館自体が素晴らしい作品であることに改めて気付かされたとの感想が、アンケートなどで寄せられた。各公演の記録と経験を今後の美術館活動に反映していきたい。

学校・地域向けプログラム

1）先生のための特別鑑賞の時間

教員や学校関係者が鑑賞学習の美術館利用を支援するプログラム。各展覧会と連動するかたちで行った。内容は、鑑賞の授業作りを意識した「鑑賞編」を葉山館で実施し、美術館の役割をより知ってもらうための「美術館を知る編」を鎌倉館で実施した。

・日時：5 月 2 日（土）午前 10 時－午後 0 時 30 分
場所：葉山館 講堂、展示室
担当：李 美那、土居由美、児矢野あゆみ
参加者数：10 名

・日時：6 月 6 日（土）午前 9 時 30 分－午後 0 時 30 分
場所：鎌倉館、鎌倉別館
担当：長門佐季、松尾子水樹
参加者数：15 名

・日時：7 月 4 日（土）午前 10 時－午後 0 時 30 分
場所：葉山館 講堂、展示室
担当：長門佐季、土居由美、児矢野あゆみ
参加者数：14 名

・日時：7 月 11 日（土）午前 9 時 30 分－午後 0 時 30 分
場所：鎌倉館
担当：西澤晴美、松尾子水樹
参加者：16 名

・日時：8 月 22 日（土）午前 9 時 30 分－午後 0 時 30 分
場所：葉山館 講堂、展示室
担当：朝木由香、土居由美、川人未来、児矢野あゆみ
参加者数：7 名

・日時：10 月 18 日（日）午前 9 時 30 分－午後 0 時 30 分
場所：鎌倉館、鎌倉別館
担当：三本松倫代、松尾子水樹
参加者数：13 名

・日時：2016 年 1 月 23 日（土）午前 10 時－午後 0 時 30 分
場所：葉山館 講堂、展示室
担当：籾山昌夫、土居由美、川人未来
参加者数：19 名

先生のための特別鑑賞の時間　2016 年 1 月 23 日

2）ミュージアム・トリップ

鎌倉市立第一中学校と連携して、美術館で授業を行った。内容は、展覧会鑑賞と関連ワークショップなど。

・日時：5 月 28 日（木）午後 1 時 30 分－ 4 時 30 分
場所：鎌倉館
担当：川人未来、松尾子水樹
参加者数：13 名

・日時：6 月 11 日（木）午後 2 時 30 分－ 4 時 30 分
場所：葉山館

担当：川人未来、松尾子水樹
参加者数：14 名
・日時：7 月 2 日（木）午後 2 時 30 分－ 4 時 30 分
場所：葉山館
担当：川人未来
参加者数：14 名
・日時：9 月 3 日（木）午後 1 時 30 分－ 4 時 30 分
場所：鎌倉館
担当：川人未来、松尾子水樹
参加者数：13 名

ミュージアム・トリップ　鎌倉館

ミュージアム・トリップ　葉山館

3）博物館学芸員実習
期間：8 月 4 日（火）－ 16 日（日）（内 10 日間）
3 名を受け入れ学芸員資格取得のための博物館実習を行った。

4）インターン研修
期間：5 月 23 日（土）－ 2016 年 3 月 2 日（水）（内 23 日間）
学芸分野で 1 名を採用し、修了証を発行した。

5）高校生インターンシップ受入れプログラム
日時：8 月 20 日（木）－ 22 日（土）各日午前 9 時 30 分－午後 4 時 30 分
相模女子大学高等部、県立逗葉高校、県立瀬谷西高校、県立海洋科学高校、県立高浜高校の 5 校 7 名の高校生インターンを葉山館で受け入れ、鑑賞や学芸員の仕事体験などのプログラムを実施した。

6）中学生職業体験受入れプログラム
鎌倉市立岩瀬中学校、逗子市立逗子中学校、逗子市立久木中学校、葉山町立葉山中学校、葉山町立南郷中学校、藤沢市立高浜中学校の 2 年生 14 名の職場体験・職業体験を受け入れ、鑑賞や美術館で働く人の仕事体験などのプログラムを実施した。

7）教員研修プログラム
日時：7 月 21 日（火）、23 日（木）各日午前 9 時－午後 4 時
葉山町立上山口小学校、葉山町立一色小学校、鎌倉市立深沢小学校、小田原市立城山中学校の 4 校から 4 名の教員研修を受け入れ、鑑賞学習や美術館の役割を知る体験プログラムを実施した。

8）出張授業
・日時：6 月 16 日（火）午前 8 時 50 分－午後 2 時 20 分
場所：逗子市立逗子中学校
担当：土居由美、川人未来
参加者数：1 年 4 クラス 124 名
・日時：6 月 19 日（金）午前 8 時 50 分－午後 2 時 20 分
場所：逗子市立久木中学校
担当：土居由美、川人未来
参加者数：1 年 5 クラス 190 名
・日時：6 月 25 日（木）午前 10 時－ 11 時
場所：横須賀市立養護学校
担当：土居由美、川人未来
参加者数：19 名
・日時：7 月 7 日（火）午前 8 時 50 分－午後 2 時 40 分
場所：鎌倉市立大船中学校
担当：松尾子水樹、川人未来
参加者数：1 年 4 クラス 142 名
・日時：7 月 9 日（木）午前 8 時 50 分－午後 2 時 40 分
場所：鎌倉市立大船中学校
担当：松尾子水樹、川人未来
参加者数：2 年 5 クラス 161 名
・日時：7 月 24 日（金）午後 1 時－ 2 時 30 分
場所：横浜市立瀬ヶ崎小学校
担当：松尾子水樹、川人未来
参加者数：職員 30 名
・日時：10 月 15 日（木）午前 10 時－午後 0 時
場所：開成町立開成南小学校
担当：土居由美、川人未来
参加者数：4 年 3 クラス 113 名
・日時：12 月 15 日（火）午前 9 時－午後 2 時 30 分
場所：横浜市立瀬ヶ崎小学校
担当：松尾子水樹、川人未来
参加者数：5･6 年生 4 クラス 144 名

9）「Museum Box 宝箱」貸出
2011 年に再版した「Museum Box 宝箱」は、小中学生の鑑賞学習教材としてだけでなく、人と美術館を結ぶコミュニケーション・ツールとして大いに活用され続けている。
貸出先：30 校 33 団体
貸出総数：322 個
利用総人数：2,514 名
主な貸出先：小学校、中学校、大学、アートスクール

10）団体来館受入れプログラム
団体受入れについては、観覧前に美術館ルールブックを送るなどして、美術館の紹介や、鑑賞マナーの説明をするなど、美術館に親しめるような工夫を行っている。また、申込時の希望に応じて、担当学芸員による展覧会紹介や建築についての解説や鑑賞や制作・ものづくりを内容とした特別ワークショップを開催した。
幼稚園：2 園／延べ 2 回 114 名
小学校：4 校／延べ 14 回 398 名
中学校：17 校／延べ 30 回 877 名
高等学校：9 校／延べ 10 回 195 名
特別支援学校：4 校／延べ 4 校 65 名
大学：19 校／延べ 28 校 808 名
美術学校等：6 校／延べ 7 校 101 名

11）葉山芸術祭アートウォーク

日程：5月6日（水、祝）

ゴールデンウィークの時期に行われる葉山芸術祭に連携して、葉山館で開催中の展覧会の鑑賞とあわせて学芸員と一緒に近隣のアートスポットなどを歩くアートウォークを実施した。

12）小町通り・八幡宮エリア鎌倉文化ゾーン ミュージアムめぐりスタンプラリー

期間：4月11日（土）－2016年1月31日（日）

鎌倉館とその近隣3館（鎌倉市鏑木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉国宝館）で連携したスタンプラリーを実施した。

4館引替数合計：1,393人

当館引替数：364人

2015年度（平成27年度）視察受入状況

年	月　日	来　館　者	人数	視察場所
2015年（平成27年）	8月25日（火）	神奈川県教育委員会委員	4人	鎌倉館
	10月23日（金）	三浦半島地区教育長協議会	17人	葉山館
	10月31日（土）	ICOMOS、DOCOMOMO Japan関係者	50人	鎌倉館
	11月7日（土）	大阪市経済戦略局大阪新美術館建設準備室	4人	葉山館
	12月16日（水）	鳥取県立博物館	3人	葉山館
2016年（平成28年）	2月26日（金）	21世紀ミュージアム・サミット関係者	5人	葉山館

美術図書室

山中久美子

1）資料の収集・整理

・蔵書数（システム登録2016年3月末現在）83,072冊

・2015年度新規図書・AV・図録登録数2,449冊

2）特別コレクション

・青木茂旧蔵資料の登録

3）閲覧サービス

・年間入室者数3,618名（開館日1日平均14名）

・年間複写枚数2,133枚（開館日1日平均8枚）

・年間レファレンス受付件数158件

・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会による大きな変動はなかった。なお、展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は概ね10％前後であったが、「シャルフベック展」が12％と高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「若林奮展」開催期間中が最も多く、合計56件であった。

当年度のレファレンスとして、鎌倉館関連として葉山館を含めた当館の建築や歴史に関する資料、鎌倉館で開催された1970年代の頃の展覧会関係等が複数件あった。また、「鴨居玲の画集」「子ども向けの美術の解説書」「斎藤義重文庫について」「マリー・ローランサンの赤ちゃんを抱いている絵」「日韓展でみたイ・ジュンソプの画集」「モランディの本」等の事例があった。

4）展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

なお、展覧会関連資料の展示は鎌倉館・鎌倉別館での展覧会についても行っているが、スペースの関係上、葉山館での展覧会を主としているため、ここでは葉山館の展覧会のみを記す。

・「日韓近代美術家のまなざし『朝鮮』で描く」

伊丹潤『朝鮮の建築と文化』（求龍堂、1983）、鄭于澤・並木誠士『韓国の美術・日本の美術』（昭和堂、2002）、吉良文男『いまこそ知りたい朝鮮半島の美術』（小学館、2002）、金惠信『韓国近代美術研究』（ブリュッケ、2005）、豊田市美術館編『近代の東アジアイメージ：日本近代美術はどうアジアを描いてきたか』（豊田市美術館、2009）、福岡アジア美術館編『官展にみる近代美術：東京・ソウル・台北・長春』（福岡アジア美術館、2014）、静岡県立美術館編『静岡県立美術館研究紀要18』（静岡県立美術館、2003）［李 美那「近代の朝鮮半島と日本の美術関連年表」、「金秉騏氏へのインタビュー」所収］など、韓国の近代美術関連の資料や展覧会図録を展示した。

・「ムルロ工房と20世紀の巨匠たち パリが愛したリトグラフ」

ムルロ工房についての資料や出品作家に関する資料を集めた。

フェルナン・ムルロ著、益田祐作訳『パリの版画工房 ： 思い出に刻まれた芸術家たち』（求龍堂、1981）、西武百貨店美術部編『ムルロ工房 リトグラフ展：リトグラフ50年の歩み』（西武百貨店美術部、1984）、アートワン編『ピカソ石版画展：パリ・ムルロ工房所蔵』（アー

トワン、1989)、愛知県美術館／ Bunkamura ザ・ミュージアム編『ボナール展:没後 50 年 開館 5 周年記念』(愛知県美術館・中日新聞社、1997)、町田市立国際版画美術館・富山県立近代美術館編『石に描く:石版画の 200 年 ゼネフェルダーからピカソまで』(町田市立国際版画美術館・富山県立近代美術館、1998)、東武美術館学芸企画課編『オノレ・ドーミエ版画Ⅱ』(東武百貨店、1999)、村上博哉編『ミロ展 1918-1945』(中日新聞社、2002)、ロンゴス文、松平千秋訳『シャガール　ダフニスとクロエー [普及版]』(岩波書店、2005)、うらわ美術館編『ピカソ マティス シャガール… 巨匠が彩る物語。』(うらわ美術館、2006) などを展示した。

・「若林奮　飛葉と振動」

町田市立国際版画美術館編『若林奮 版画・素描・彫刻展』(町田市立国際版画美術館、1990)、原美術館編『プライマルスピリット:今日の造形精神』(アルカンシェール美術財団、1990)、『Isamu Wakabayashi: 1986-1991』(Akira Ikeda Gallery、1991)、東京国立近代美術館編『若林奮展 素描という出来事』(東京国立近代美術館、1995)、豊田市美術館編『若林奮展 / Wakabayashi Isamu』(豊田市美術館、2002)、若林奮著『若林奮　I.W 若林奮ノート』(書肆山田、2004)、多摩美術大学若林奮研究会編『若林奮 くるみの樹 DRAWING 1999-2003』(多摩美術大学、2005)、世田谷美術館編『若林奮 版画展:デッサンと彫刻のあいだ』(世田谷美術館、2005)、いわき市立美術館編『彫刻なるもの:川島清・土谷武・若林奮の作品から ギャラリーガイド』(いわき市立美術館、2006)、多摩美術大学若林奮研究会編『若林奮 DAISY 1993-1998』(多摩美術大学、2007)、酒井忠康『若林奮 犬になった彫刻家』(みすず書房、2008)、横須賀美術館編『若林奮:VALLEYS』(横須賀美術館、2008)、多摩美術大学若林奮研究会編『若林奮 Dog Field DRAWING 1980-1992』(多摩美術大学、2010)、一角獣座を緑の森に残す会編『若林奮《緑の森の一角獣座》記録集 1995-2015』(一角獣座を緑の森に残す会、2015) などを展示した。

・「ヘレン・シャルフベック」

シャルフベックを日本に紹介した、志村ふくみ『母なる色』(求龍堂、1999) やシャルフベックが掲載されている資料として、ジョン・ボールトン=スミス著、伊藤弘子訳『現代フィンランド絵画』(コガ形象社、1972)、西武美術館編『北欧の美術 ―静寂を見る・叫びが聞こえる』(西武美術館、1987)、フィンランド美術展実行委員会編『フィンランド美術の歩み ―大気 水 土』(フィンランド美術展実行委員会、1994) など。

関連資料としてシャルフベックに影響を与えた画家たちの資料、フランシス・スポールディング著、吉川節子訳『ホイッスラー』(西村書店、1997)、キャサリン・ディーン著、浅野春男訳『セザンヌ』(西村書店、1994)、NHK・NHK プロモーション・朝日新聞社編『エル・グレコ展』(NHK・NHK プロモーション・朝日新聞社、2013)、マリー・ローランサン美術館編『マリー・ローランサン作品集』(マリー・ローランサン美術館、2011) など。あわせてフィンランドの画家を紹介する資料として、Nykytaiteen museo, *Jukka Makela*, Kiasma, Nykytaiteen museo, 1999. 日本美術館企画協議会編『現代フィンランド美術 5 人の作家展』(日本美術館企画協議会、1978)、武蔵野市・日本フィンランド協会編『アクセリ・ガレン=カレラ絵画展』(武蔵野市、1990) などを展示した。

美術館紹介・広報　掲載実績

1) 美術館紹介記事

※鎌倉館の活動及び建築関連について記載する。鎌倉館・別館で開催した「鎌倉からはじまった。 1951-2016」展の関連記事(pp.20-21) もあわせて参照のこと。

・(インタビュー)「館長 水沢 勉氏 すべてが「鎌倉からはじまった。」『湘南よみうり』、2015 年 7 月 1 日 (Vol.433)、p.8

・千足伸行「美藝求真 全国美術館さんぽ vol.17 神奈川県立近代美術館 日本の美術館活動を牽引してきた鎌倉館が終了 65 年の貴重な歴史を振り返る展覧会を開催中」『SQUET』、2015 年 8 月 1 日 (通巻 308 号)、p.33

・「閉館後選択肢に文化施設 近代美術館鎌倉館 八幡宮側初の言及」『読売新聞』、2015 年 9 月 9 日、30 面

・「鎌倉館本館保存へ 県、鶴岡八幡宮に継承」『朝日新聞』、2015 年 9 月 11 日、29 面

・「近代美術館鎌倉館 八幡宮に引き渡しへ」『読売新聞』、2015 年 9 月 11 日、32 面

・「鎌倉館本館、参拝客憩いの場に 県が文教委員会で表明」『朝日新聞』、2015 年 10 月 1 日、25 面

・水沢 勉「forbes FASHION ネイビーの肖像 " ネイビー=信頼感 "」『Forbes JAPAN』、10 月 25 日 (DEC.2015 No.17)、p.107

・森 仁史「「近代」 美術館の誕生　鎌近神話創世記」『一寸』、2015 年 11 月 30 日 (№ 64)、p.80

・「今月の一台 アウディ TT LOCATION 神奈川県立近代美術館葉山」『Gainer』、2015 年 11 月 24 日 (第 27 巻第 1 号)、pp.196-197

・撮影:土居 誉「カマキン、閉館。」『週刊新潮』、2016 年 1 月 14 日 (第 61 巻第 2 号)、pp.160-162

・水沢 勉「すべてがそこではじまった」『文藝春秋』、2016 年 3 月 1 日 (第 94 巻 第 4 号)、p.86

・青木 茂「新・旧刊案内 65 全歌集に洩れた大田遼一郎の作品、土方定一年譜 補」『一寸』、2016 年 3 月 10 日 (№ 65)、p.9

・森 仁史「「近代」 美術館ノート 一九五〇年代初めの動向」『一寸』、2016 年 3 月 10 日 (№ 65)、p.78

ほか計 29 件

2) 普及活動関連の紹介記事

・撮影:土居 誉「疾走する女たち 閉館迫る「鎌倉近美」に舞ったバレエダンサー「酒井はな」」『週刊新潮』、2015 年 9 月 10 日 (第 60 巻第 35 号)、p.141

3) 収蔵作品・作家紹介記事

・水沢 勉「江見絹子さん死去 洋画家、荻野アンナさん母 91 歳」『神奈川新聞』、2015 年 1 月 14 日、23 面

・中村麗子「球子の代表作ずらり 生誕 110 年 片岡球子展 画風の革新をスケッチから探る《面構 葛飾北斎》」『新美術新聞』、2015 年 4 月 1 日 (No.1372)、p.1

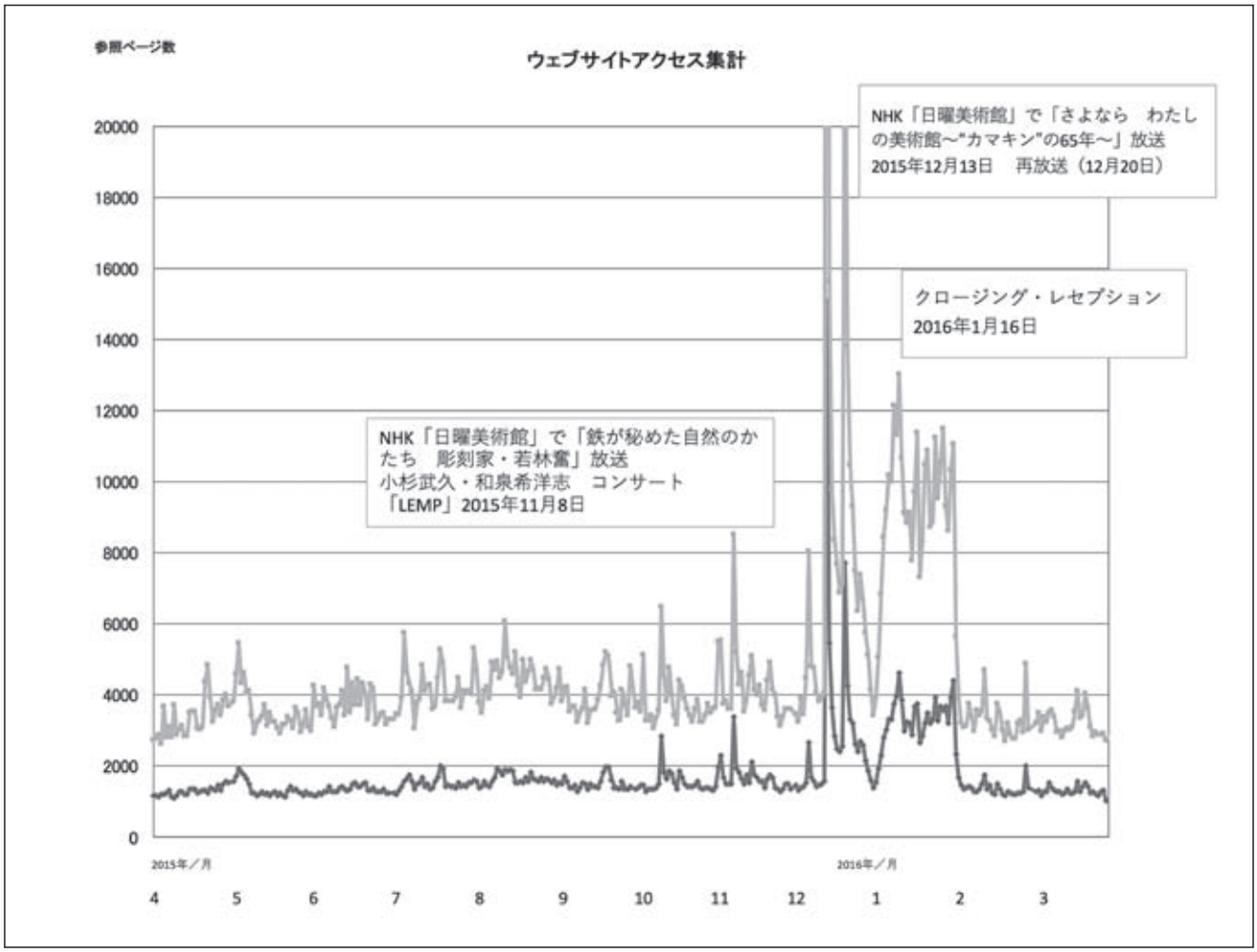
・「Art navi 東京国立近代美術館「生誕 110 年 片岡球子展」《幻想》(図版)」『美術手帖』、2015 年 4 月号 (No.1020)、p.8

・「今月の展覧会 50+ 東京国立近代美術館「生誕 100 年 片岡球子展《面構 葛飾北斎》(図版)」『ギャラリー』、2015 年 4 月号 (第 360 号)、p.45

・木村勝明「村山知義と柳瀬正夢から受け継ぐもの 日本アンデパン

ダン展 アートフォーラムに思う」『しんぶん赤旗』、2015 年 4 月 6 日、10 面
・鷲田清一「折々のことば 82 兵隊は地図を見たことがありません 浜田知明」『朝日新聞』、2015 年 6 月 23 日、1 面
・「萬鉄五郎《裸婦》(表紙)」『性の健康』、2015 年 6 月 30 日(Vol.14 No.1、通巻 21 号)、p.1.
・「画家たちと戦争 彼らはいかにして生きぬいたのか 松本竣介《立てる像》」『新美術新聞』、2015 年 7 月 11 日(No.1381)、4 面
・「A Wainting Paradise 土方久功《まひるの夢》」『TRANSIT』、2015 年 7 月 31 日(summer 2015 No.29)、p.39
・椹木野衣「生誕 110 年 片岡球子展 昭和の山―片岡球子の火山画の起源 片岡球子《火山(浅間山)》」『現代の眼』、2015 年 8 月 1 日(613 号)、pp.8-9
・小沢節子「浜田知明論のために「初年兵哀歌」はどのように論じられてきたのか 浜田知明《忘れえぬ顔 A》《忘れえぬ顔 B》」『美術運動史研究会ニュース』、2015 年 8 月 20 日(No.150)、pp.1-7
・「展覧会のご案内 画家たちと戦争 彼らはいかにして生きぬいたのか 名古屋市美術館 松本竣介《立てる像》」『アートコレクター』、2015 年 8 月 25 日(No.77)、p.93
・「特別企画 美術家の戦後 70 年 [アンケート] 美術家が考える戦後 70 年 櫻井孝美 糸園和三郎《黒い水》《黄色い水》」『新美術新聞』、2015 年 9 月 1 日(No.1385)、6 面
・「特別企画 美術家の戦後 70 年 [アンケート] 美術家が考える戦後 70 年 吹田文明 斎藤義重《鬼》」『新美術新聞』、2015 年 9 月 1 日(No.1385)、7 面
・文:森本智之、紙面構成:宮本直子「カジュアル美術館 早世の画家魂の絶筆 ココを見て!迫る閉館最後の常設展に《サーカスの景》古賀春江 神奈川県立近代美術館 鎌倉館」『東京新聞』、2015 年 10 月 25 日、32 面
・「原三渓と矢代幸雄の関わり」『神奈川新聞』、2015 年 11 月 3 日、5 面
・古田亮(インタビュー)、中尾拓哉(聞き手)、高木考一(撮影)「国家と美術。日本画とは何か 岸田劉生《童女図(麗子立像)》」『美術手帖』、2016 年 1 月 1 日(№ 1032)、p.122
ほか計 22 件

4) ホームページ閲覧数(2015 年 4 月〜 2016 年 3 月)
ホームページ訪問者　総数　633,898
参照ページ　総数　1,707,390



刊行物

1）わくわくゆったりチラシ
デザイン・制作：株式会社 野毛印刷社
21 × 29.7cm、多色
無料配布
2015 年 7 月発行

2）わくわくゆったりバッグ クーポン付
発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：寺井麻美、五反田由貴
制作：株式会社 野毛印刷社
21.5 × 25.5cm、多色
対象：夏休み期間中に来館した 18 歳以下
無料配布
2015 年 7 月発行

3）パフォーマンス公演・音楽イベント「身奏／休息」「葉山アンビエント」「身奏／記憶」「身奏／始点」チラシ
デザイン・制作：朝日オフセット印刷株式会社
21.6 × 29.7cm、2 色
無料配布
2015 年 7 月発行

4）2016 年度年間スケジュール
制作：リーヴル
22.5 × 10cm、三つ折 1 回二つ折 1 回 1 枚、多色 19 図
無料配布
2016 年 3 月発行

5）施設案内（2016 改訂版）
制作：リーヴル
21 × 39.5cm、四つ折 1 枚、多色 12 図
無料配布
2016 年 3 月発行

6）2014 年度年報
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：印象社
29.7 × 21cm、63 ページ、多色 1 図、単色 82 図
無料配布
2016 年 3 月 25 日発行
あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告

7）美術館たより『たいせつな風景』
21 号　特集：はやま
編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：飯村哲也デザイン事務所
迫水ヒサ
制作：朝日オフセット印刷株式会社
20.9 × 14.5cm、表紙含め 16 ページ、多色 2 図、単色 4 図
無料配布
2015 年 10 月 31 日発行
葉山の家（朝吹真理子）／葉山、徒然なるままに　Hayama: eins nach dem anderen（アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン）／24 時の海（内田あぐり）／私の庭　一色の磯（山口蓬春）／表紙作品解説　山口蓬春《パイナップルと洋梨》（橋 秀文）

8）美術館たより『たいせつな風景』
22 号　特集：かまくら
編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：飯村哲也デザイン事務所
制作：朝日オフセット印刷株式会社
20.9 × 14.5cm、表紙含め 16 ページ、多色 2 図、単色 3 図
無料配布
2015 年 11 月 17 日発行
宮崎 進／嶋田しづ／早川重章／北村脩一／村山治江／渡辺豊重／篠原有司男／辻 惟雄／岡本信治郎／加納光於／松本陽子／小杉武久／松本 莞／池内 紀／山本正道／淀井彩子／若江漢字／小川待子／ジョン・クラーク／池田良二／山口由理子／山根基世／中上 清／鷲見和紀郎／内藤 廣／麻生マユ／荻野アンナ／畠山直哉／西村盛雄／ジェニファー・ワイゼンフェルド／伊庭靖子

9）「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究」報告書
編集：籾山昌夫（研究代表者）
発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：飯村哲也デザイン事務所
印刷：朝日オフセット印刷株式会社
21.0 × 14.8cm、表紙含め 32 ページ
単色 17 図
無料配布
2016 年 3 月 31 日発行
JSPS 科研費（25511020）
籾山昌夫「『ソヴィエト連邦建設』の文化学的研究ノート（1）」pp.5-13

作品収集管理活動

2015 年度購入・寄贈状況　2016（平成 28）年 3 月 31 日現在

（作品）

購入件数	9 件
新規寄贈件数	137 件
取得総件数	146 件
収蔵総件数	14,236 件

（資料）

新規寄贈件数	168 件

2015 年度寄託状況　2016（平成 28）年 3 月 31 日現在

（作品）

解除件数	2 件（内、1 件は名義変更）
新規寄託件数	27 件（内、1 件は名義変更）
合計	287 件

（資料）

新規寄託件数	232 件

2015 年度 新収蔵作品一覧

［凡例］
・寸法の単位はcmである。版画については、イメージ寸法と支持体寸法を「/」で区切って記載した。
・表／裏両面に描かれている場合、タイトル、寸法、署名は、「//」で区切って記載した。
・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。文字が判読できない場合は「□」で補った。
・作家による連番は（　）、編集上による連番は［　］に括って記載した。
・詩画集、書籍のうち洋書のタイトルは、原則として、イタリックで併記した。

購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
日本画								
玉村方久斗	不詳	1925-30頃	顔料、板	①左28.4/37.1 右28.3/37.0 ②28.0/37.0 ③左28.2/35.1 右28.2/37.1 ④左28.5/35.3 右28.3/34.8	①155.0/162.5 ②154.5/161.8 ③154.6/162.0 ④154.9/162.6			4 点組（表裏：全 8 面）
素描・水彩画など								
若林奮	［ドローイング　1999.01.30-044］	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	24.5	12.2			
若林奮	［ドローイング　1999.01.30-047］	1999	鉛筆、紙	24.0	13.8			
若林奮	［ドローイング　1999.02.04-050］	1999	鉛筆、紙	25.0	11.0			
若林奮	［ドローイング　1999.02.10-058］	1999	鉛筆、紙	25.0	11.0			
若林奮	［ドローイング　1999.08.18-086］	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	35.0	25.0			
若林奮	［ドローイング　1999.03.29-018］	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	36.0	25.5			
神奈川県立近代美術館賞								
広瀬弘幸	遠景2	2015	油絵具、カンヴァス	116.7	182.0			第51回神奈川県美術展
小川あぐり	揺　2015-Ⅲ	2015	アクリル絵具、カンヴァス	227.0	227.0	10.0		第55回神奈川県女流美術家協会展

寄贈

〈青木茂氏寄贈〉

日本画								
山田成章	［霊鷹図］	1896	淡彩、紙	146.5 / 196.5	78.3 / 92.4		山田成章画并書	
素描・水彩画など								
西田武雄	［裸婦］	不詳	パステル、紙	16.8	25.0			
野村芳光	獅子舞	不詳	水彩絵具、紙	26.5	32.0		左下：芳光［落款］	
野村芳光	［渓谷風景］	不詳	水彩絵具、紙	35.4	26.0			
野村芳光	［山］	不詳	水彩絵具、紙	32.2	23.4		右下：芳光［落款］	
作品資料								
石井柏亭、織田一磨、倉田白羊、小杉放菴／小杉未醒、坂本繁二郎、平福百穂、森田恒友、山本鼎	『方寸画暦』	1909	石版、紙	各 17.4	各 10.4			15 点組（表紙、奥付、扉含む） 発行：方寸社
石井柏亭	社頭之春	不詳	木版、紙	12.7 / 20.4	18.7 / 31.3			
漆山天童（編纂）	『異本　日本繪類考』巻一 - 巻五	不詳	書籍	18.2	12.4			藝苑叢書　4 点

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
岡本勘造（綴）、桜斎房種（画）	『高橋お伝』二編	1879	書籍	17.8	11.9			島鮮堂　合本
仮名垣魯文（編）、守川周重（画）	『高橋阿傳夜叉譚』第八編　上・中・下	1879	書籍	各 17.5	各 11.8			金松堂　3 点
岡村吉右衛門	『萬葉四季花盡し』	1944	書籍	32.3	20.4			限定 100 部のうち 41 番
織田一磨	「本邦石版術の発達」原稿　完	1925	インク、原稿用紙	23.2	30.2			手製本　帙
川端龍子；鶴田吾郎	『華厳』	1917	書籍	12.7	18.5			帙
川端龍子；鶴田吾郎	『スケッチ速習録』第一号-第六号	不詳	書籍	各 17.4	各 15.2			6 点
久保田米僊	『高等科第一年用　小学圖画帖』巻の一、巻の二	1893	書籍	各 18.2	各 24.2			出版：近田太三郎　2 点
呉友如（吳友如）	『海國圖』	不詳	書籍	19.7	25.8			和綴じ本
小杉放菴／小杉未醒	『画筆の跡』	1914	書籍	22.5	15.5			発行:日本美術学院　芝川照吉旧蔵　岸田劉生蔵書票
小杉放菴／小杉未醒	猿臂（未）	不詳	木版、紙	13.0 / 31.3	13.0 / 20.5			
五味和十（編纂）	『昭和四年印刷　圖畫教程』巻二	1929	書籍	22.3	15.0			
小山正太郎（画）	『烟霞皆活』	1917	印刷、紙	各 36.5	各 25.0			編刊：小山越郎　12 点　帙
酒井捨彦（編）	『改正銅鐫　常陸國全圖』全	1880	書籍	12.0	7.3			出版人：小林喜右衛門　折帖
酒井捨彦（編）	『改正　茨城県　管内問答地誌要解附』全	1881	書籍	18.0	12.3			金港堂藏
酒井捨彦（製図）	『日本地圖』（学校用）　第十二版	1891	書籍	23.0	15.0			発行：仙鶴文盛堂
佐藤春夫	『小杯餘瀝集』	1942	書籍	20.0	14.2			刊行：起山房
鍾美閣	『日本美術界』	1920	雑誌	22.0	14.8			
高橋由一	村尾鉄太郎宛　高橋由一葉書	不詳	墨、紙	14.2	9.0			
高村眞夫	春と女神	不詳	木版、紙	18.5 / 31.2	9.5 / 20.5			
竹本又八郎	『石亭畫談』初篇	1918	書籍	18.7	12.5			刊行：吉川弘文館　和綴じ本
帝国美術學校學友會	『學友會誌』第三号	1928	雑誌	23.8	21.2			和綴じ本
中沢弘光	『温泉畫集』	1918 頃	書籍	25.5	18.5			金星堂藏版　芝川照吉旧蔵　岸田劉生蔵書票　限定 100 部　非売品
中根淑	『改正　兵要日本地理小誌』巻三	1873	書籍	19.0	12.4			
中野保	『小學畫学教授書』上・下	1878	書籍	各 22.8	各 15.2			郁文社　2 点
中村不折	『不折畫集　第一』	1910	書籍	19.8	27.6			発行：光華堂
中村不折	『不折畫集　妙義山、犬主題、雑題』	1913	印刷、紙	22.5	31.1			手製本
中村不折	『不折画集　甲州御嶽』	1916	印刷、紙	22.5	31.0			手製本
中村不折	『［不折　とら、う、たつ、み］』	1918	印刷、紙	22.4	31.3			手製本
中村不折	『日本新聞挿絵』	不詳	印刷、紙	22.2	31.9			手製本
中村不折	『不折　新北画八題』	不詳	印刷、紙	22.8	30.8			手製本
中村不折	『不折画　上州御嶽奇勝　全』	不詳	印刷、紙	16.5	27.2			手製本
中村不折	おさるさんてこんなもの？	不詳	木版、紙	17.2 / 31.2	12.8 / 20.5			
中村不折	伊藤若冲　画鶏ヲ以テ名あり	不詳	木版、紙	18.0 / 31.3	12.5 / 20.5			
中村不折	一羽の鳥をにわとりといふ	不詳	木版、紙	15.8 / 31.3	10.3 / 20.5			
中村不折	下村梅の若葉	不詳	木版、紙	11.7 / 31.3	17.4 / 20.5			
中村不折	割雞用牛刀	不詳	木版、紙	16.5 / 31.3	11.9 / 20.5			
中村不折	金牌の雞	不詳	木版、紙	15.3 / 31.3	10.4 / 20.5			
中村不折	上毛三古碑　其十一 - 其十四	不詳	木版、紙	11.7 / 20.5	23.2 / 31.0			4 点
中村不折	常世之長鳴鳥	不詳	木版、紙	23.0 / 32.0	13.7 / 20.4			
中村不折	神代万年橋の渡の清潭	不詳	木版、紙	11.9 / 31.3	18.2 / 20.5			
中村不折	青梅駅外水車	不詳	木版、紙	11.7 / 31.3	17.6 / 20.5			
中村不折	多胡碑　高四尺	不詳	木版、紙	19.5 / 31.3	16.5 / 20.5			
中村不折	田家雑興	不詳	木版、紙	16.5 / 31.3	14.0 / 20.5			
中村不折	闘雞	不詳	木版、紙	10.3 / 31.3	19.2 / 20.5			
中村不折	馬引澤奇橋	不詳	木版、紙	12.0 / 31.3	16.6 / 20.5			
中村不折	畑中村機抒の哲	不詳	木版、紙	17.5 / 31.3	12.0 / 20.5			
中村不折	俵屋宗達筆　不折縮□	不詳	木版、紙	25.7 / 32.0	11.5 / 20.4			
中村不折	法常牧渓画獼猴	不詳	木版、紙	18.5 / 31.5	15.1 / 20.5			
中村不折	北斎鳥跡ヲ利用シテ立田川の図を為ル	不詳	木版、紙	13.0 / 31.3	18.3 / 20.5			
中村不折	妙義山中之金雞	不詳	木版、紙	11.8 / 31.3	18.5 / 20.5			
中村不折	明治四十一年 Nov.	不詳	木版、紙	19.5 / 31.5	14.2 / 20.5			
中村不折	累卵之厄	不詳	木版、紙	14.0 / 31.3	14.5 / 20.5			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
中村不折	澹泊春煙　数□雞犬	不詳	木版、紙	13.5 / 31.3	18.8 / 20.5			
中村不折	雞村之風光	不詳	木版、紙	17.8 / 31.3	11.3 / 20.5			
西日本新聞	『西部美術』創刊號、第貳號	1946	印刷、紙	25.8	18.5			2点
アーネスト・フェノロサ（演述）; 大森惟中（筆記）	『美術真説』完	1882	書籍	18.5	13.0			龍池会藏　有隣堂
本多錦吉郎（譯述）	『寫景要則』全	1885	書籍	16.0	11.5			陸軍士官学校
本多錦吉郎	『小學畫手本』第十編	1894	書籍	12.1	18.2			團々社
本多錦吉郎	『畫学教程』全	1896	書籍	16.2	11.5			陸軍中央幼年学校
前田吉彦（著画）	『畫學臨帖』巻之八（動物之部）	1887	書籍	14.8	20.9			刊行：阪神書房
柳澤甚五郎（撰）	『畫學初歩』第四編	1867	書籍	14.5	21.8			刊行：小林八郎　集英堂
山岡成章	『小學畫學書』全	1877	書籍	21.9	14.8			刊行：文部省文書局
横山大観	『日本美術の精神』	1939	書籍	22.3	15.3			出版：横山秀麿　非売品
吉田博	イジプトの新年　千九百〇七年一月	1907	木版、紙	13.5 / 20.5	17.7 / 31.5			
Swift, Mary A.	*First Lessons on Natural Philosophy for Children*　〔『□學初歩』〕	1867	書籍	15.5	11.0			和綴じ本
	『首註　陵墓一隅抄』全	1854	書籍	17.0	11.5			和綴じ本
	『銅鐫　大日本國細圖』二帖（上　東国之部／下　西国之部）	1865	石版、紙	各 17.0	各 10.7			京師書房　2点
	『大日本國全圖　兵要日本地理小誌付圖』	1873	書籍	19.0	13.0			陸軍兵学寮　折帖
	『測角便蒙』一	1875	書籍	22.8	15.3			刊行：陸軍（文庫）　和綴じ本
	『測角便蒙荅式』全	1875	書籍	22.8	15.3			和綴じ本
	『路上測圖実行教方』全	1883	書籍	18.0	12.5			陸軍教導団　和綴じ本
	『寫景學』完	1884	書籍	16.2	11.6			和綴じ本
	『圖學教程』第五版（「測板測圖手簿ノ例」）	1886	書籍	23.0	15.6			刊行：陸軍砲工学校　和綴じ本
	『臨畫帖』第十二	1889	書籍					
	『寫景學教程』	1890	書籍					和綴じ本
	『亜細亜東部與地圖』	1894	書籍	23.3	17.7			陸軍□謀局
	『高橋源吉画　征清実況油繪展覧會出品目録』	1896	印刷、紙	47.0	64.0			上野公園　日本美術協会列品館
	『砲工學校　圖學教程第五版』	1900	書籍	23.0	15.6			刊行：陸軍砲工学校　和綴じ本
	『第五回内國勧業博覧会出品目録　第拾部　美術及美術工藝』全	1903	書籍	22.4	15.0			第五回内國勧業博覧会事務局
	『下士教科　測圖學教程』全	1903-1920	冊子	各 18.6	各 12.7			教育総監部　3点
	『諸家新聞挿絵』	1906	印刷、紙	27.5	39			和綴じ本
	「挿絵帳」	1913 頃	印刷、紙	31.3	22.5			手製本　池田永治、岸田劉生、倉田白羊、小寺健吉、小絲源太郎、辻永
	『大正四年　圖學教程附録』軍用寫景圖　第一版	1915	書籍	22.5	15.7			刊行：陸軍砲工学校　和綴じ本
	『木星』第二巻第二号、第三・四号	1925	雑誌	各 22.2	各 15.3			2点　中村彝追悼
	「和製詩箋」10 種	明治 - 大正	印刷、紙	20.2 他	13.5 他			「詩箋　永雪□潔　玉林堂製」他
	『呼子と口笛』第一巻第一号（十一月号）、第四号（新年号）	1930-1931	雑誌	各 21.1	各 15.0			2点　石川啄木研究誌
	『黒船館蔵書票集』	1943	書籍	19.6	13.8			和綴じ本　川上澄生刻　限定 70 部のうち 38 番
	［浅草公園第六区ニ於テ観覧ニ供ス南北大戦争パノラマ］複写	不詳	紙焼き写真	30.6	25.4			8点
	「切抜画帖 日本名所」	不詳	印刷、紙	25.4	18.0			手製本　大下藤次郎、田口米作
	「コマ繪画集」第一巻	不詳	印刷、紙	24.3	16.8			手製本　大下藤次郎、竹久夢二、中沢弘光、中村不折
	［小山正太郎印］	不詳	朱印、紙	16.0	11.0			手製本
	「挿絵集」	不詳	印刷、紙	32.0	22.8			手製本　鏑木清方、岸田劉生、竹久夢二、中村不折
	『朝陽閣竪賞』	不詳	印刷、紙	24.6	17.5			
	『朝陽閣集古　弘法大師聾瞽指帰』甲	不詳	墨、紙	30.3	24.0			
	『ヒコサウ漂流記』	不詳	書籍	23.0	15.7			和綴じ本
	『［風俗画報挿絵集］』	不詳	印刷、紙	30.0	43.5			
	「漫画百態」一 - 五	不詳	印刷、紙	22.8	15.5			手製本　5点
	村尾鉄太郎宛葉書	不詳	墨、紙	14.2	9.0			
	『［明治末雑誌石版画］』	不詳	印刷、紙	21.0	18.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
〈安達留美氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
須田剋太	無題	1963	油絵具、石、カンヴァス	41.0	32.0		右下：剋	
素描・水彩画など								
須田剋太	無題	不詳	ミクストメディア、紙	46.1	35.3		左下：剋	
須田剋太	観音像	不詳	グアッシュ、油絵具、墨、木炭、紙	46.1	35.3		中央下：剋	
〈伊藤亜古氏寄贈〉								
日本画								
朝倉摂	歓び	1943	紙本着色	194.0	110.0			
朝倉摂	雪の径	1944	紙本着色	168.0	95.0			
朝倉摂	黄衣	1948	紙本着色	170.5	140.0			
朝倉摂	裸婦 C	1950	紙本着色	117.0	86.0			
朝倉摂	夫婦 // 街頭に見る	1953 // 1942	紙本着色	133.5 // 165.5	165.5 // 133.5			
朝倉摂	告発 61	1961	紙本着色	132.5	185.0			
〈岩見禮花氏寄贈〉								
版画								
畦地梅太郎、岩見禮花、木下富雄、島たまみ／島珠実、平塚運一、前川千帆、巻白、森義利、吉田政次、渡辺禎雄	『創作版画』 *THE MODERN JAPANESE PRINT*	1962	木版（多色）、紙	35.2–48.5 / 55.5	20.0–32.6 / 39.6			刊行：C. E. Tuttle Co. Michener, James A.　限定 510 部（販売用 475 部、当該作品 165 番）木版画 10 点
小林ドンゲ	『雨月物語』	1970	銅版、紙	10.0–23.5 / 42.5–42.8	6.8–23.0 / 32.1–32.6			刊行：美術出版社版画友の会『雨月物語』版画・小林ドンゲ 文・上田秋成　限定 75 部（当該作品 23 番）　銅版画 8 点（表紙、奥付含む）
〈上田薫氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
上田薫	午後の番組 B	1991	油絵具、アクリル絵具、カンヴァス	177.5	227.3			
上田薫	液体 A	1991	油絵具、カンヴァス	162.0	130.3			
上田薫	流れ A	1991	油絵具、カンヴァス	181.8	227.3			
上田薫	流れ B	1992	油絵具、カンヴァス	181.8	227.3			
上田薫	Sky F	2001	油絵具、カンヴァス	181.8; 181.8; 181.8	114.0; 113.5; 114.0			3 点組
上田薫	Sky H	2003	油絵具、カンヴァス	162.0; 162.0; 162.0	65.0; 65.0; 65.0			3 点組
上田薫	サラダ B	2007	油絵具、カンヴァス	130.3	162.0			
〈岡宏氏寄贈〉								
版画								
一原有徳	RON7	1960	モノタイプ、紙	59.0 / 79.0	40.0 / 60.5		左下：1/1 1960 右下：Arinori Ichihara	
一原有徳	高原	1971	腐食銅版、紙	31.0 / 41.0	28.0 / 32.3		左下：4/10 1971 右下：I. Arinori	
一原有徳	付	1975	腐食銅版、紙	50.0 / 63.5	37.0 / 50.5		左下：E.P 1975 右下：I. Arinori	
一原有徳	相（b）	1975	腐食銅版、紙	50.0 / 61.4	31.0 / 43.0		左下：E.P. 1975 右下：Ichihara Arinori	
一原有徳	幽	1975	腐食銅版、紙	59.0 / 72.0	38.0 / 52.3		左下：1/20 '75 右下：Ichihara Arinori	
一原有徳	幽	1975	腐食銅版、紙	59.0 / 72.8	38.0 / 52.8		左下：E.P. 1975 右下：Ichihara Arinori	
一原有徳	元	1975	腐食銅版、紙	58.0 / 73.5	47.8 / 55.0		左下：2/10 1975 右下：Ichihara Arinori	
一原有徳	展（ten）	1976	腐食銅版、紙	40.0 / 57.0	39.0 / 52.8		左下：3/20 1976 右下：Ichihara Arinori	
一原有徳	「gmp」	1976	腐食銅版、紙	59.0 / 72.8	38.0 / 53.8		左下：E/P 1976 右下：I. Arinori	
一原有徳	山（青）	1976	腐食銅版、紙	32.0	78.0		右下：I. Arinori 1976	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
一原有徳	山（茶）	1976	腐食銅版、紙	32.0	80.0		右下：I. Arinori 1976	
一原有徳	HOW 1	1977	腐食銅版、紙	44.0 / 65.2	31.0 / 50.1		左下：E.P 1977 右下：I. Arinori	
一原有徳	LEW	1977	腐食銅版、紙	40.0 / 50.0	32.0 / 44.5		左下：2/20 1977 右下：I. Arinori	
一原有徳	SEN	1977	腐食銅版、紙	39.0 / 65.5	30.0 / 49.8		左下：E.P 1977 右下：I. Arinori	
一原有徳	DEY	1977	腐食銅版、紙	41.0 / 65.5	30.0 / 50.2		左下：E.P 1977 右下：I. Arinori	
一原有徳	LEY（b）	1978	モノタイプ、紙	29.3 / 43.0	44.0 / 60.0		左下：1/1 1978 右下：I. Arinori	
一原有徳	HOV（b）	1978	腐食銅版、紙	59.0 / 77.6	45.0 / 63.2		左下：4/20 1978 右下：I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	紙焼付け（ギア、ナット）、紙	21.4–76.0	16.8–76.0		左下：'79 右下：I. Arinori ほか	9 点
一原有徳	無題	1979 頃	紙焼付け（スパナ、ギア、ナット、ワッシャー）、紙	18.7-55.0	14.0-40.0		右下：I. Arinori ほか	32 点
一原有徳	RIW（58）	1971, 1980	腐食銅版、紙	39.0 / 56.0	50.2 / 63.6		左下：2/20 1971+80 右下：I. Arinori	
一原有徳	Fr（6）	1961, 1981	腐食銅版、紙	45.0 / 63.8	40.0 / 50.0		左下：E.P 1961+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	Fd（1）	1968, 1981	腐食銅版、紙	40.0 / 50.0	32.0 / 44.5		左下：2/20 1968+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	BBT	1977, 1981	腐食銅版、紙	50.0 / 63.7	36.0 / 49.5		左下：1/20 1977+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	TTU	1977, 1981	腐食銅版、紙	50.0 / 66.0	47.0 / 50.4		左下：6/20 1977+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	WWA	1977, 1981	腐食銅版、紙	55.0 / 63.6	36.0 / 49.6		左下：5/20 1977+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	FB（a）	1968, 1982	腐食銅版、紙	35.0 / 50.0	60.0 / 72.0		左下：100 1968+81 右下：I. Arinori	
一原有徳	散	1969, 1982	腐食銅版、紙	51.0 / 64.0	32.0 / 48.5		左下：E.P. 1969+82 右下：I. Arinori	
一原有徳	EOC（6）	1983	腐食銅版、紙	50.0 / 66.0	38.0 / 50.0		左下：E.P. 1983 右下：I. Arinori	
一原有徳	POL	1983	腐食銅版、紙	45.0 / 63.5	32.0 / 50.0		左下：H.C 1983 右下：I. Arinori	
一原有徳	DFW（6）	1983	腐食銅版、紙	50.0 / 74.4	49.0 / 63.2		左下：2/20 1983 右下：I. Arinori	
一原有徳	KNL	1983	腐食銅版、紙	50.0 / 66.0	39.5 / 50.5		左下：30/60 1983 右下：I. Arinori	
一原有徳	底	1988	腐食銅版、紙	59.0 / 78.3	45.0 / 63.3		左下：E.P 1988 右下：I. Arinori	
一原有徳	RIW（53）	1989	腐食銅版、紙	64.0 / 79.2	50.0 / 62.8		左下：E.P 1989 右下：I. Arinori	
彫刻・インスタレーション								
一原有徳	無題	1979	エンボス（紐と鍵）、鉛、カンヴァス	16.0	23.0	1.8	左下：'79 右下：I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（鍵とコイン）、鉛、カンヴァス	16.0	23.0	1.8	右下：'79 I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（紐とコイン）、鉛、カンヴァス	16.0	23.0	1.8	下：'79 I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（コイン）、鉛、カンヴァス	23.0	16.0	1.8	左下：'79 右下：I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（コインとネット）、鉛、カンヴァス	16.0	23.0	1.8	右下：I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（コインとネット）、鉛、カンヴァス	41.0	32.0	1.6	左下：'79 I. Arinori	
一原有徳	無題	1979	エンボス（コインとネット）、鉛、カンヴァス	41.0	32.0	1.6		
一原有徳	無題	1979	エンボス（スパナ）、鉛、カンヴァス	41.0	32.0	1.6	下：'79 I. Arinori	
作品資料								
一原有徳	『譚』	2004	雑誌	21.0	14.7			刊行：二水会、2004 年 12 月号 書簡付（長谷川洋行；森ヒロコ宛）

〈岡本千榮子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

岡本半三	ラ・テュルビ	1954	油絵具、カンヴァス	116.7	90.9			
岡本半三	トロノーエン（ブルターニュの教会）	1955	油絵具、カンヴァス	80.3	100.0		右下：H.Okamoto	
岡本半三	パルテノン	1956	油絵具、カンヴァス	72.5	116.7		右下：H.Okamoto 56	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
岡本半三	腰をおろす（横向）	1958	油絵具、カンヴァス	100.0	80.3			
金山康喜	静物（コーヒーポットのある静物）	1954	油絵具、カンヴァス	89.2	116.2		右下：Kanayama	
素描・水彩画など								
岡本半三	マラガ	1950 年代	コンテ、水彩絵具、紙	30.5	39.0		右下：H.Okamoto	
岡本半三	マラガ	1950 年代	コンテ、水彩絵具、紙	31.0	41.0		右下：H.Okamoto	
岡本半三	ブルターニュ	1955 頃	コンテ、水彩絵具、紙	52.0	74.0			
岡本半三	オンドヴィリエ	1957 頃	コンテ、水彩絵具、紙	52.0	74.0			
岡本半三	オンドヴィリエ	1957 頃	コンテ、水彩絵具、紙	31.5	49.0			

〈小野絵里氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

小野絵麻	蛙	1959	油絵具、板	122.5	83.9			
小野絵麻	エデン	1965	油絵具、カンヴァス	89.7	59.2			
小野絵麻	南無	1965	油絵具、カンヴァス	130.3	97.0			
小野絵麻	烏合の中の肖像（現代日本記）	1984	油絵具、カンヴァス	145.5	114.5			

〈小野澤せつ子氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

セカル, ズビニュク	鍵穴のある神社	1983 以後	木	21.1	20.3	19.5	底面：ラベル［841］	

〈上條陽子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

上條陽子	さかな人間	1987	油絵具、カンヴァス	61.0	73.0			
上條陽子	室内	1987	油絵具、カンヴァス	91.5	117.0			

〈岸芳枝氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

木田金次郎	白百合	1938 頃	油絵具、カンヴァス	45.5	33.8			

〈木村幸子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

木村忠太	夕陽	1982	油絵具、カンヴァス	130.0	162.0			
木村忠太	道沿い	1984	油絵具、カンヴァス	100.0	100.0			
木村忠太	夏	1987	油絵具、カンヴァス	130.0	162.0			

〈栗田政裕氏寄贈〉

版画

栗田政裕	『イマジオ＆ポエティカ』第 44 号	2015	木口木版、手彩色、紙	22.0（表紙）	18.0（表紙）			刊行：ボックスウッドクリエーション 限定 99 部（当該作品 36 番） 木口木版 2 点：《マチャプチャリの見える街》、《無題》

〈砂澤凉子氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

砂澤ビッキ	樹頭	1983	楢	173.0	30.0	25.0		
砂澤ビッキ	TOH	1985	楢	277.0	68.0	60.0		

〈田中良氏寄贈〉

素描・水彩画など

田中岑	男	1948 頃	水彩絵具、コラージュ、紙	37.4	27.8			
展覧会資料								
神奈川県立近代美術館	セザンヌ・ルノワール展　目録	1951	印刷物	20.8	14.6			

〈中嶋一雄氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

中嶋一雄	和の道標	1967	木、鉄	110.0	150.0	100.0		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法（縦・高）	寸法（横・幅）	寸法（奥行）	署名年記・書込み等	備考
〈藤井和枝氏寄贈〉								
日本画								
瓜南直子	ムーンダンス	2011	岩絵具、紙	117.4（一扇）	91.0（一扇）			屏風（四曲一隻）
瓜南直子	信太	1994	岩絵具、紙	115.8	79.5			
〈二見彰一氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
二見彰一	画文集『海の情景　十の文と水彩画』	2015	パステル、色鉛筆、水彩絵具、紙	7.0–9.2 / 13.0–14.8	11.5–14.4 / 17.0–19.9		右下：sf	10 点組
〈眞板充江氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
眞板雅文	天地の恵み	2003	ブロンズ、鉄、石	390.0	350.0	375.0		
〈松谷武判氏寄贈〉								
版画								
松谷武判	版画集『STREAMS』	1990	エッチング、紙	17.1-26.2 / 56.5	16.7-26.4 / 37.7			刊行：Galerie Keller; Pitney Bowes France　限定 40 部（当該作品 10 番）　エッチング 10 点
〈山本達也氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
加藤泉	The Man in（TAMA）River	1992	アクリル絵具、アクリル板、ボード	36.5	65.5	4.5	左下：The Man IN（TAMA）river 1992 KATO	
〈吉村洋子氏寄贈〉								
作品資料								
吉村弘	吉村弘　ノート	1964-2003	冊子	17.0–29.8	10.5–21.5			58 点
吉村弘	吉村弘　メモ	不詳	インク、紙	25.2	18.0			9 点
吉村弘	「concert on paper: scenic event」	1976	コピー、紙	25.7	36.5			冊子
吉村弘	「TITLE」	1969–1970	コピー、紙	15.8	19.9			冊子
吉村弘	「CONCERT ON PAPER」	1970 – 1973 / 1973 以降	コピー、紙	表 紙：30.0、シート：29.7	表 紙：21.2、シート：21.1			冊子
吉村弘	「木」	1969	コピー、糸、紙、謄写版	19.2	27.3			冊子
吉村弘	「Sound Around」	1977 頃	コピー	25.8	18.3			冊子
吉村弘	『continuous PERFORMANCE』第 1 号	1977	印刷物	40.8（二つ折）	28			
吉村弘	『69 PAGES for HAROLD BUDD』	1983 年 5 月 25 日	雑誌	14.8	10.5			発行・編集：サウンド・プロセス・デザイン
吉村弘	「SCENIC EVENT」	不詳	インク、紙	各 25.7	各 36.5			版下　16 点
吉村弘	「CONCERT ON PAPER」	1970–73	インク、紙焼き写真、コラージュ、カットワーク、糸、紙など	各 29.9	各 21.5			版下　34 点（表紙含）
吉村弘	「CONCERT ON PAPER note-book」	1971–74	インク、コピー、コラージュ、タイプ、鉛筆、紙焼き写真、カットワーク、紙 など	各 29.8	各 21.5			版下　28 点（表紙含）
吉村弘	「PERFORMANCE」	1977	紙焼き写真、コラージュ、インク、紙 など	各 25.7	各 36.5			版下　13 点
吉村弘	「HIROO STATION 35° 39'N-139° 42E」	1978	紙焼き写真、インク、紙 など	各 25.7	各 36.5			版下　24 点
吉村弘	VIEW FROM MY WINDOW	1978	印刷、紙	10.0	14.8			ポストカード
吉村弘	GREETING FROM HIROO STATION	1978	印刷、紙	18.6	25.8			ポストカード
〈和光清氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
宮崎進	習作「ヒロシマ」　記憶と祈り	2005	コンテ、紙	40.5	62.6			
版画								
宮崎進	空	1966	コラグラフ、紙	65.0	49.5			

館外貸出作品一覧

開催初日が 2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの展覧会に限る
（巡回展の場合は、第一会場の会期による）

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場（会期）
1	1 ～ 16	丹阿弥丹波子《ブロッコリー》《死んだ小鳥》《但馬の家（たじまのいえ）》《めだか》《花 '75》《晩夏》《実》《梧桐の実》《ガラスの中の枯葉》《巣》《風（みのむし）》《風の道 1》《籠 '98（お茶の花）》《ポピー》《こでまり》《棚》	「浜口陽三・丹阿弥丹波子 二人展　はるかな符号　大岡亜紀の詩と共に」ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション（4 月 4 日～ 6 月 30 日）
2	17	高松次郎《世界の壁》	「高松次郎 制作の軌跡」国立国際美術館（4 月 7 日～ 7 月 5 日）
3	18 ～ 32	片岡球子《カンナ》《海（小田原海岸）》《海（真鶴の海）》《幻想》《海（鳴門）》《火山（浅間山）》《面構　足利尊氏》《面構　足利義満》《面構　足利義政》《面構　上杉謙信と直江山城守》《面構　葛飾北斎》《面構　東洲斎写楽》《面構　山崎弁栄上人・狛則承陵王楽人》《面構　国貞改め三代豊国》《面構　狂言作者河竹黙阿弥・浮世絵師三代豊国》	「生誕 110 年　片岡球子展」東京国立近代美術館（4 月 7 日～ 5 月 17 日）、愛知県美術館（6 月 12 日～ 7 月 26 日）
4	33 ～ 35	堀文子《蓮》《初秋》《霧氷》	「堀文子【一所不在・旅】展」兵庫県立美術館（4 月 18 日～ 6 月 7 日）
5	36	川口起美雄《故郷を喪失したものたち》	「川口起美雄―絵画の錬金術師」平塚市美術館（4 月 18 日～ 6 月 14 日）
6	37	《鬼の念佛》〔大津絵〕	「ほっこり美術館」横須賀美術館（4 月 18 日～ 6 月 14 日）
	38	山口蓬春《スケッチブック 10》	
	39	鳥海青児《顔に彩色のある埴輪》	
7	40	《天目茶碗》	「中世東国の茶―武家の都鎌倉における茶の文化―」神奈川県立歴史博物館（4 月 25 日～ 6 月 21 日）
8	41	アンリ・マティス『ジャズ』より《9 形態》	「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」森美術館（4 月 25 日～ 7 月 5 日）
9	42 ～ 43	速水御舟《昆虫二題　粧蛾舞戯》《昆虫二題　葉蔭魔手》	「速水御舟とその周辺―大正期日本画の俊英たち」世田谷美術館（5 月 2 日～ 7 月 5 日）
	44	牛田雞村《はこねの山》	
10	45 ～ 48	宮崎静夫《鴻毛の秤》《夏の回帰》《夏草に棲む》《丘にて》	「宮崎静夫作品展」熊本県立美術館分館（5 月 26 日～ 5 月 31 日）
11	49 ～ 50	佐野繁次郎《横光利一『春園』（1937-1938）のカット下絵》2 点	「モダン都市の文学誌 ～描かれた浅草・銀座・新宿・武蔵野～」江戸東京たてもの園（6 月 2 日～ 7 月 20 日）
	51	横光利一『春園』スクラップ	
12	52 ～ 58	山口蓬春《ビクトリア・ピーク、香港》《香港風景》《九龍碼頭》《九龍碼頭を望む》《松花江》《新京》《パイナップルと洋梨》	「夏季特別展　山口蓬春とその時代　1940-1950 ―戦中・戦後における新日本画の変遷―」山口蓬春記念館（6 月 6 日～ 8 月 9 日）
	59	寄託作品（素描 1 点）	
13	60	北大路魯山人《信楽灰被大壺》	「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」京都国立近代美術館（6 月 19 日～ 8 月 16 日）、足立美術館（8 月 26 日～ 10 月 12 日）、三井記念美術館（2016 年 4 月 12 日～ 6 月 26 日）
14	61 ～ 63	萬鉄五郎《日傘の裸婦》《裸婦》《田園風景》	「棟方志功　萬鉄五郎に首ったけ」萬鉄五郎記念美術館（7 月 4 日～ 8 月 30 日）
15	64 ～ 66	澄川喜一《MASK Ⅰ》《MASK Ⅵ》《MASK》	「澄川喜一　シンプル・イズ・ビューティフル」島根県立石見美術館（7 月 11 日～ 8 月 31 日）
16	67	麻生三郎《女》	「戦後 70 年記念　20 世紀日本美術再見　1940 年代」三重県立美術館（7 月 11 日～ 9 月 27 日）
	68 ～ 69	松本竣介《自画像》《少女》	
	70	阿部展也《飢え》	
17	71	松本竣介《立てる像》	「画家たちと戦争：彼らはいかにして生きぬいたのか」名古屋市美術館（7 月 18 日～ 9 月 23 日）
	72	福沢一郎《よき料理人》	
18	73	浜田知明《忘れえぬ顔 A》	「戦後 70 年記念　浜田知明のすべて」熊本県立美術館（8 月 1 日～ 9 月 13 日）
19	74	山下菊二《チリ○○○》	「岡本太郎と中村正義「東京展」」豊橋市美術博物館（8 月 8 日～ 9 月 27 日）、川崎市岡本太郎美術館（10 月 17 日～ 2016 年 1 月 11 日）
	75	中村正義《ピエロ》	
20	76	山口蓬春《宴》	「秋季特別展　山口蓬春 ユーモアと美術」山口蓬春記念館（8 月 15 日～ 10 月 18 日）
21	77	松本竣介《建物》	「伝説の洋画家たち　二科 100 年展」大阪市立美術館（9 月 12 日～ 11 月 1 日）、石橋美術館（11 月 7 日～ 12 月 27 日）
22	78	中島千波《衆生・女・阿吽》	「古希記念　中島千波展　―桜、人物、独立峰を描く―」おぶせミュージアム・中島千波館（9 月 18 日～ 12 月 1 日）
23	79	寄託作品（油彩 1 点）	「没後 100 年　五姓田義松　最後の天才」神奈川県立歴史博物館（9 月 19 日～ 11 月 8 日）
	80 ～ 83	資料 4 点：小山正太郎・五姓田義松『東京近傍寫景法範』第一編・第二編（青木文庫）、五姓田義松画『佐賀征討戦記』（青木文庫）、『七福神雷名競』（青木文庫）	
24	84	寄託作品（油彩 1 点）	「画家の詩、詩人の絵―絵は詩のごとく、詩は絵のごとく」平塚市美術館（9 月 19 日～ 11 月 8 日）、碧南市藤井達吉現代美術館（11 月 17 日～ 12 月 20 日）、姫路市立美術館（2016 年 2 月 13 日～ 3 月 27 日）、足利市立美術館（4 月 9 日～ 6 月 12 日）、北海道立函館美術館（6 月 18 日～ 8 月 7 日）
	85	古賀春江《サーカスの景》（足利、北海道会場のみ）	
25	86	寄託作品（油彩 1 点）	「開館 30 周年記念　アルフレッド・シスレー展―印象派、空と水辺の風景画家―」練馬区立美術館（9 月 20 日～ 11 月 15 日）
26	87 ～ 88	川村清雄《鶏図》《室内》	「開館30周年記念 川村清雄展―古今・東西・混ざり合い―」新潟市美術館（11月3日～12月20日）

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場（会期）
1	1	結城素明《金剛山》	「ふたたびの出会い　日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く」神奈川県立近代美術館 葉山(4月4日～5月8日)、新潟県立万代島美術館（5月16日～6月28日）、岐阜県美術館（7月9日～8月23日）、北海道立近代美術館（9月1日～10月12日）、都城市立美術館（10月23日～12月6日）、福岡アジア美術館（12月17日～2016年2月2日）
	2	鳥居昇《赤いコンパクトを持つ女（表）// 老婆像（裏）》	
	3	金煥基『雑記帳』より《無題（ジャスベント）》	
	4	土田麦僊《妓生の家（下図）》	
	5～9	山口蓬春《朝鮮の老人》《スケッチブック（4）阿蘇と朝鮮》《スケッチブック（6）朝鮮人物など》《スケッチブック（7）朝鮮》《スケッチブック（8）朝鮮》	
	10	浅川伯教『李朝の陶磁』（矢代幸雄文庫）	
	11～12	関野貞『朝鮮古蹟図譜』、『朝鮮美術史』（山口蓬春文庫）	
2	13～16	オノレ・ドーミエ〈カリカチュラーナ（ロベール・マケール）〉 48. 代議士候補、52. うまい取り決め、59. 自殺の悪用、 71. あんた、大家のくせしで…	「ムルロ工房と20世紀の巨匠たち パリが愛したリトグラフ」DIC川村記念美術館（4月4日～5月12日）、神奈川県立近代美術館 葉山（5月24日～7月20日）、島根県立美術館（7月29日～9月10日）、北九州市立美術館　分館（9月19日～11月3日）
	17～22	エドゥアール・マネ『大鴉』（6葉）	
	23	アンリ・マティス『シャルル・ドルレアン詩集』（山口蓬春文庫）	
	24～65	マルク・シャガール　ロンゴス『ダフニスとクロエ』（望月冨昉コレクション）（42葉）	
	66～89	マルク・シャガール『出エジプト記』（望月冨昉コレクション）（24葉）	
	90～127	マルク・シャガール『サーカス』（望月冨昉コレクション）（38葉）	
	128～137	マルク・シャガール『妖精と王国』（望月冨昉コレクション）（10葉）	
	138～161	ベン・シャーン　リルケ『マルテの手記』より：1行の詩のためには…　（麻生三郎コレクション）（24葉）	
	162～173	『ヴェルヴ』（Vol.1 No.1, 2, 3, 4, Vol.2 Nos.5-6, 8, Vol.5 Nos.17-18, Vol.7 Nos.27-28, Vol.8 Nos.29-30, 31-32, 33-34, Vol.9 Nos.35-36）（山口蓬春文庫）	
	174～180	『デリエール・ル・ミロワール』（Nos.14-15, Nos.44-45, Nos,57-59, Nos.60-61, No.64, Nos.66-68）（山口蓬春文庫）、（No.93）（仲田定之助文庫）	
	181	ジャン・ポーラン著『ブラック』（山口蓬春文庫）	
	182	パブロ・ピカソ著『石版画師ピカソ』3巻（山口蓬春文庫）	
3	183～187	若林奮《残り元素 Ⅰ》《中に犬・飛び方》《犬から出る水蒸気》《日の出，日没（グラマン TBF を見た）Ⅰ》《多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅳ》（葉山、うらわ会場のみ）	「若林奮 飛葉と振動」名古屋市美術館(4月18日～5月24日)、足利市立美術館(6月6日～8月2日)、神奈川県立近代美術館 葉山(8月15日～12月23日)、府中市美術館(2016年1月9日～2月28日)、うらわ美術館（2016年4月23日～6月19日）
	188	寄託作品（彫刻1点）	
4	189	高橋由一《江の島図》	「原田直次郎展－西洋画は益々奨励すべし」埼玉県立近代美術館(2016年2月11日～3月27日)、神奈川県立近代美術館 葉山（4月8日～5月15日）、岡山県立美術館（5月27日～7月10日）、島根県立石見美術館（7月23日～9月5日）
	190	安藤仲太郎《日本の寺の内部》	
	191	山岡成章『小学画学書』（青木文庫）	
	192	浅井忠；高橋源吉／柳源吉著『習画帖』 第二編第一巻上　器物（青木文庫）	
	193	浅井忠；高橋源吉／柳源吉著『習画帖』 第二編第三巻上　樹木（青木文庫）	
	194	高橋源吉／柳源吉著『高橋由一履歴』（青木文庫）	
	195	外山正一著『日本絵画ノ未来』（青木文庫）	
	196	『龍池会報告』第31号［復刻版］	

修復報告 1

伊藤由美

作者：ロドルフ・ブレダン（Rodolphe Bresdin 1822-1885）
作品名：農場の家（『レヴュー・ファンタジスト』より）
制作年：1861 年
材料・技法：エッチング、紙
寸法（mm）：
作品
修復前　137／215 × 93／155（イメージ寸法／紙寸）
修復後　137／215 × 93／155
マット
修復前　244 × 353
修復後　244 × 353

修復前の所見

本作品は、エッチング用の薄い雁皮紙を、より大きい中厚の洋紙に重ねて支持体とした紙に刷った「雁皮刷り」の版画である。雁皮紙部分には黄変が見られ、エッチングの細かい描写を見難くしている。またイメージ部分の右辺下方に 5-10㎜程の褐色の目立つシミが 2 か所にあり、鑑賞の妨げとなっている。イメージ周辺部の支持体にも額装材料の酸化が影響したと思われる褐色のシミが多数あり、黄変が広範囲に見られる。裏面の左辺には旧ヒンジの紙片が縦に 2 か所接着されており、全面に黄変したシミが散見される。薄手のケント紙様の洋紙を二つ折りにしたマットが付随しており、全体に黄変が見られ、特に裏面は黄変が著しい。マット表側の窓開口部分下方には、鉛筆による作家、制作年ほか作品に関する記述がある。

修復処置

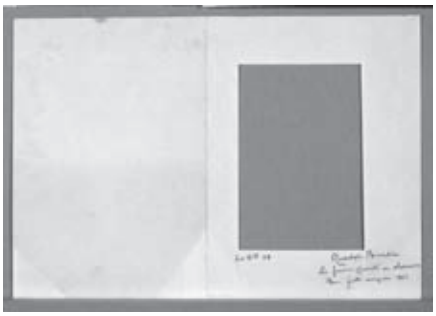
1. 支持体裏面に接着されている旧ヒンジ紙片と接着剤を除去した。マット内側の褐色化したテープ痕も軽減させた。
2. 作品の表と裏およびマットの表層の汚れを粉末消しゴムで除去した。
3. 支持体を構成している重なった 2 枚の紙の圧着状態と水分の反応を確認をした上で、作品とマット紙を水酸化マグネシウム溶液に浸水させて脱酸処置を行ない、水洗をした。処置に使用した溶液はかなり黄変し、作品の酸化が進んでいたことがわかる。
4. 部分的に残った目立つ褐色のシミは、過酸化水素水を用いて部分漂白を行ない、再度、水洗をした。
5. 敷き干しを行った後に再加湿をして、レーヨン不織布、吸取り紙を上下に重ね、ガラス板に挟んでプレス乾燥を行った。

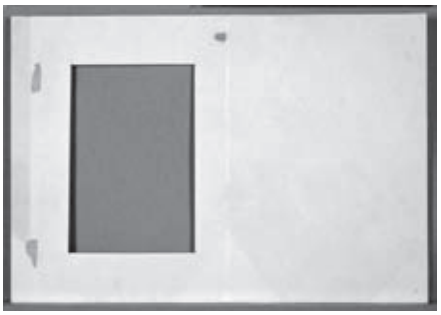
修復後の所見

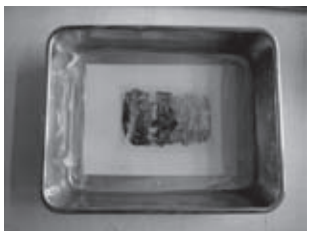
酸化のため黄変していた作品は脱酸処置後、支持体の黄変が軽減し、エッチングのイメージと支持体とのコントラストがはっきりとして、詳細部分が鑑賞しやすくなった。脱酸処置に使用した溶液がかなり黄変したことから、作品の酸化が進んでいたことがわかる。処置前の作品に使用されていた旧マットは簡易的なものであったが、表側には記載があり資料的な価値があるため、保存処置後、作品には取り付けず、作品と一緒に保管することとした。

1. 修復前　表

2. 修復前　裏


3. 修復前　マット（開いた状態）　窓開口部の下方に記述がある


4. 修復前　マット（開いた状態）　内側

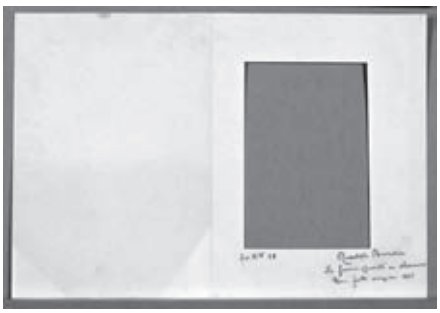

5. 修復中　脱酸処置

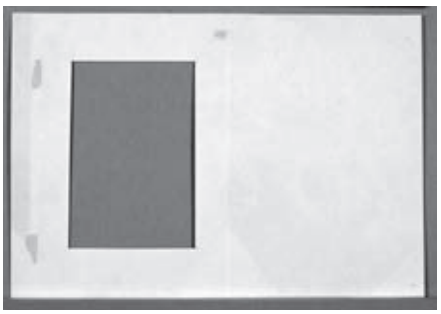
6. 修復中　脱酸処置後の溶液はかなり黄変している

7. 修復中　洗浄後、プレス乾燥の前に行う敷き干し乾燥

8. 修復後　表　支持体の黄変が改善された

9. 修復後　裏　ヒンジを除去した


10. 修復後　マット表（開いた状態）


11. 修復後　マット内側（開いた状態）

修復報告 2

増田絵画修復工房　増田久美

作者：山本 鼎（1882-1946）
作品名：哥路（ころ）
制作年：1917-18 年
材料・技法：多色木版、紙
寸法（mm）：870 × 555（イメージ最大寸）
897 × 569（本紙最大寸）

修復前の所見

本紙の右辺はイメージ全体の約 1 割に及ぶ面積が破れて欠損していた。黄味の強い和紙で裏打ちが施されていたが、欠損部の端は裏打ち紙から剥離している部分が多くみられた。巻き跡と思われる左右方向への強い折れが全体に生じていた他、中央部では天地方向の折れが潰れてシワとなっていた。折れ山やシワには汚れが付着して黒ずんでいた。多くの折れ、シワ部分で裏打ち紙からの剥離がみられた。裏打ち紙は全部で 3 層が確認出来た。

周縁部には破れや本紙と裏打ち紙との間の剥離が生じていた。左辺上部の状態は特に悪く、破れや錆由来と思われる濃赤褐色の斑点、茶褐色のシミが生じていた。裏面の四隅には茶褐色のテープ痕があった。

本紙は光沢のあるごく薄い和紙（雁皮紙の可能性）で、表面に細かいシワが生じていた。接着剤と思われるフィルム状の黄褐色の付着物が、左上の背景部分、人物の右袖、炬燵布団に班点状に付着していた。付着物の下の摺りが欠損していた他、下辺から犬の背中にかけては擦れて色が薄くなっていた。

本紙はベースマットに貼り付けられた紙製コーナーヒンジに差し込まれており、直接には固定されていなかった。額は木製で、裏蓋はポリプロピレン製コルゲート板に中桟入りの木製枠が取り付けられていた。

修復方針

本紙に折れやシワが目立ち鑑賞の妨げとなっていたこと、裏打ち紙の剥離箇所が多かったことから、元の裏打ち紙を除去した後に新たな裏打ちを施して、本紙の平面性の回復と強化をはかることとした。本紙がごく薄いことから、保護のために直近の肌裏打ち紙を残すことも検討したが、剥離箇所が多く部分的な接着では留めきれないこと、接着剤が画面にシミとなって残ってしまうことから、裏打ち紙はすべて除去することとした。右辺の欠損部分は美術館との協議の結果、補彩等の復元処置は行わず、補紙または裏打ち紙で全体の調和を整えることとした。

額装については、中性紙マットが使用されており、裏蓋の構造も十分な強度と安定性があると思われることから、修復後は本紙を張り戻して再使用することとした。

修復処置

1. ドライクリーニング（乾式洗浄）

水による洗浄に先立ち、表裏両面の汚れを粉末消しゴムを使用して除去した。画面は摩擦に弱いため、柔らかい羊毛の刷毛で粉末消しゴムを掃き出すようにして慎重に作業を行った。折れ山や欠損部の端の黒ずんだ汚れは、部分的に練りゴムを使用して除去した。班点状の付着物、錆跡はメスで削り取った。

2. 旧裏打ち紙除去

裏面より 1 層目と 2 層目の裏打ち紙は、水を使用せず乾いた状態で繊維方向に沿ってピンセットで小範囲ずつ剥がしていった。1 層目の裏打ち紙は厚口で柔らかく繊維方向は左右方向、2 層目の裏打ち紙は薄口で張りがあり繊維方向は天地方向であった。2 層目まで除去した段階で本紙の折れが残っており、また折れの内部にも摺りが見られたことから、3 層目の裏打ち紙は摺りのときに貼り合わされたものではなく、後から裏打ちされたものと判断した。3 層目の裏打ち紙は厚みがあり柔らかい紙質であった。海藻由来の型取り材（商品名「かたとって」）に水を加えてペースト状にしたものを、ポリエステル紙を当てた上から裏打ち紙に塗り付けて加湿し、接着剤をゆるませてからピンセットで小範囲ずつ剥がした。斑状に残った繊維は、メスで慎重に削り取った。（写真 7-9）

3. 水洗

耐溶剤試験の結果、黒色と朱色のインクはやや水に弱い傾向がみられたため、水洗は水の使用を最小限に抑える吸取り方法で行った。精製水で湿らせた吸取り紙を敷いた上に、ポリエステル紙で挟んだ本紙を画面上にして置き、上から精製水を噴霧して吸取り紙に汚れを移動させた。吸取り紙を交換しながら、汚れが付着しなくなるまで繰り返した。（写真 10）

脱酸処置は必要ないと判断した。また、水洗後に目立つシミはなかったため、薬剤によるシミぬき処置は行わなかった。

4. 裏打ち

1 層目の肌裏打ちは未晒の雁皮紙（手漉き）を 2 枚継ぎで使用した。2 層目と 3 層目の増裏打ちは薄口の薄美濃紙（手漉き）、最後の 4 層目の増裏打ちは石州紙の中肉（機械漉き）を 1 枚の継ぎ無しで使用した。接着剤は生麩糊（小麦粉澱粉糊）を炊いて使用した。裏打ちごとに仮張り板に張り込み、返し張りをしながら乾燥させた。（写真 11）

5. 補彩

美術館との協議の結果、右辺の欠損部への補彩は行わなかった。それ以外の本紙欠損部は色鉛筆で補彩し色調を整えた。

6. 張り代付け、マット張り込み

本紙寸法より各辺約 8mm 大きく裏打ち紙を裁断し、周辺に喰先にした張り代を取り付けた。いったん仮張り板に張り込んで乾燥させた後、張り代を 60mm 幅に整え、糊付けした別紙（張り代おさえ）でベースマットに接着固定した。張り代と張り代おさえは石州紙の中肉（機械漉き）、接着剤は生麩糊（小麦粉澱粉糊）を炊いて使用した。（写真 12）

修復後の所見

画面は色調が沈み細部の表現が潰れてしまっていたが、黄変が見られた旧裏打ち紙を除去したことで本紙の折れやシワが改善され、擦りの色味や細部の表現が明瞭になった。また、本紙は新たな裏打ち紙によって強化され、平面性を回復して安定した状態を得た。

1. 修復前 表 正常光写真

2. 修復後 表 正常光写真

3. 修復前 表 側光線写真（左）
中央部分を中心に天地方向への折れやシワが生じている

4. 修復後 表 側光線写真（左）

5. 修復前 表 側光線写真（上）
左右方向への強い折れが全面に見られる

6. 修復後 表 側光線写真（上）

7. 修復中 裏打ち紙（1 層目）除去途中

8. 修復中 裏打ち紙（2 層目）除去途中

9. 修復中 裏打ち紙（3 層目）除去途中
裏打ち紙をペースト材で加湿し接着剤をゆるませて除去した

10. 修復中 水洗作業

11. 修復中 裏打ち後
仮張り板に張り込み乾燥した

12. 修復中 ベースマット取り付け後
本紙周囲に張り代を取り付けた後、端部分のみをベースマットに接着固定した

13. 修復後 額装 表

14. 修復後 額装 裏

2015 年度 修復作品一覧

＊外部委託については修復者を記した。表記のないものは当館修復担当研究員、伊藤由美が行った。

作者	作品名	寸法（mm）縦×横 / 奥行×幅× h 高さ	制作年	種別	修復者
不詳	歓喜天曼荼羅図	1834 × 788	南北朝時代	日本画	瑤春堂有限会社
片岡球子	面構　葛飾北斎	1980 × 1820	1971	日本画	増田絵画修復工房
棟方志功	円空板画像	2290 × 1237	1961	版画	増田絵画修復工房
山本鼎	哥路（ころ）	912 × 585	1917-1918	版画	増田絵画修復工房
ロドルフ・ブレダン	農家の家（『レヴュ・ファンタジスト』より）	215 × 155	1861	版画	
エドヴァルド・ムンク	二人の人物―孤独な人たち	343 × 480	1895	版画	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ I	300 × 397 × h.183	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ II	273 × 395 × h.152	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅲ	275 × 395 × h.120	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅳ	270 × 400 × h.40	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅴ	150 × 274 × h.257	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅵ	300 × 425 × h.96	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅶ	436 × 394 × h.170	1970	彫刻	
若林奮	多すぎるのか、少なすぎるのか？ Ⅷ	176 × 585 × h.135	1970	彫刻	
鶴田吾郎	富士山	376 × 58	不詳	水彩画	
川村清雄	鶏図	345 × 1300	1926 頃	油彩画	
川端実	作品 B	1940 × 2590	1961	油彩画	
木村忠太	少女像	332 × 243	不詳	油彩画	
中村不折	根岸御行松附近夜景	930 × 750	1900 頃	油彩画	
宮崎静夫	夏草に棲む	1307 × 970	1972	油彩画	
宮崎静夫	丘にて	988 × 1310	1976	油彩画	
宮崎静夫	夏の回帰	1002 × 1003	1972	油彩画	
宮崎静夫	鴻毛の秤	1308 × 1305	1975	油彩画	
末松正樹	秋から冬へ	973 × 1302	1967	油彩画	
齋藤与里	勝浦忘帰洞	455 × 537	不詳	油彩画	

調査研究活動

調査・研究報告

イリヤ・レーピン《ザポロージャのコサック》のふたつの複製画の文化学的考察と《夕べの宴》関連作品の再発見について――「レーピン展」（2012-2013 年）後の国内調査研究報告

籾山昌夫

筆者はこれまで、旧ソヴィエト連邦のポスターと国策宣伝グラフ誌『ソヴィエト連邦建設』について、芸術分野に限らず、政治経済や歴史なども視野に分野横断的な文化学的視点から考察してきた[註1)]。それらは、第一には「複製」印刷物であるために、いまだ美術史の俎上には容易に載らない。本報告では、イリヤ・レーピン作《ザポロージャのコサック》の国内で見出されたふたつの複製画について、美術史的手法ではなく文化学的手法を用いてその歴史的意味を明らかにする。これらの複製画のひとつは 1941 年の日ソ中立条約に関わる可能性が高く、もうひとつは 1917 年のロシア革命後の内戦の状況を伺わせるという点で、いずれも重要な史料と言える。また、併せて国内で「再発見」されたレーピンの真作と推定される油彩画 1 点について報告する。

I.《ザポロージャのコサック》の第一の複製画

2012（平成 24）年 8 月に Bunkamura ザ・ミュージアムで開幕し、翌年 5 月に神奈川県立近代美術館 葉山で閉幕した巡回展「国立トレチャコフ美術館蔵 レーピン展」の後、筆者の元にはイリヤ・レーピン（1844-1930）の作品について複数の調査依頼があった。その内 2 点は、レーピンの《ザポロージャのコサック》の複製画であり、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国で制作されたと推測される。レーピンの同作品には、幾つかのヴァリエーションがあるが、ふたつの複製画の原画は、いずれもサンクト・ペテルブルクの国立ロシア美術館が所蔵するレーピンの《トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック》（1880-1891 年、油彩・カンヴァス、203.0 × 358.0cm、図 1）である。

図 1　イリヤ・レーピン《トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック》1880-1891 年、油彩・カンヴァス、国立ロシア美術館

2013（平成 25）年 10 月 15 日に調査した第一の複製画（図 2）は、2003（平成 15）年に御殿場市に譲られた東山旧岸邸にあり、2009（平成 21）年の秋に同邸が一般公開される際に、岸家から御殿場市に寄贈されたものである。留め具が壊れていて額の裏蓋が開けられなかったために正確なカンヴァスの寸法は不明であるが、額の窓は縦 103 センチメートル、横 163 センチメートルである。額のアクリル板を通して観察する限り、丁寧に描かれていて、状態も比較的良い。

図 2　V. オシーポフ《イリヤ・レーピンの「トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック」の複製画》1938 年、油彩・カンヴァス、東山旧岸邸

東山旧岸邸の公開当初に、この複製画が一時的に展示された際のパネルには以下のように記されている。

I、E、レーピン（1844 年～ 1930 年）作
「トルコ王に手紙を書くザポロージェ・コサック」（複製）
ロシア美術館に展示されている原画を、原寸大（縦 103 センチ、横 163 センチ）で、3 枚複製された内の 1 枚である。
スターリン（ソ連の共産党と国家の指導者）から、松岡洋右氏に贈られ満鉄総裁室に、掛けられていたものが、後に岸信介氏に渡ったものである。
他 2 枚の内 1 枚は、現在ロシア・サンストペテルブルグ(ママ)の「レストラン・セルギエフ・パッサート」の、壁に掛けられている。

実際には、この複製画は原寸大ではなく、おおよそ 2 分の 1 に縮尺して描かれている。この誤記は、終戦まで哈爾濱（ハルビン）の北満鉄道倶楽部（図 3）のロビーにあったとされる原寸大の複製画と情報を取り違えたものと思われる[註2)]。

図 3　絵葉書「哈爾濱　新市街北満鉄道倶楽部」

しかし、ここで注目すべきは、ヨシフ・スターリン（1878-1953）が松岡洋右（1880-1946）に贈り、それが岸信介（1896-1987）の手に渡ったという来歴である。松岡がロシア帝国及びソヴィエト社会主義共和国連邦（以下、「ソ連」）を訪れた機会は 4 回あり、最初は 1911（大正元）年 12 月から翌年 11 月までロシア帝国首都ペトログラートの日本大使館二等書記官として[註3)]、2 回目は衆議院議員であった 1932（昭和 7）年にジュネーヴで開催された国際連盟総会臨時会議に全権代表として赴く途中[註4)]、3 回目は 1941（昭和 16）年に外務大臣としてヨーロッパ諸国訪問の往路[註5)]、そして、最後がその帰路である。

ところで、この模写の右下には、「Копиь / В Осипов / 1938 г」（「複製／ V オシーポフ／ 1938 年」／は改行を示す）と記されていることから、もし、スターリンから松岡に贈られたのであるならば、それは 4 回目、1941 年 4 月 13 日に大日本帝国及「ソヴィエト」社会

主義共和国連邦間中立条約（日ソ中立条約）を松岡、ソ連駐剳特命全権大使陸軍中将建川美次（1880-1945）、ソ連人民委員会議長兼外務人民委員ヴャチェスラフ・モロトフ（1890-1986）が調印した機会である可能性が高い。事実、戦場で手紙を書くコサックという絵の主題は、一見時宜にかなっているようである。この時、手紙が書かれるのを見守るコサックよろしく調印に立ち会ったスターリンは（図 4）、同夕、特別列車の出発を繰り下げさせて、モロトフと共に松岡一行をヤロスラヴリ駅まで見送った[註 6)]。その後、特別列車は同月 20 日に満洲国に入り、松岡は海拉爾（ハイラル）で下車して、特別機で大連に飛び、同地の南満洲鉄道株式会社（以下、「満鉄」）総裁邸に滞在して、22 日に大連郊外の周水子飛行場を発って、同日、立川飛行場に到着した。もし、この機会に複製画を贈られたとすると、その大きさを考慮すれば、松岡本人とは別途、海拉爾から陸路、海路で輸送された可能性が高い。

図 4　大日本帝国及「ソヴィエト」社会主義共和国連邦間中立条約（日ソ中立条約）に調印する松岡洋右外務大臣、1941 年、モスクワ

確かに松岡は 1921（大正 10）年から 1926（大正 15）年まで満鉄の理事、翌年から 1929（昭和 4）年まで副総裁、1935（昭和 10）年から 1939（昭和 14）年まで総裁を務めたが、現在は瀋陽鉄道局大連鉄道事務所となっている大連の総裁邸とは別の、満鉄本社 2 階の約 4.2 メートル四方の「満鉄総裁室に、掛けられていた」という記述は確認できない。また、松岡洋右に、東条英機（1884-1948）、星野直樹（1892-1978）、鮎川義介（1880-1967）、岸信介（1896-1987）を加えた満洲国の実力者 5 人は「弐キ参スケ」と呼ばれていたが、岸も 1939（昭和 14）年 10 月に満洲国総務庁次長を辞して帰国、商工次官に就任しているため、この複製画が松岡から岸に渡ったのは、日本でのことである。

松岡の妹、ふじ江が嫁いだ従兄の佐藤松介の姉、茂世の次男が岸、三男が佐藤栄作（1901-1975）であり、岸にとって松岡は義叔母の兄という関係である。また、松介が早世した後、松岡が一家を養っていたふじ江の長女、寛子は栄作に嫁いでいる。1941（昭和 16）年 7 月に外務大臣辞任後、結核を患っていた松岡は、東京の自宅や御殿場、軽井沢などを転々として療養していた。かつては法学者の寺田亨（1859-1925）の所有であった御殿場東山の別荘[註 7)] に松岡が滞在していた 1944（昭和 19）年晩秋、岸が松岡を見舞った際に、松岡は山水画と高杉晋作の書の軸を形見として岸に贈ると約束した[註 8)]。その 2 年後、1946（昭和 21）年 6 月、松岡は極東国際軍事裁判公判中に他界する。現在、複製画がある東山旧岸邸は、御殿場東山の松岡の別荘のすぐ近くに、1969（昭和 44）年、文化勲章受章者で皇居新宮殿造営顧問であった吉田五十八（1894-1974）に、岸が自邸として設計を依頼して建てたので、レーピンの複製画も時期は不明ながら、松岡生前の約束に従って岸が受け継いだのであろう。

ところで、スターリンは、1928（昭和 3）年の昭和天皇御大礼の奉祝品として、サンクト・ペテルブルクの美術アカデミーでレーピンに師事したボリス・クストージェフ（1878-1927）の《ヴォルガ河畔の少女》（1916 年、油彩・カンヴァス、宮内庁三の丸尚蔵館）を贈るなど、ロシア帝政時代の絵画を外交に用いている[註 9)]。スターリンの娘、スヴェトラーナ・アリルーエワ（1926-2011）によれば、建築家ミロン・メルジャーノフ（1895-1975）が 1934 年にクンツェヴォに建てたスターリンの別荘の大広間には「ガラス張りの大きな額に入れて、レーピンの『ザポロジェ・コサックたちのサルタンへの返書』の複製画も掛かっていた。父はこの絵が大好きで、この返書の不作法な文章を会う人ごとに話して聞かせるのが好きだった」[註 10)] という。レーピンの《ザポロージャ・コサック》は、ザポロージャの砦を守るウクライナ・コサックたちが、1676 年、彼らに降伏を勧告したトルコのスルタン、メフメト 4 世（1642-1693）に対して、極めて辛らつな嘲笑を込めた不敵な手紙で応じたという伝説を描いた作品である。

その複製画が、同じような「嘲笑」を込めて送られたものかどうかは判らない。しかし、「松岡洋右がソ連で例の日ソ中立条約を結んで、日本はこれを忠実に守ってきた。ことに独ソ戦争が始まってから、ヒットラーは日本に対してシベリア方面を攻撃するよう要望してくるんだが、にもかかわらず日本は日ソ中立条約を守って一切それに乗らなかった。ところが、いよいよ日本が疲れて例の広島に原爆が落ちて日本の敗戦が決定的になったところで、ソ連は参戦してすぐさま満州に入ってきたんだ」[註 11)] と後に語る岸は、この複製画をどのような思いで受け取ったであろうか。

ところで、スターリンがレーピンの複製画を自邸に飾り、おそらく外交にも用いたことは、ソ連の支配者がレーピンを人民の画家、社会主義リアリズムの規範としてのみならず、帝政ロシア時代と同様、「宮廷画家」としても認識していたことを示唆している。

II.《ザポロージャのコサック》の第二の複製画

2016（平成 28）年 3 月 10 日と 10 月 13 日に調査したふたつ目の複製画（図 5）は、松岡洋右が満鉄総裁であった頃に、偶然にも満鉄職員がおそらく満洲で入手したものである。満鉄総裁となる前に衆議院議員であった松岡を全権代表として、日本が国際連盟を脱退した 1933（昭和 8）年に、海軍大将加藤寛治（1870-1939）の紹介で、日本橋大伝馬町の綿染糸卸商の創業者である小原政吉の子息、小原省吾郎は満鉄に入社した。省吾郎は加藤大将の四男、加藤仁の親友であった[註 12)]。昭和 9 年と 10 年の満鉄職員録には、鉄路総局総務所附業課職員「小原省五郎」という名前が記載されている[註 13)]。鉄路総局は奉天に置かれ、「委託經營に屬する鐵道、港灣、水路竝其ノ他之ヵ附帯事業ニ關スル事項ヲ掌理」していた。その附業課は「一　産業ニ關スル事項、二　土地及建物ニ關スル事項、三　地方施設ニ關スル事項」を掌る部署である[註 14)]。

図 5　作者不明《イリヤ・レーピンの「トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック」の複製画》1919 年、油彩・カンヴァス、個人蔵

図６　図５の裏面

図７　イリヤ・レーピン《夕べの宴》1881 年、油彩・カンヴァス、国立トレチャコフ美術館

現在、複製画は東京都世田谷区にある漆喰天井の純洋式客間を備えた旧小原省吾郎邸にあり、親族が所有している。親族によれば、複製画は戦前から邸内にあったということなので、省吾郎自身が満洲から持ち帰ったものと推定される。

カンヴァスの大きさは縦 85 センチメートル、横 105 センチメートル、原作の右側の部分を欠いた約５分の２の縮図である。極めて状態が悪く、支持体には穴も開いていて、裏から見ると、下から５分の１の部分でカンヴァスを縦に接いでいる（図６）。表面の下辺中央付近には、「с Репина / Коп. веснымъ 1919」（「レーピンからの／複製　1919 年春」）と記され、制作されたのは 1917 年のロシア革命に続く内戦の最中であったことが判る。接がれたカンヴァスも、状態の悪さも戦渦による物資不足によるものであろう。輪郭に黒が多く用いられ、画面全体が原作よりも暗くなっている。特に人物の顔は隈取のようになっているが、出来の悪い複製写真に基づいて描かれたからかもしれない。

美術品としての価値はともかく、降伏を勧告する圧倒的な敵に対して、コサックたちが辛らつな嘲笑を込めた手紙で応じるという主題から想像力を働かせることを許して貰うならば、この複製画は、内戦で革命側の赤軍にシベリアまで追われた白軍の下で描かれたのではないか。実際、白軍は旧ロシア帝国軍やコサック軍から形成されていた。そして、レーピンは皇帝ニコライ２世の複数の肖像画を描いた画家でもあった。

満洲に居住していた白系ロシア人、つまり、革命後ロシア国外に亡命した非ソヴィエト系旧ロシア帝国民は 10 万人に上り、1934（昭和９）年には哈爾濱に白系露人事務局が設置された[註 15)]。省吾郎が日本に持ち帰った複製画は、こうした満洲の白系ロシア人から入手したものと推測される。ロシア革命後の内戦の状況を伺わせる資料として、本複製画には歴史的価値があるといえよう。

III. 再発見されたレーピンの《ウクライナ女性》

2016（平成 28）年８月 10 日にその小品を見た筆者は吃驚した。それが、文豪レフ・トルストイが高く評価し、前述の「国立トレチャコフ美術館蔵 レーピン展」にも出品した《夕べの宴》（1881 年、油彩・カンヴァス、114.5 × 185.5cm、図７）の中央で踊るウクライナ女性に関連する作品であることが一目瞭然であったからである。

作品は板に油彩で描かれ、大きさは縦 18 センチメートル、横 9.7 センチメートル、板の厚みは 0.5 センチメートルで裏面の周縁には軽くテーパーがつけられている（図８、９）。

表面に描かれているのは、ウクライナの民族衣装に身を包んだ若い女性の上半身である。絵の状態は極めて良好である。頭部は点描風の筆致で、向かって右上からの光に輝く女性の顔の造りを的確に捉え、首に輝く三重の首飾りと衣装は大胆な筆致でハイライトと陰影を描くことで、それらの形態を伝えている。とりわけこの点描風の筆致は、1880 年前後のレーピンの作品にしばしば認められ、《クールスク県の十字架行進》（1881-1883 年、油彩・カンヴァス、178.0 × 285.4cm、国立トレチャコフ美術館）やその習作にも見られる。衣装は右辺の縁まで描かれていない。背景は濃い鶯色の地に数輪の赤い花

図８　イリヤ・レーピン（推定）《ウクライナ女性》1880 年頃、油彩・板、個人蔵

図９　図８の裏面

と緑の葉がぼんやりと描かれている。右下には「И. Репинъ」(「I. レーピン」) という署名があるものの、年記は無い。

裏面にも大きく、鉛筆で「Репинъ」(「レーピン」) と記され、また、楕円形の印が押されている。その印の下半分は不鮮明であるが、上半分は「ГОСУДАРСТВЕНН□□」(「国立」) と判読でき、その中央には所蔵番号と思われる「Г 5527」という記号が手書きされている。額縁には文字情報が無く、日本で後補されたものかもしれない。

《夕べの宴》の中央の女性像の習作としては、国立ロシア美術館が所蔵する素描《エヴドハ・フサリヴナ（グサリヴナ）》(1880 年、コンテ・鉛筆・紙、33.0 × 24.0cm、図 10) が本作品に近い[註 16)]。前者の女性像は本作品に比べやや斜めを向き、頭に布を巻き、首飾りの形が異なっているが、その鼻や口、堅い表情、左腕を下げて右手を腰に当てる姿勢、右上腕の衣装の装飾、そして黒い前掛けが共通している。また、《夕べの宴》と本作品の頭部を比べると、前者は笑みを浮かべて、長い髪を赤いリボンでまとめて華やかさを加えているものの、前髪と耳飾りが似ている[註 17)]。つまり、本作品は《エヴドハ・フサリヴナ（グサリヴナ)》と《夕べの宴》を結ぶ作品と考えられる。

図 10　イリヤ・レーピン《エヴドハ・フサリヴナ（グサリヴナ)》1880 年、鉛筆・紙、国立ロシア美術館

これらのすべてを勘案して、筆者は本作品を 1880 年頃に描かれたレーピンの真作と推定する。横浜美術館が所蔵する坂田コレクションの《ロシアの少年》(1883 年、油彩・板、55.0 × 45.2cm) に続く、国内 2 点目のレーピンの現存作品となる[註 18)]。

ところで、本作品は陸軍省新聞班に所属した軍人、今村嘉吉 (1887-1941) の旧蔵品であり、自邸の玄関に飾られていたという。今村は 1929（昭和 4）年に陸軍記念日の最初のポスター《三月十日は國の記念日》の原画を描いた当時、陸軍省軍事調査班の少佐であった。その任務の大半は国内外の視察であり、現地の様子や視察に訪れた要人の写真撮影をすることも多かったという。1930 年代半ばには、新聞班に異動した後も陸軍省のポスターの原画を手掛け、大佐にまで昇進した[註 19)]。残念ながら、本作品入手の経緯は不明であるが、今村の経歴と時代背景から、前述の複製画と同様に満洲を経由して請来した可能性が高い。

本報告では、国内で見出されたレーピンの複製画 2 点と真作と推定される 1 点を紹介した。それらは、政治家、民間人、軍人という立場の異なる人物が介在しながら、いずれもが、ロシア革命から第二次世界大戦終戦までの期間に、シベリア、満洲を経てもたらされた可能性が高い。これらは、絵画に限らない、当時の日本とロシア、ソ連間の文化の伝播を象徴する現象に他ならない。

註

1) 籾山昌夫「グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察――旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究の一端緒――」、『松本瑠樹コレクション　ユートピアを求めて　ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム』東京新聞、2013 年、162-165 頁。籾山昌夫「グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察の展開――旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究（2)」、『神奈川県立近代美術館年報 2013』(2015 年 3 月) 50-52 頁。籾山昌夫編『「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究」報告書』神奈川県立近代美術館、2016 年。

2) 2008 年 5 月の K 氏と I 氏の御殿場市役所企画部地域振興課宛の書簡による。

3) 松岡洋右伝記刊行会編『松岡洋右――その人と生涯』講談社、1974 年、74-78 頁。

4) 松岡は 11 月 7 日にモスクワの赤の広場で行われたロシア革命十五周年記念観兵式に列席し、スターリンを近くに見た。翌年 2 月 24 日、日本は国際連盟を脱退し、松岡はアメリカを経由して帰国した。同上、438-441 頁。

5) 3 月 23 日にモスクワに到着、モロトフとスターリンと会談。翌日、ベルリンに向けて発ち、27 日から 29 日にわたってドイツ帝国総統アドルフ・ヒトラー (1889-1945)、外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ (1893-1946) と会談。同上、856-860 頁。

6) 同上、872-880 頁。

7) 松岡別荘には、現在も洋右四男の志郎夫妻が居住し、松岡別荘陶磁器館が併設されている。

8) 上掲書、530 頁。

9) 宮内庁三の丸尚蔵館編『ヨーロッパの近代美術――歴史の忘れ形見』宮内庁、1997 年、30 頁。

10) スベトラーナ・アリルーエワ『スベトラーナ回想録　父スターリンの国を逃れて』江川卓訳、新潮社、1967 年、42 頁。この別荘でスターリンは死去する。レーピンはロシア帝国支配下のウクライナのハリコフ近郊、チュフーイウ（チュグーエフ）村の出身で、帝都サンクト・ペテルブルクに出て美術アカデミーに学び、画家として成功した。一方、スターリンもロシア帝国支配下のグルジアのゴリ市の出身で、ロシア社会民主労働党による十月革命に参加して、ソヴィエト連邦共産党の成立に関与してウラジーミル・レーニン (1870-1924) 没後に権力を掌握したため、同じような地方出身の成功者としてレーピンに共感していたと言われる。事実、1936 年にはモスクワのトレチャコフ美術館で、翌年にはレニングラートのロシア美術館で大規模なレーピン展が開催される一方、ソヴィエト連邦人民委員会議芸術問題委員会議長プラトン・ケルジェンツェフ (1881-1940) は 1936 年 5 月 19 日にスターリンとモロトフに書簡を送り、「とくに素晴らしい I. レーピンの展示作品」に比べて「ソヴィエトの時代を特徴づけるかのような多くの作品のレベルの低さ」を訴え、上記 2 館での 1920 年から 1925 年の作品の撤去を進言している。当然、スターリンの意を汲んでのことであろう。ボリス・ワジモヴィチ・ソコロフ『スターリンと芸術家たち』齋藤紘一訳、鳥影社、2007 年、43-44 頁。

11) 原彬久編『岸信介証言録』中央公論新社、2014 年、70-71 頁。編者註を除いて引用した。松岡と岸の故郷でもある山口県にロシア共和国大統領ウラジーミル・プーチンを迎えた安倍晋三内閣総理大臣は岸の孫である。

12) 小原の親族の元にある掛け軸の昭和 8 年 5 月 10 日付け函書きによる。

13) 『職員錄　昭和九年九月一日現在』南満洲鐵道總務部人事課、1934 年 (NDL: 14.1-134)、470 頁。『職員錄　昭和十年十二月一日現在』南満洲鐵道總務部人事課、1936 年 (NDL: DH22-523)、291 頁。尚、満鉄の組織変更によって、鉄路総局は満鉄本社に吸収された。『社員錄　昭和十二年九月一日現在』(南満洲鐵道株式會社總裁室人事課、1937 年、NDL: DH22-523) に小原の名前を見出すことはできない。

14) 「鐵路總局規定」『職員錄　昭和九年九月一日現在』9-10 頁。

15) 藤原克美「白系露人事務局の経済機能と財政」、『Север』第 25 号 (2009 年 2 月) 32-39 頁。生田美智子「白系露人事務局―ハルビンにおける活動を中心に―」、『Север』第 27 号 (2011 年 3 月) 5-20 頁。

16) この素描の左下には「1888 4-e c」(「1888 年 9 月 4 日」) と記されているが、それは後に画家自身によって誤記されたものである。Grigory Sternin, intro., *Ilya Repin: Painting · Graphic Arts*, Leningrad: Aurora Art Publisher, 1985, p. 257.

17) リボンと首飾りの華やかさという点では、ベラルーシ国立美術館が所蔵するレーピンの《籬の傍のウクライナ女性》(1876 年、油彩・カンヴァス) が想起される。

18) レーピンの板絵は稀であるが、制作年の近い横浜美術館所蔵品も板絵である。尚、これ以外の国内にあったレーピンの作品については、辻永旧蔵の《士官の肖像》が戦災で失われた可能性が高く、大正時代に大蔵公望男爵が請来した《婦人像》は、1961（昭和 36）年に大阪の住友電工から盗まれ、所在不明である。籾山昌夫「日本におけるイリヤ・レーピンの受容史」、『神奈川県立近代美術館年報 2010』(2012 年 2 月) 55-57 頁。

19) 田島奈都子「陸軍省における広報戦略――陸軍記念日のポスターの製作を中心として」、『Intelligence』16 号 (2016 年 3 月 31 日) 65-83 頁。レーピンもまた、10 歳で故郷チュフーイウ（チュグーエフ）村の陸軍地形測量学校で製図と素描や水彩画を学んだ。陸軍での絵画技術は必須であった。

新収蔵作品：玉村方久斗の板絵連作について

橋 秀文

はじめに

玉村方久斗（1893-1951）は、京都に生まれ、最初、日本美術院展に出品し、上京してから前衛的な絵画集団に属しながら大正、昭和にかけて次々と革新的な絵画を発表し続けた日本画家である。2007（平成19）年、鎌倉館にて「玉村方久斗展」を開催してその異色の画家の画業を紹介した。その後も当館ではこの作家について調査研究を進め[註1)]、2015年には、方久斗による板絵の連作を購入する機会を得た。方久斗による板絵は、材質や形状の点で軸や屏風とは異なり、さらに今まで方久斗の板絵制作そのものが殆ど知られることのなかった点でも貴重なものと思われる。本論では、玉村方久斗の芸術におけるこの連作の位置づけを試みる。

4枚の板絵連作の由来

本作品は、表裏に絵が描かれたほぼ同寸の板4枚がまとまった形で収蔵された。一目見てそれらが連作であろうことは推測できるが、主題やイメージなどから制作年や展示の順番を決めるのは困難である。その形態から、欄間絵として制作されたものであることは確かなようだ。ただ、もともとどこに飾られていたのかは分からない。家屋の取り壊しを経て、その後、市場の交換会に出されたと思われる。この板絵連作が4点ですべてだったのか、それとも他に同じ形の板絵が数枚存在した可能性もある。このように、現段階では不明点が多いことを踏まえて描かれた主題、さらに制作年について考察して、これらの板絵について解明してみたい。

4枚の板絵の片面は岩絵具により同質の筆致で表現がなされている。もう一方の面は、白描に近い描写がなされている。これは、一部屋の欄間の四方に設置されて、内側と外側で表現が異なっていることを示しているのであろうか。または、部屋と廊下を仕切る欄間が4枚並んで飾られていた可能性もありうる。いずれにせよ、方久斗は、軸や巻子、屏風のみならず、家屋を装飾したであろう欄間絵のような板絵まで手がけていたことが分かる。

4枚の板絵を検討するにあたり、仮の番号（A、B、C、D）を付けて話を進めたい。色彩豊かな岩絵具による描写の側面を表面とし、墨画と金銀泥や白描の混合による描写の側面を裏面とする。表面のうち牛が暴れている場面の絵が2枚あり、連作か対になる作品だと考えられる。その2枚のうち貴人の群衆が描かれている方をAとする。Aの裏面には、川の中で男女が対峙している情景が素描で描かれている。次に二頭の牛が暴れているものをBとする。Bの裏面には、草叢の中にいる2人の人物が描かれている。残りの2枚のうち、従者に絹笠を掲げられている貴人の絵をCとし、背中を向けうつ伏せになっているような平安朝の着衣姿の女性が描かれているものをDとする。Cの裏には山並みが、Dの裏にも山と海辺の風景が描かれている。

以下、これらをA-表（図1）、A-裏（図4）、B-表（図2）、B-裏（図3）、C-表（図5）、C-裏（図8）、D-表（図6）、D-裏（図7）とする。4枚の岩絵具による板絵の寸法(表面イメージのみ)は以下の通りである。

A：28.4×155.0cm、B：28.0×154.5cm、C：28.2×154.6cm、D：28.5×154.6cm

主題について

売り立て目録では、これらの板絵連作は〈伊勢物語〉と題されている。確かにこの説話から採られていると思われる場面も見受けられる。しかし、板絵がすべて『伊勢物語』から取材されているといえるほど確たる裏づけはない。

確かに4点の板絵のうち、A-裏左下とB-裏右上に「善山画」の印章が認められる。先述した2007年の展覧会の出品作で「善山画」の印章が認められるのは、1926（大正15）年の《宇津の山路（伊勢物語より）》（No.10）[註2)]と1925-27（大正14-昭和2）年の《芥川之図》（図9・No.7）のみである。2点とも『伊勢物語』から取材されたものである。そのため、新収蔵の板絵も『伊勢物語』を表した可能性がある。例えばB-裏の絵には、『伊勢物語』第12段に描かれた武蔵野の草叢の中に潜む男女（「武蔵野は今日はな焼きそ若草のつまもこもれりわれもこもれり」という和歌が歌われた情景）ではないか。

B-裏のほかに『伊勢物語』との関連性を考えたとき、C-表にそれが見出せるかもしれない。方久斗の好む宮廷人の表現を考慮すると、『伊勢物語』や『源氏物語』などの古典文学から着想を得ている可能性はある。C-表に見られる宮廷人と傘を組み合わせた描写は、1928-29年の《源氏物語》（No.53）や1933-42年頃の《芥川之図》（No.95）[註3)]などにも見られる。これら貴族の描写には、俵屋宗達の扇面屏風などからの学習も垣間見られる。玉村方久斗の古典研究に対する調査は、今後の検討課題といえよう[註4)]。

C-表の傘を従者に差させて前を行く宮廷人のイメージは、『伊勢物語』の第83段に描かれた、雪深い比叡山麓に隠棲する惟喬親王を訪問する馬の頭なる翁の姿を思わせる。この場面描写では、奈良絵本の『伊勢物語』（室町時代）や勝川春章の『風流錦絵伊勢物語』（図10）などが知られている。おそらく方久斗はこうした歴史的作品から学ぶところが大きかったのであろう。C-表の貴人を馬の頭とするならば、傘に積もり、足元にも見られる白いものは雪であろう。その雪は、D-表の画面では多くの部分を占めている。

しかし、A-表、B-表では、牛が暴れまわって人々が慌てふためいている画像が描かれている。こうした情景には、『伊勢物語』を通観した限り見当たらない。『伊勢物語』を中心に据えて描こうとしたというよりも、どちらかというと方久斗は、視覚的なイメージとして過去の作品から着想を得たように思われる。暴れ牛のイメージは、高山寺所蔵の《鳥獣人物戯画》（図11）などから学んだものかもしれない。彼は、古典を参考にしながら自身の思い描いた平安朝の世界を、この板絵に再現しようとしたと解釈するのが自然であろう。

描写という点では、A-表とB-表が暴れ牛の主題で繋がっていたように、CとDの表面も連動しているとも見られる。C-表の右の貴人が馬の頭だとするならば、Dの女性はだれなのか。右と左の画面が関連性を持つと仮定した場合に気になる点は、裏面C、Dの風景をつながりで眺めた時に、D-表を右、C-表を左にした方が、連山から漁村へとより自然な流れになって移行していくことである。そのように考えると、CやDと関連する別の板絵が存在するという仮説も生じてくる。

制作年について

では、これらの板絵連作はいつ頃制作されたのか。制作年は、A-表とC-表の右上、B-表とD-表の左下に押された落款印章から検討して昭和初期のころと推定できる。この印章は、昭和初期の作品に多く見受けられる。1927-28（昭和2-3）年の《奈良の手向山神社》（No.30）、1927-28年の《厳島参詣図》（No.47）、1928-29年の《源氏物語》（No.53）、1928-29年の扇子絵の《竹取翁》（No.68）などが同一印の作例としてあげられる。

また、1930年1月27日から6月21日まで東京朝日新聞に連載さ

れた細田民樹の小説『真理の春』挿絵のための下図に押された印章（図12）とも一致する。玉村は「方久斗社」を同年秋に結成し、「第一回方久斗社展」を9月18日から30日まで東京府美術館で開催している。

C-裏とD-裏に描かれた連山や漁村といった景色は、1929年の《瀟湘八景―漁村夕景》（No.44-4）の漁村の網を干している情景や、1928-29年の《連山雲海図、山峡漁舟図》（図13・No.73）に呼応する描写となっている。作例からこの印章は1927年あたりから1930年ころまで方久斗によって使用されたものと推測しうる。1930年以降にこの印章を使用した例は今のところ認められない。それゆえ、この4点の板絵の制作年は、「善山画」の印章のことも重ね合わせると、1925年から1930年の間に制作されたものと推定できる。

玉村方久斗にとっての歴史的・文学的主題の意味

大正期の新興美術に参画した時の方久斗が、どこまで自身を日本画家として意識していたかどうかは今なお見解の分かれるところである。彼の言葉によると、1930年に入って自身の日本画団体「方久斗社」（翌年から「ホクト社」と表記される）を創設するにあたり、「私は一時此日本画壇から行方不明の如きに泳ぎでてしまいました。而も今私は感ずるところあって、再びもとの古巣否古巣の隣に新店を開き始めました」[註5)]と述べている。院展に出品しなくなった1921年あたりから1930年までの約10年間は、方久斗にとって創作活動の実験の時代でもあったといえよう。しかし、その後の彼の日本画と称するものは、以前の院展時代のもとは全く違った方向に向かっていた。そして日本画という言葉が曖昧なものとして誤解を招くことを恐れたのか、方久斗は1930年の方久斗社展のころには、日本画という言葉を避けて、膠彩（こうさいが）画、油彩画といった画材による区分けの仕方を用いた。日本画を即物的にとらえようとする彼の考え方をよく示している。そして、この時期にもこの4点組の板絵のような歴史的・文学的主題の日本画を描き続けていたのである。

前衛的な作品を制作しながら、古典文学に取材した絵を描いてきた方久斗も方久斗社を立ち上げた頃から、現代的・風俗的な主題をより多く扱うようになっていった。それを文学離れと見るべきかは定かではない。1932年ころに《竹取物語絵巻》を描いていることからも、全く文学的な主題を捨てたわけではなかった。ただ、以前に比べ物語性のある古典的な主題が漸次的に少なくなっていったのである。

大正から昭和初期にかけて、特に革新的な創作活動を行い、大正期新興美術の運動に日本画家として唯一参加したとされる方久斗は、1925年の第1回三科会員作品展で日本画とは思えない、現在のインスタレーションのような構成物も展示していた[註6)]。同時期の1923年には、絵巻物の《雨月物語》（No.6）も制作している。研究者によっては、どちらが玉村のやりたいことだったのかと考えるのも当然であろう。前衛的な作品を創作しながら、食べるために伝統を踏まえた日本画も描いたととらえることもできよう。ただ、昭和初期に「方久斗社」を旗揚げした頃には、現代風の主題を取材し始めながらも、伝統的な日本画を描くことをやめなかったのは確かである。本稿で扱っている板絵連作は、1923年の《雨月物語》（No.6）絵巻や1926年の《道成寺》（No.8）屏風と関連した、玉村方久斗特有の日本画と位置付けることはできるであろう。

結び

今まで多くの人にとって玉村方久斗の板絵を見る機会は限られていた。本作は4枚の板絵ということで、おそらく以前、どこかの家屋に欄間絵か何かとして構成されていたものと考えられる。依頼による制作と推察されるとはいえ、この作品は方久斗の創作活動における表現の多様性をよく示しているように思われる。彼の特徴であるスピード感に満ちた勢いのある筆致が、臨場感あふれる場面作りに役立っている。和紙に描くのとは異なる板絵に対する初めてに近い試みの高揚感が見る者にも伝わってくるようだ。

ただし、統一されたテーマはその板絵に見出せない。『伊勢物語』から着想した情景も一部見出せるが、すべてに関わってくるとは思われなかった。その上、板絵の組みを構成する上で、板絵が4枚以外にも存在するのではないかという考えが浮かぶ。 他にC-表やD-表のイメージを補完する一連の板絵があったのではないか。

この4枚の板絵の存在は、日本画に回帰しようとした方久斗の新たな側面をわれわれに見せてくれる。この作品において、日本画家としてごく当たり前に用いてきた紙本や絹本といった支持体とは異なる、板という物質に描くことから生まれる鋭さや硬質感がみられるマチエールの面白さに、今までに見たことのない彼の特色を見出すであろう。

大正末期から昭和初期に至る玉村方久斗の絶頂期といっていい時期の板絵という、彼にとっては特殊な表現形式のこの作品に、彼の豊饒なる創作活動の痕跡がよく示されていることにあらためて気づかされる。

この大きさの板絵が4枚だけで家屋の一部屋を飾り切ったとは思えない。新たなる板絵の存在が明らかになる日が来るかもしれない。

註

1) 拙論「玉村方久斗のグラフィック的表現の意味」『神奈川県立近代美術館2009年度 年報』、2011年3月、47-48頁。及び拙論「三科会員展時代の玉村方久斗」『西周の肖像』展図録、2013年1月、64頁参照のこと。

2) 付された番号は『日本画改革の先導者　玉村方久斗展』図録（2007年　神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館）の出品番号を示す。以下方久斗作品に付す番号は同図録からのもの。

3) 《芥川之図》となっているが、女性を4人の男が守ろうとしていることから実は《竹取物語》から取材されたことがわかる。

4) 菊屋吉生は、古典的な画家として玉村方久斗が《伴大納言絵詞》の作者とも伝えられる土佐光信の怪異性（グロテスク）を意識し、共感していたと論じている。菊屋吉生「日本画家としての玉村方久斗―新出作品を中心として」『大正期新興美術資料集成』、2006年、国書刊行会、542-545頁を参照。おそらく、玉村は幅広く多くの古典に精通していたことであろう。

5) この言葉は、玉村方久斗の「方久斗社宣言」のなかの一節である。この宣言は、「大衆芸術」1930年第一巻第六号を参照。

6) 前掲書（2007年）161頁掲載の挿図「第1回三科会員作品展《工業と衛生との芸術への記念塔》」などを参考のこと。なお、これらの挿図の出典は、五十殿利治『大正期新興美術運動の研究』（スカイドア、1995年3月初版）による。

図 2　玉村方久斗　B- 表　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

図 1　玉村方久斗　A- 表　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

図 4　玉村方久斗　A- 裏　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

図 3　玉村方久斗　B- 裏　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

図 6　玉村方久斗　D- 表　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

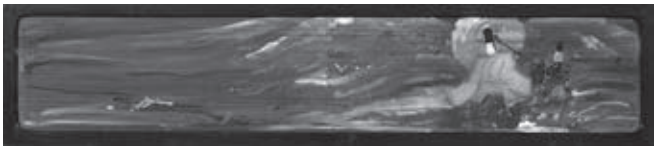


図 5　玉村方久斗　C- 表　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

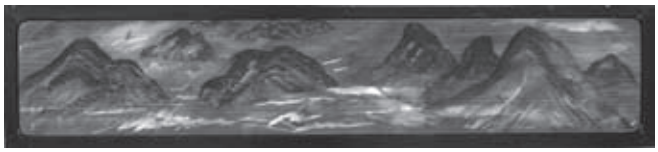


図 8　玉村方久斗　C- 裏　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

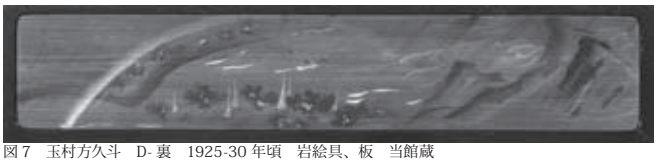


図 7　玉村方久斗　D- 裏　1925-30 年頃　岩絵具、板　当館蔵

図 11　《鳥獣人物戯画》（丁巻・部分）高山寺蔵

図 12　玉村方久斗『真理の春』（細田民樹）挿絵のための下図

図 10　勝川春章『風流錦絵伊勢物語』の挿図

図 9　玉村方久斗《芥川之図》 1925-27 年　絹本着色、金泥、軸装　山口県立美術館蔵

図 13　玉村方久斗《連山雲海図、山峡漁舟図》紙本墨画淡彩・金泥　二曲一双屏風（額装）星野画廊蔵

調査研究の発表・執筆等

1）当館開催展覧会にともなう調査研究・発表
展覧会図録・リーフレットへの発表：計 24 件（「展覧会活動」pp.5-23 参照）
外部媒体への発表：
・李 美那「望郷／亡郷　日韓美術家の「朝鮮」」、水沢 勉「第 3 部、コメントと意見交換『美術家の現実』交わらない視線の彼方に」『20 世紀前半、二重空間に韓国に生きた日韓の美術家たち：国際フォーラム：報告書』、「日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く」展研究会、2015 年 4 月、pp.30-37、45-54
ほか 6 件
2）所蔵作品および館内活動に関する調査研究・発表
外部媒体への発表
水沢 勉「『鎌近』という遺産」『NACT review 国立新美術館研究紀要』No.2、2015 年 12 月、pp.324-325
3）その他の調査研究・発表
外部媒体への発表
・水沢 勉「空の水底 フランシス真悟の色彩について」『フランシス真悟 作品集 虚空と現象のはざまへ 2004-2014』、里文出版、2015 年 3 月、pp.9-12
・三本松倫代［解説］（共著）『内藤礼 1985-2015 祝福』、millegraph、2015 年 10 月、pp.265-273
・橋 秀文「山本正道の優しさの秘密」、ギャラリー長谷川・長谷川空間創造：編『山本正道彫刻展』、ギャラリー長谷川、2015 年 11 月、pp.7-9
・長門佐季「斎藤義重＜ボオパン＞をめぐる一試論」『Fuji Xerox Print Collection』No.48、2016 年 2 月、pp.3-8
・李 美那「『多面的な複数性』の共有―自在な呼吸であるために」『美術館はいかにグローバルになれるのか？ CIMAM2015 年次総会東京大会報告書』、CIMAM2015 年次総会東京大会実行委員会、2016 年 3 月 25 日、pp.221-224
ほか 11 件

外部資金の活用

1）外部資金を活用した調査研究
「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究」（平成 27 年度科学研究費助成事業）（基盤研究 C：研究代表者 籾山昌夫）
2）外部資金を活用した展覧会・事業
「国際シンポジウム 複層―日韓美術家たちのまなざしが開く新たな地平」（公益財団法人ポーラ美術振興財団　美術に関する国際交流助成）
「日韓近代美術家のまなざし―『朝鮮』で描く」展（公益財団法人ポーラ美術振興財団　美術に関する国際交流助成）

「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備

李 美那

2014（平成 26）年 7 月、神奈川県は橘川雄一氏より、神奈川県立近代美術館における彫刻作品の整備を目的とした 3,000 万円の寄附を受け、神奈川県教育委員会の管理する「神奈川県まなびや基金」に組み入れた。この彫刻整備は寄附受入から 5 年間のうちに行うことが条件となっており、計画的な活用を目指し、2015 年度は 3 件 4 作品の整備事業を行った。

「神奈川県まなびや基金」は、神奈川の県立学校などの教育環境向上のための自主財源確保を目指して 2009 年度に創設された基金で、寄附金やその運用益金を財源としている。

1）若林奮《地表面の耐久性について》の組立設置

作者：若林奮（1936-2003）
作品名：地表面の耐久性について
制作年：1975 年
材料：鉄、塗料
設置後の寸法（cm）：550.3 × 183.0 × h.45.5（地表部分 30.0）
施工業者：株式会社 東京美術工芸社
作業内容

本作品は、1975 年に購入後、長らく館内で保管をしていたが、2012 年度に外部委託による修復をし、葉山館正面玄関横の屋外に設置することになった（修復については『年報 2012 年度』p.30 参照）。材質はすべて無垢の鉄に、緑色の合成樹脂系塗料が施されている。鉄板、三角柱、台形柱、半円筒、ブロック、杭など、大きさ、重量の異なる、総計 2,739kg にもなる多数の要素で構成されており、屋外の地面を掘り基礎上に杭を打ち込みながら組み合わされて完成する。

今回の設置は、1975 年の「第 6 回現代日本彫刻展」（宇部）以来であり、当時、作家によって行った設置写真、資料をもとに作業を行った。7 月 13 日から 28 日に基礎を含め設置を行い、8 月 13 日にキャプションを取付けて作業を完了。2015 年 8 月に開催された「若林奮 飛葉と振動」展にあわせて公開した。

1　基礎上に作品設置開始

2　杭打ち

3　現況　撮影：山本 糾

2）眞板雅文《天地の恵み》の輸送、組立設置等

作者：眞板雅文（1944-2009）
作品名：天地の恵み
制作年：2003 年
材料：ブロンズ、鉄スチール、石
寸法（cm）：
ブロンズの竹：50.0 × h.370.0　アンカー：30.0　基礎スチール板 2 枚：直径 200.0、120.0
設置後の寸法（cm）：350.0 × 375.0 × h.390.0
施工業者：株式会社 東京美術工芸社
作業内容

本作品は、2015 年度に作家の遺族から寄贈を受けたのを機に、保管されていた倉庫から葉山館へ移動。必要な基礎部材制作及び、取付けと補強処置を施した上で、葉山館散策路脇に設置した。今回の設置は、作家生前に行ったミラノの「アリエ国際彫刻展」（2008 年）と大原美術館での屋内展示（2003 年）以来であり、設置場所によって大きさも変わる作品であるため、過去の展示写真を参照しつつ、作家遺族立会いのもと、所定の場所に最もふさわしい作品にすべく最終的には館長が判断を下した。竹の節の中に別鋳した蝉が取付けられているが、この蝉は複数鋳造されており、作家存命中は現場ごとに適切なものが選ばれ取付けられていた。今回は、作家のアトリエに残された 2 つの蝉のうち 1 体（w2.0 × h3.7 × d2.8cm）を取付けた。高さ 4 メートル近い作品を安全に恒久設置するために、基礎との接合部分の補強を行い、海岸に位置する当館の屋外展示を可能にした。6 月 11 日に倉庫から搬出、7 月 13 日から 28 日に基礎を含め設置、8 月 13 日にキャプションを取付けて作業を完了。若林奮作品と同時期に公開した。

1　基礎

2　基礎上の基盤に本体設置

3　現況　撮影：山本 糾

3）砂澤ビッキ《樹頭》《TOH》の輸送

作者：砂澤ビッキ（1931-1989）
作品名：樹頭
制作年：1983 年
材料：楢
寸法（cm）：30.0 × 25.0 × h.173.0
作品名：TOH
制作年：1985 年
材料：楢
寸法（cm）：68.0 × 60.0 × h.277.0
輸送業者：旭川通運株式会社
作業内容
　遺族からの寄贈を受け、保管場所である北海道旭川から葉山館収蔵庫へ輸送した。

1 《TOH》 撮影：山本 糾

2 《樹頭》 撮影：山本 糾

講師派遣・外部委員等就任

1）講演会講師等派遣（当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣）

実施日	内容	会場	主催／共催	派遣者
2015 年 4 月 21 日	韓国歴史文化講座コリアンカルチャーサロン	神奈川韓国会館	公益財団法人神奈川韓国綜合教育院	李 美那
2015 年 6 月 17 日	東京新聞フォーラム「戦後 70 年と美術館」	日本プレスセンターホール	東京新聞	水沢 勉
2015 年 7 月 25 日	「金山康喜のパリ―1950 年代の日本画家たち」展記念講演会	世田谷美術館講堂	世田谷美術館	橋 秀文
2016年2月27･28日	21 世紀ミュージアム・サミット「まちとミュージアムが織りなす文化―過去から未来へ―」「神奈川県立近代美術館と鎌倉」、「ミュージアム・サミットから未来に向けたメッセージ」	湘南国際村センター国際会議場	公益財団法人かながわ国際交流財団	水沢 勉
2016 年 3 月 19 日	目黒区美術館ワークショップ	目黒区美術館	目黒区美術館	伊藤由美

2）外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	公益財団法人ポーラ美術振興財団	助成事業選考委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会委員
	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	東京藝術大学	客員教授
	広島県立美術館	広島県立美術館評価委員会委員
	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	理事
橋 秀文	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館作品評価委員会委員
	横浜市	横浜市美術資料価格評価委員会委員
	山口蓬春記念館	山口蓬春記念館美術品評価委員
籾山昌夫	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
	鳥取県美術展覧会運営委員会	鳥取県美術展覧会審査員
李 美那	公益財団法人五島記念文化財団	美術新人賞候補者推薦委員

運営・管理報告

概況

1）沿革

昭和 26 年 11 月 17 日 神奈川県立近代美術館として開館
昭和 41 年 3 月 31 日 収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和 44 年 3 月 31 日 学芸員室を増設
昭和 49 年 8 月 1 日 神奈川県立近代美術館組織規則（昭和 49 年神奈川県教育委員会規則第 9 号）により、管理課、学芸課の 2 課を置く
昭和 59 年 7 月 28 日 別館を開館
平成 3 年 10 月 30 日 本館の改修工事完了
平成 13 年 7 月 5 日 PFI 事業契約の締結
平成 15 年 6 月 1 日 神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の 3 課体制となる
平成 15 年 10 月 11 日 葉山館を開館
平成 28 年 1 月 31 日 鎌倉館の一般公開を終了
平成 28 年 3 月 31 日 鎌倉館閉館

2）所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3）施設の状況

ア	土地			面積
	県有	（葉山館分）		15,034.8㎡
		※生涯学習課管理		
		（鎌倉別館分）		4,937.0㎡
	借用	（鎌倉館分）		4,243.1㎡
			（うち有償分）	1,547.2㎡
			（うち無償分）	2,695.8㎡
イ	建物			延床面積
	県有	（鎌倉館分）	面積	2,435.0㎡
		（鎌倉別館分）	面積	1,599.0㎡
	借用	（葉山館分）	（有償分）	7,111.51㎡

PFI 事業の概要

1）事業内容

PFI 法に基づいて、PFI 事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を 30 年間で事業者に支払う。PFI 事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

ア　葉山館建設業務：葉山館新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
イ　維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理（修理を含む）、清掃、警備、受付・監視など
　　鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理（修理を含まない）、清掃、警備、受付・監視など
　　※鎌倉館の業務は借地期限の平成 27 年度までとする。
ウ　美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ、駐車場）運営
エ　備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

2）事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ
所在地：横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-2
（落札した企業グループが設立した事業会社）

収入・支出の状況

収入

科目	金額（千円）	内訳
行政財産使用料	220	鎌倉館喫茶建物使用料等
使用料	85,601	観覧料収入
財産収入	18	財産売払収入
立替収入	1,822	レストラン他光熱水費
雑入	22,232	図録販売等
教育受講料収入	354	県立機関活用講座
計	110,247	

支出（人件費含まず）

科目	金額（千円）	内訳
維持運営費	56,734	維持管理
美術館事業費	81,929	展覧会開催費
調査研究事業費	358	調査研究資料購入
教育普及事業費	1,054	教育普及事業
美術作品整備費	15,001	美術作品購入・修復
特定事業費	416,252	PFI 事業費
県立機関活用講座開催事業費	291	
教育施設維持修繕費	448	施設・設備修繕
近代美術館鎌倉別館改修工事基本実施設計費	423	
計	572,490	

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和 42 年 3 月 20 日
条例第 6 号

（趣旨）

第 1 条　この条例は、神奈川県立近代美術館（以下「美術館」という。）の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第 2 条　近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色 2,208 番地の 1 に設置する。

（職員）

第 3 条　美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（観覧料の納付）

第 4 条　美術館に展示している美術館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度別に定めることができる。

3　前 2 項の観覧料は、前納とする。

（観覧料の減免）

第 5 条　前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

（1）　教育委員会が開催する行事に参加する者

（2）　教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。）第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者

（3）　その他教育委員会が適当と認めた者

（観覧料の不還付）

第 6 条　既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

（資料の特別利用）

第 7 条　美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（利用の制限）

第 8 条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

（1）　この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

（2）　他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

（3）　施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

（4）　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（委任）

第 9 条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

1　この条例は、昭和 42 年 4 月 1 日から施行する。

2　神奈川県立近代美術館条例（昭和 26 年神奈川県条例第 46 号）は、廃止する。

附　則（昭和 50 年 12 月 27 日条例第 58 号抄）

1　この条例は、昭和 51 年 4 月 1 日から施行する。（後略）

附　則（昭和 55 年 12 月 23 日条例第 60 号抄）

1　この条例は、昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。（後略）

附　則（昭和 58 年 12 月 21 日条例第 41 号抄）

（施行期日）

1　この条例は、昭和 59 年 1 月 1 日から施行する。ただし、（中略）第 8 条の規定は公布の日から起算して 8 月を超えない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

附　則（平成 4 年 12 月 22 日条例第 62 号）

（施行期日）

この条例は、平成 5 年 1 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条及び第 5 条から第 9 条までの規定は、同年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2　第 1 条、第 3 条、第 4 条及び第 10 条から第 12 条までの規定の施行の際現に申込みを受理しているものに係る神奈川県立音楽堂、神奈川県立相模湖漕艇場、神奈川県立体育センター、神奈川県立県央地区体育センター、神奈川県立西湘地区体育センター、神奈川県立武道館、神奈川県立

スポーツ会館若しくは神奈川県立相模原球場（以下「神奈川県立音楽堂等」という。）の利用又は平成５年１月１日から同年３月31日までの間の神奈川県立音楽堂等の利用（相模湖漕艇場の艇庫の利用については、平成５年１月１日から同年３月31日までの間にその利用を開始し、かつ、その引き続く利用期間が平成５年４月１日以降にまたがる場合の当該平成５年４月１日以降の期間における利用を含む。）に係る使用料については、これらの規定に規定する各条例のこれらの規定による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成13年３月27日条例第22号）

この条例は、平成13年４月１日から施行する。

附　則（平成15年３月20日条例第43号）

この条例は、公布の日から起算して６月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

（平成15年５月教育委員会規則第10号で、同15年６月１日から施行）

附　則（平成19年１月30日条例第３号）

この条例は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成20年１月25日条例第１号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成21年３月27日条例第25号）

この条例は、平成21年７月１日から施行する。

別表（第４条関係）

区　分	個　人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	１人につき　250円	１人につき　150円
20歳未満の者（高校生を除く。） 学生（65歳以上の者を除く。）	同　150円	同　100円
65歳以上の者	同　100円	同　100円
高校生		

備考　１　学生とは、法第１条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第１項に規定する各種学校に在学する者をいう。

２　学齢に達しない者並びに法第１条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正（平成15年６月１日施行）し、従来の管理課・学芸課の２課体制から、管理課・企画課・普及課の３課体制となった。平成27年４月１日現在の職員配置状況は次のとおり。

館長（学芸員）――副館長（管理課長兼務）

- 管理課　常勤６＋再任用１＋非常勤３
  人事、財産管理、予算経理、観覧料徴収など
- 企画課　常勤３＋再任用１（普及課と兼任）＋臨任１＋非常勤４
  美術作品の収集・保管、調査研究及び展覧会の企画・実施、美術情報システムなど
- 普及課　常勤３＋再任用２（うち企画課と兼任１）＋臨任１＋非常勤６
  美術に関する教育･普及に関する調査研究及び展覧会の企画･実施、美術図書の収集･保管･閲覧、学校教育等との連携など

職員数合計　30人

常勤12人、再任用３人、臨任２人、非常勤13人

施設別配置状況

葉山館　　21人〈常勤７人、再任用２人、臨任２人、非常勤10人〉

鎌倉館　　９人〈常勤５人、再任用１人、非常勤３人〉

職員一覧

館長（非常勤）	水沢　　勉		
副館長	鈴木　　豊		平成27年5月31日まで
	井上　　宏一		平成27年6月1日から
管理課	課長（兼）	鈴木　　豊	平成27年5月31日まで
	課長（兼）	井上　　宏一	平成27年6月1日から
	副主幹	田中　　博	平成27年5月31日まで
	副主幹	佐藤　　正俊	
	主査	野村　いく子	平成27年5月31日まで
	主査	奈良部　康則	平成27年6月1日から
	主査	沼田　　洋子	
	主事	田口　真利子	
	管理業務主任専門員	石井　　渉	平成27年6月1日から
	管理業務専門員	小野　　和子	
	管理業務専門員	山崎　　崇	平成27年6月1日から
	非常勤事務補助員	小神　　敏行	平成27年5月31日まで
	非常勤事務補助員	渡邊　　伸子	
	非常勤事務補助員	森　　祐子	平成27年12月4日まで
	非常勤事務補助員	二藤部　　映	平成27年12月17日から
企画課	課長（兼）	橋　　秀文	
	主任学芸員	李　　美那	
	主任学芸員	長門　　佐季	
	学芸員	西澤　　晴美	
	臨時学芸員	朝木　　由香	
	臨時学芸員	彦根　　延代	平成28年1月21日から3月15日まで
	非常勤研究員	伊藤　　由美	
	非常勤学芸員	酒井　　一有	
	非常勤学芸員	荒木　　和	
	非常勤事務嘱託	浦　　日出夫	平成27年9月30日まで
	非常勤事務嘱託	平戸　誠一郎	平成27年10月1日から
	日々雇用職員	小山　　涼子	平成27年12月5日から平成28年1月11日まで
普及課	課長（兼）	橋　　秀文	
	主任学芸員	籾山　　昌夫	平成27年6月1日から普及チーフ
	主任学芸員	三本松　倫代	
	主任学芸員	髙嶋　雄一郎	
	臨時学芸員	土居　　由美	
	非常勤学芸員	松尾　子水樹	
	非常勤学芸員	川人　　未来	
	非常勤学芸員	児矢野あゆみ	
	〔美術図書室〕		
	図書業務専門員	山中　久美子	
	非常勤司書	藤代　　知子	
	非常勤司書	小川　さよ子	
	非常勤司書	大野　　寿子	
	非常勤司書	伊藤　千賀子	平成27年9月8日から平成28年3月31日まで

年報　2015（平成 27）年度

発行日：2017 年 3 月 31 日

編集・発行：神奈川県立近代美術館
葉山　〒 240-0111　三浦郡葉山町一色 2208-1　電話 046-875-2800
鎌倉別館　〒 248-0005　鎌倉市雪ノ下 2-8-1　電話 0467-22-5000
http://www.moma.pref.kanagawa.jp

制作：リーヴル

ANNUAL REPORT 2015
Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2017
Produced by Livre
©The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2017